

30-476

河村有頂著



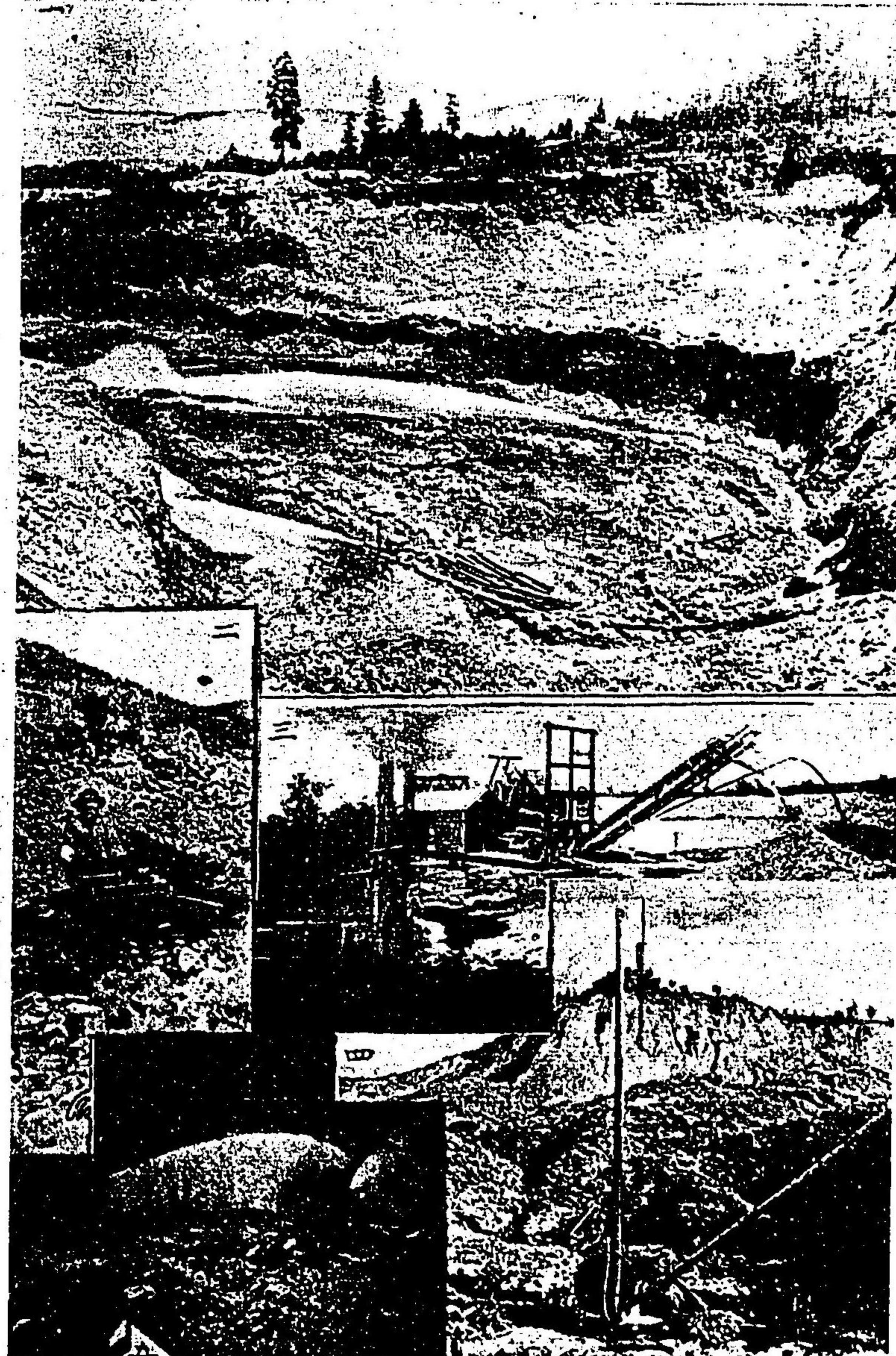
禁本事業案内

東京

博文館藏版

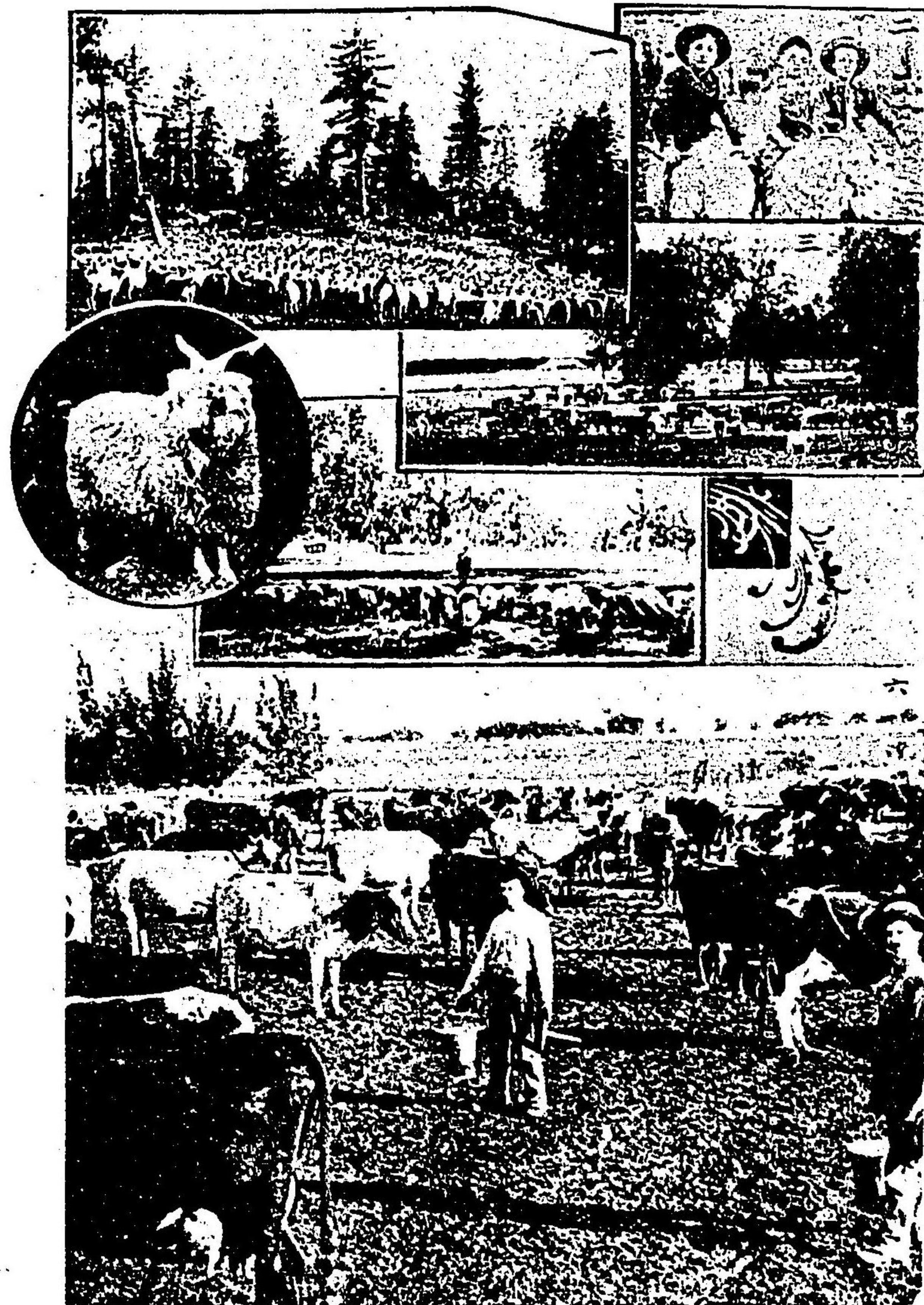
明治
39 10 5
内空

砂 金 鑛



(一) 動水砂金採掘(西北部米に於ける) (二) 舊式砂金採集法(比に於ける) (三) 泥漿(底水の砂金を得る) (四) 砂金(南オレゴン) (五) 新式
式砂金採集法(比に於ける) (六) 採集砂金の人一に爲し得る

場 牧



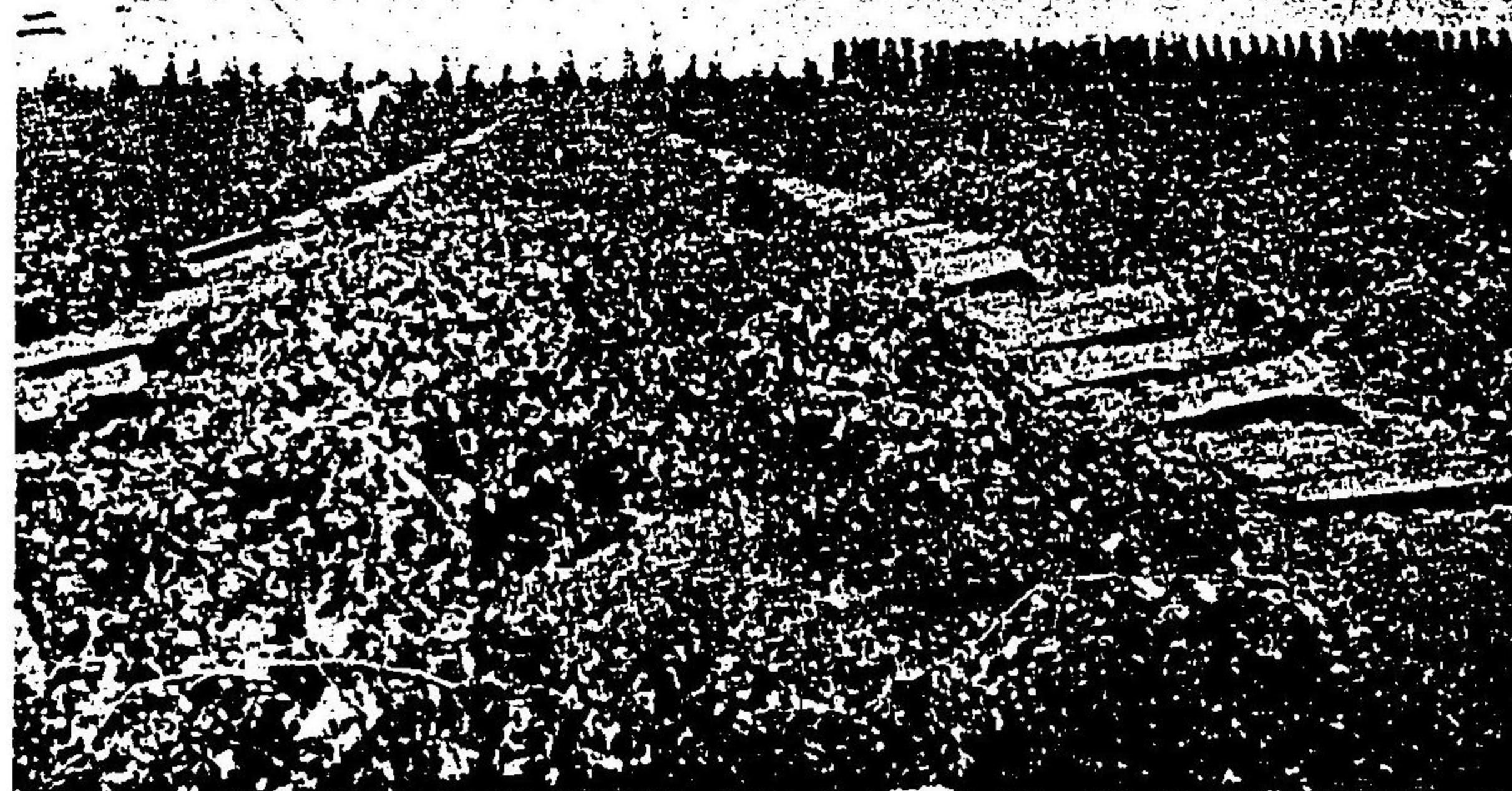
桑〔三〕(るけ於に加南)羊山と兒小〔二〕(羊山し但)場牧の州加南〔一〕
の羊山〔五〕(の米北部西)場牧の羊〔四〕(牛の食料し但)畜牧の港附
(の近附ントクマス)牛乳〔六〕(也憐可る願)月ヶ一十

業 林



ゴレオ)業作出伐の利水〔二〕(るけ於に州ントンシツ)業林の式舊〔一〕
も今〔四〕(るけ於に州ンゴレオ)業作出伐の式新〔三〕(るけ於に州ン
(るけ於に等アンミカイツ、ナタンモ)業伐採材用るあいつれば行

二の園農



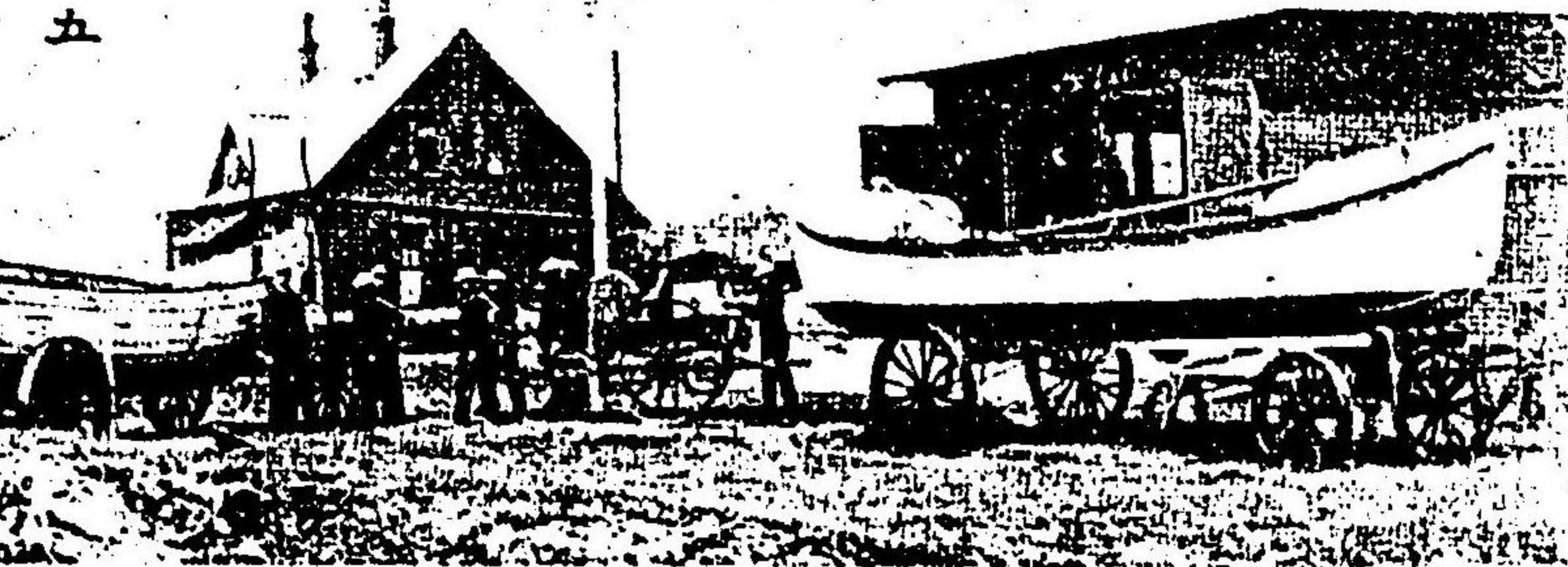
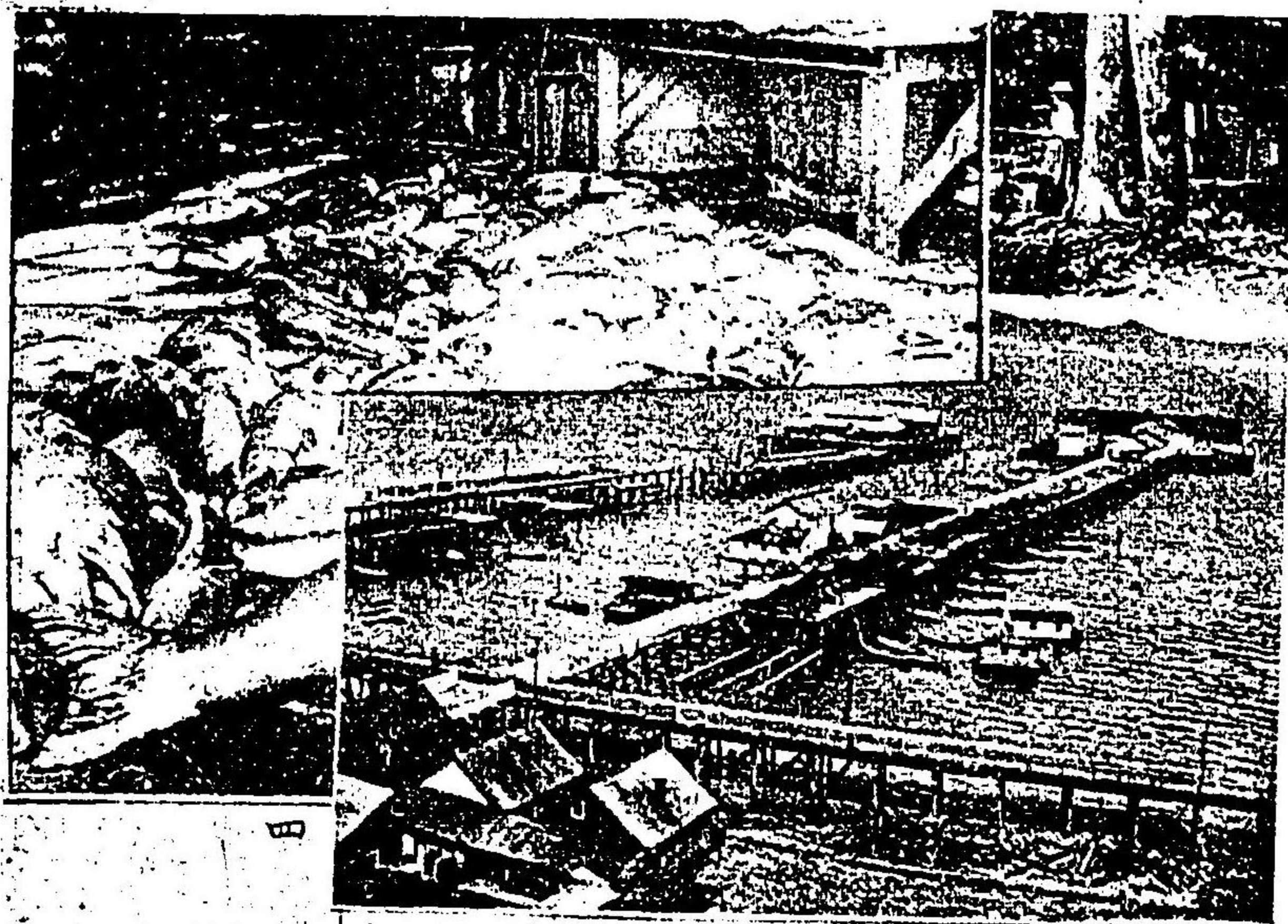
〔三〕(の園一ノスレフるな名有)園葡萄〔二〕(事仕穫收)園ブツハ〔一〕
(るけ於に加南)景全の園果

一の園農



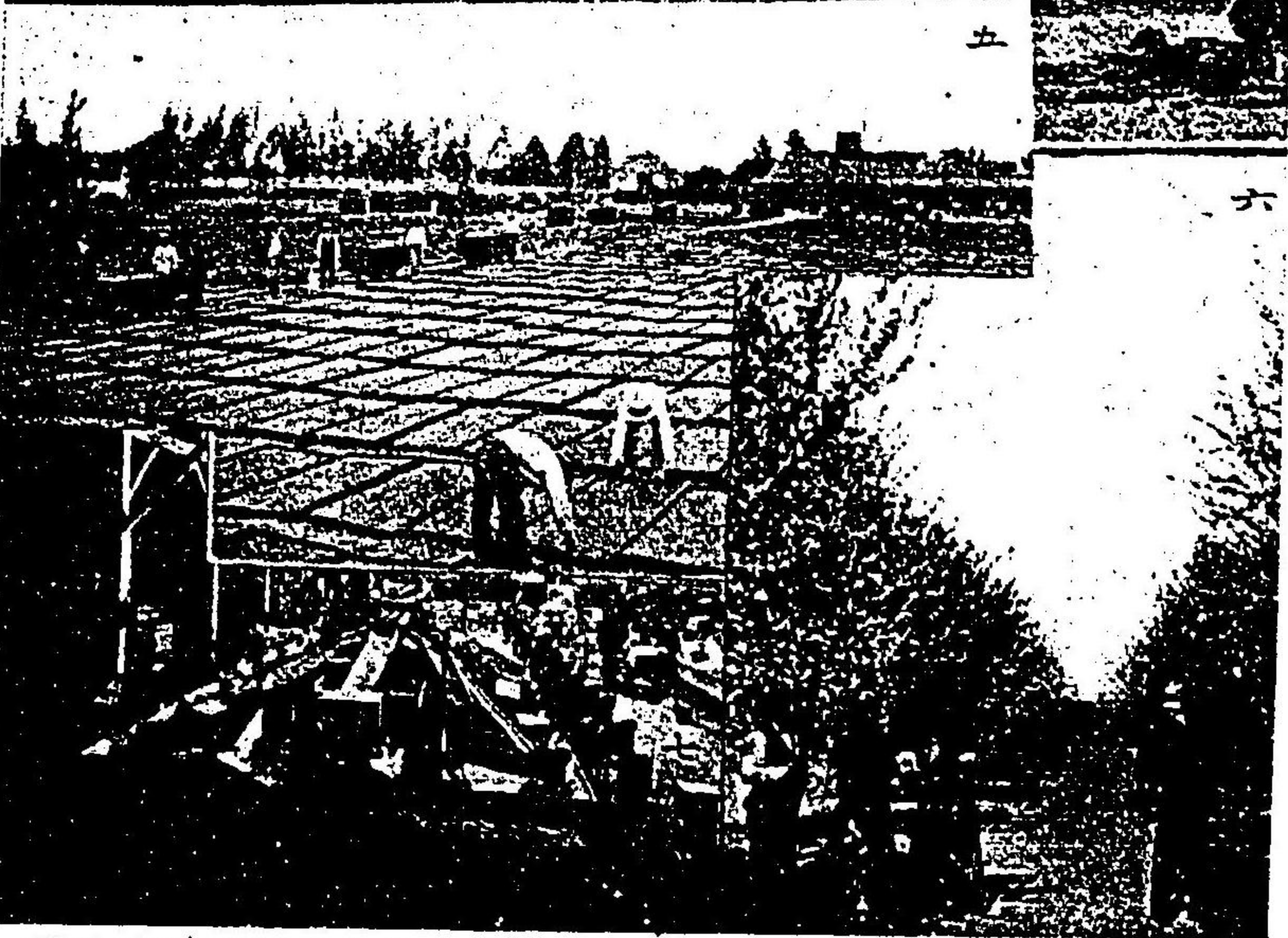
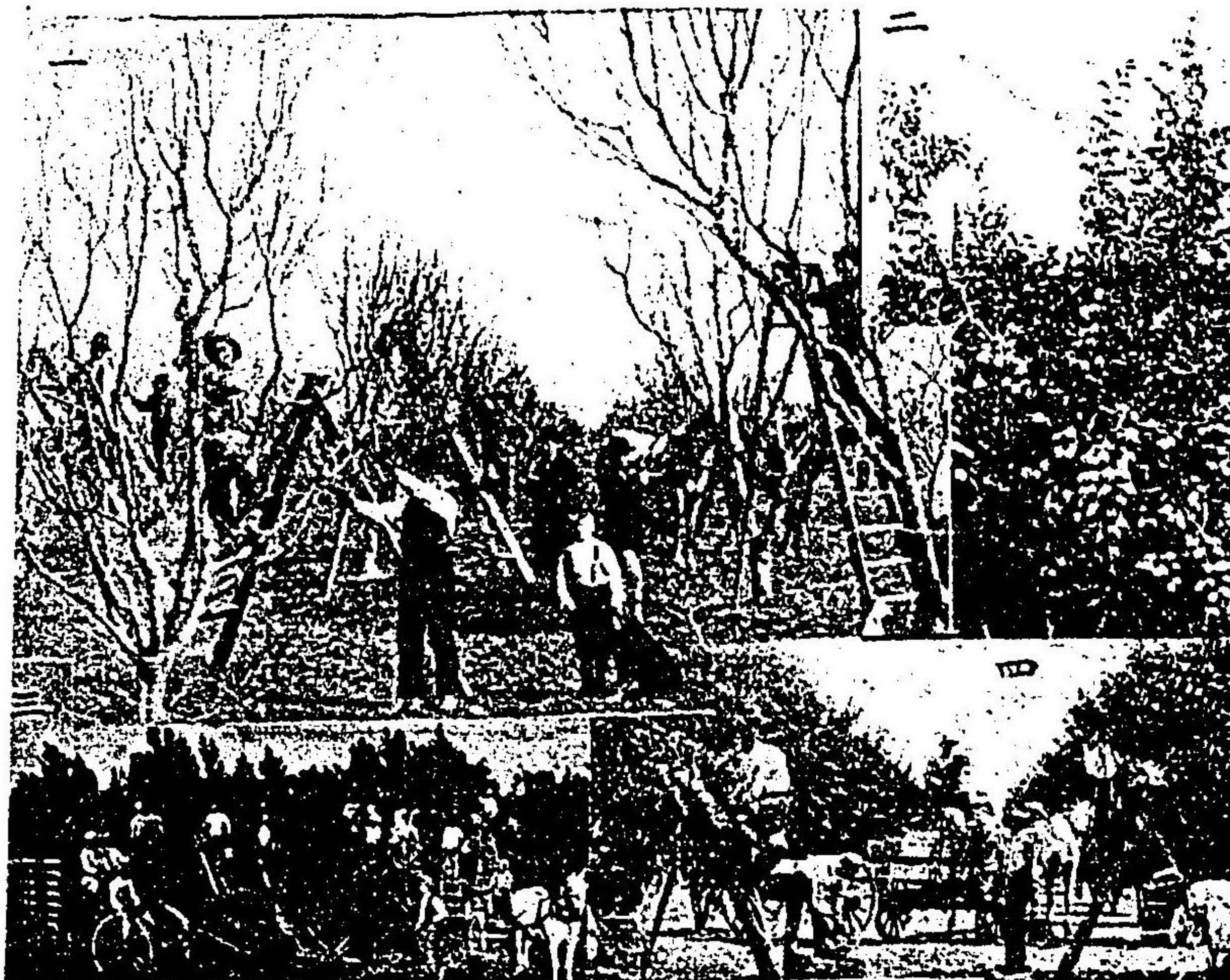
の爺老るて立)作上の麥小〔二〕(るあいつり歸へ家我替日)車荷穫收〔一〕
是のしるなクイオウイへ訓所)事仕蔵貯糧馬〔三〕(しべす較比せ併と長身
(圖の上引)上同〔五〕(しべる知と中穫收ち則)車馬穫收〔四〕(也

業 漁



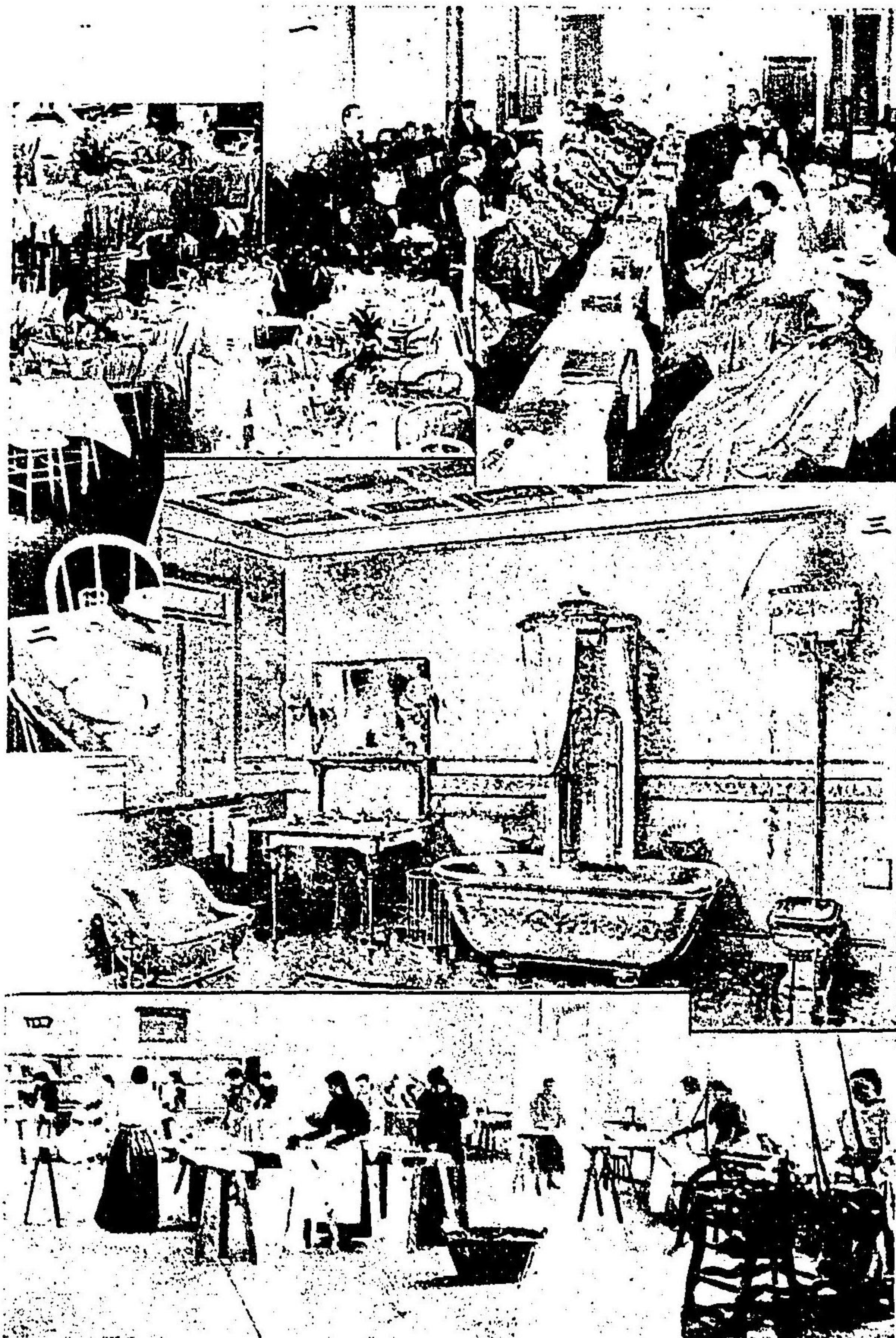
場工詰纏) 場り切首の鮭 [二] (るけ於に中在滞地鮭漁北極) 君妻の長船 [一]
將 [四] (りな河てしすらあに海は面前し但) 橋棧の場工詰纏 [三] (るけ於に
雪りれ終は詰纏) 備準の上引 [五] (湊輻貨百立林橋帆) 加斯刺亞の節期鮭漁
(すとんら來に

三 の 園 農



梨洋 [三] (すとむれ折に將枝) 作豊の横檻 [二] (事仕れ入手) 園子李 [一]
事仕場乾の實果 [五] (事仕獲收其) 園橙 [四] (るたり終を事仕の日一) 園
但) 事仕結箱の横林 [七] (開滿し但) 園杏旦巴 [六] (るけ於に園一州加)
(の後ろたみ包てに紙々個し

市 内 雜 俎



(一) 散髪所(カミヤ) (二) 食堂(レストラン) (三) 浴室(バスタブ) (四) 洗面(シンク)

自 序

サン、フランシスコは覆没せり。是西部北米の首腦にあらずや。落機以西の合衆國が之に因つて負けたる無形の打撃は當分復舊の望み無かるべく、あらゆる事業機關の如き差當り死滅の狀態に陥る事なきかと、謂は尤な心配である。

全市崩壊、死傷幾千。罹災當時の我東京諸新紙に依りて傳へられたる激震現狀の電報は、何人も亦悚然として寧ろ之に事實の以上を讀むたものである。水道鐵管は先づ破烈して消火の道は既に盡きたるに、則ち瓦斯管の碎破に因つて火はれたる火は家を甜め、人を甜め、孰れ猛威を逞しふして避難者の阿鼻叫喚を包圍したる事なるべく、追想は固より吾人が筆紙の限りに非ざる事無論である。而も之しきの事に假し唯の一日と雖も合衆國の損失を言ひ、打撃を口にし、發展の阻止を説き、滅絶を憂ひ、復舊の見込を恐るゝが如きに至つては聊か米國を識らざる

自 序

者の言であるのだ。

要するに此事實たる孰れに轉むでも間違ひあるものに非ず。大にしては寧ろ其由來たる金門埠頭の名聲に、今回に於ける激震騒ぎの輪をかけて、更に桑港の名實に謂はゞ一新紀元を開くのだ、小にしては却つて現在の勞力拂底を益々甚しからしむるに過ぎないのだ。吾人は先づ理由として之を合衆國の年齒に數へざるべからず。自體小さきものが短き生命に死し、大なるものが長き壽命に終る事は所謂萬有の原則にして、同時に大なるものが外界の侵害に打ち勝ち、小なるものが之に對する抵抗力の薄いのも是亦爭ふべからざる眞理であるのだ。植物に一年草あり、松、杉、檜あり、動物に象あり、人あり、蝶あり、魚に年魚あり、鯨あり、是皆孰れか天賦の體積を標準としての生命にあらざるものは一としてある事なき也。

面積三百六十萬方哩。之を合衆國の年齒に案せむか、生長は未し、勿論此から

の國であるのだ、固より老朽の支那ならば兎に角く、小弱の朝鮮ならば卒ぎ知らず、米土現下の發育状態は血氣横溢却々に胃すべからず、一桑港の震災如きは僅かに是擦過、傷位のものである、壯なる發育期の負傷は三日も経てば藥石の力を假らずして自ら全癒するのが常例ではないか、其處に國と人との健康に區別は無いのだ、徒らに疑悞の念に驅られて之に我渡米の研究を忽せにするが如きは、畢竟杞人の愚に倣ふものである。

猶亦吾人は昨今一部の米人によりて激甚なる排斥の聲を聞かされつゝある。理由とする所、日本移民の成功は直ちに米國勞働者の糊口を奪ひ、惹いては其國家の秩序を危ふし、組織を破壊するもの也とあるのだ。建設は破壊を意味すとやら固より我日本移民の成功は一方に米人勞働者の生活を破壊するかも知れ無い、併し夫れは米土の生産力に限りあつての話でなくてはなら無い。由來勞働力缺乏の爲に永久に埋没されつゝある米土今日の生産力は、現に荷の如き、菓物の如き、

鮭の如き、實に我日本移民によりて其幾分を開發されつゝあるではないか、其處に彼我兩立の出來ない譯は斷じて無いのだ。

假し一步を譲り、彼我勞働者の就業範圍常に同一にして、到底其利害に一致の見込なしとするも、眞に今回に於ける桑港一圓の罹災如きは、則ち天が米國をして先づ自ら破壊せしめ、更に建設すべき事業に向つて、我國人口の過剰より其勞力を假らしむべく、彼の愚昧なる排斥者流の迷夢を破つたものであるのだ。殊に之を我東北地方の急厄に對する現任ル大統領以下米人の厚誼に意ふも、此際我外務當路が渡米者に對し從來の方針を更革すべきは無論、我國民にして苟も心ある者の必ず往いて一臂を假すべき場合である。先方には金があるから金を假す、此方には人があるから人を假す、所謂贈答の道にあらすや。

知るか、七、八萬の失業者。聞くが如くむば是皆全國の壯丁である。巡查あり、監守あり、通信官吏あり、小學校教員あり、會社、銀行員、番頭、店員、職工

30
476

車夫、馬丁等、唯に是等は除隊後約一月位の失業者たるに止まらむも、則ち此米十萬の失業者を所謂の戰士に對するの禮として、各自其舊職に復歸せしめむが爲には、更に七、八萬の失業者を作らざるべからず。惟へ、曩に日清戰爭を経験せし我國民は今又之に日露戰爭を終結せり、果して終結せしか、前役の瘡痕未だ全く癒へざるに吾人は此苦き經驗を再びしなくてはならないのだ。併しながら必ずしも再びするには及ばない事がないでも無い。

渡米問題の我國民の耳目に入りたる、予其年を記さず、又之に記憶するの必要ある事なし。而も大いなる注意を以て吾人に迎へらるゝに至りたるは實に日清戰後の事に屬す、通信に於て、報道によりて、新聞に、雜誌に、將た演說乃至單行の述作に、疾に讀者の知るが如くに、凡そ纏りし物のみにても其數約三十、星霜に於ても既に十年の一昔を過したのだ、今や吾人を以て之を見る、一も問題研究の資としての讀料ある事なき也。

勿論、編者の意其處にあらずとするも、曰く案内、曰く事情、要するに注ぎし著者の心血が原稿料と反比例に讀者に不親切なるは、作品其物が歴然として之を證明する也。彼を逸するに非ざれば之をお留守にし、絶へて全般を網羅する事無く、記す所多くは其一方に偏し、所謂自家職業方面のみに奔り、乃至利を渴く書肆の害欲に利用せられて哀れ編述の筆に著者の精神なきのみか、酷だしきは理を并げ非を飾り、中傷の筆、譏誣の文字、故舊に篤く、情實に流れたるなど、數へ来れば海外通信者乃至怪しき新歸朝者の言責、亦甚だあてにならざるが如き、深く我中央出版界の墮落の爲に予は之を惜まざるを得ないのだ。

無名の著者之に見るあり、憤然自家の閱歴を提げて起つ、此書豈止に亞米利加人足の卒業證書たらずむば幸太矣。胡ぞ苦がき經驗を重ねむとしつゝあるの我同胞に一に何事かを貢獻すと云はむや。

桑港震災の日を過る百日目、東都入谷の僑居生揚にて 編者識

凡例

- 一 本篇は専ら匿れたる、我同胞の北米労働事情を紹介するを旨としてある。
- 一 叙事は細節にかゝはらずして、重に其大本を誤らざらむ事を嚆めてある、故に本書中の杜撰は苟も讀者に迷惑をかけざる事確實である。
- 一 本篇中其怪しき英語は寧ろ英語に非ずして、謂はゞ『我在米同胞労働者語』であるのだ、之を完全なる邦語に譯せむか、却て讀者をして其意義を誤解せしむるの懼れあるもの、則ち其儘にしての英語である、中には「スバニツシユ」「イタリアン」「ラテン」あり、又日本語の包含されて居る事勿論である。
- 一 本著の編纂には別に参考引用の書ある事なし、皆編者の記憶、乃至は其備忘録中のものに非ざれば、孰れ在米故舊よりの近信である。
- 一 事情説明の委曲に就ては、則ち編輯上の遺漏を補足するの責として、著者は

必ず訪問者に面接するを厭は無い。

一 本篇中難解の原語に就ては則ち總論、緒言、目次等を熟讀すれば自ら其意を讀む上に於て聊も差問へなし、故に別に挿譯を施さず。

一 記述する所勿論桑港大震災前の材料によりたる物なるが故に更に之を訂正はしたれど特に市内労働事情の如き幾分の記事撞着の痕を全く絶つ能はず、されど本篇研究の目的に寸毫の損失なき事丈は責任を以て著者の保證する處、徒らに讀者を誤るが如き事斷じてあらず。

北米事業案内目次

總論

労働事情

第一章 屋外労働

第一節 鐵道(人夫)

- 一 労働の種別と労力の程度……………七九
- 二 勞銀と浪費……………八〇
- 三 我同胞の勞力範圍と線路區域……………八一
- 四 労働者と鐵道會社……………八三
- 五 就働中の生活狀態……………八四

★

第二節 鹽田(シホハマ)……………八七

第三節 チャップ、ウード(伐木)……………八九

第四節 ソー、ミール(調材工場)……………九三

第五節 漁業(フビッシ、マン)……………九六

第六節 炭山(コール、マイン)……………一〇四

第七節 鐵山(ゴトル、マイン、シルバーマイン等)……………一一〇

第八節 鐵詰(キャナリイ、ウオーク)……………一一五

第九節 テキサス(合衆國の州名)……………一二四

一 米作と我同胞農夫……………一二六

二 我米作者と米國市場……………一二八

三 菜園經營と我労働者の成功……………一三一

第十節 農園(ファーム)……………一三三

★

一 ハップ(カラハナ草)……………一三七

二 シュガー、ビーツ(糖燕)……………一四〇

三 アスパラカス(松葉獨活)……………一四五

四 プテト(馬鈴薯)……………一四七

五 スウヒート、プテト(甘薯)……………一四九

六 グラッス(芝草)……………一五〇

七 バーレイ(大麥)……………一五一

八 ヘー、ウオーク(馬糧)……………一五二

第十一節 菜園(ウヒジテール、ガーデン)……………一五三

一 ビー(豌豆)……………一五四

二 ビーンズ(蠶豆)……………一五五

三 アニアン(玉葱)……………一五六

★

四	ウエルツシユ、アニオン(葱)	一五七
五	キヤルフラワー(花椰菜)ハナハボタン	一五八
六	パースリー(和蘭芹)	一五九
七	サラダ(生菜)ナマナ	一五九
八	レツチュース(萵苣)チチャ	一五九
九	キヤベージ(甘藍)ハボタン	一五九
十	トマト(赤茄子)	一六〇
十一	ルバーブ(大黃)	一六〇
十二	キュカムバー(胡瓜)	一六一
十三	キヤロット(胡蘿蔔)	一六一
十四	スキヤレット、ラヂッシユ(紅大根)	一六一
十五	ウヒンター、ラヂッシユ(大根)	一六二

★

十六	ターニップ(蕪)	一六二
十七	コーン(玉蜀黍)	一六二
十八	マスク、メロン(甘瓜)	一六二
十九	ワータア、メロン(西瓜)	一六三
二十	グレーブ(葡萄)	一六三
廿一	ブラックベリー(黒莓)	一七一
廿二	スツロベリー(莓)	一七一
廿三	花卉栽培	一七八
廿四	植木	一八〇
第十二節 菓園(オーチャード)		
一	ピーチ(桃)	一八三
二	エブリカット(杏)	一八五

★

三	チェリー(櫻)	一八五
四	アレンジ(橙)	一八七
五	ブルーム(李)	一八七
六	ペーア(梨)	一八九
七	オリーブ(橄欖)	一九〇
八	アップル(林檎)	一九二
九	レモン(黎檬)	一九二
第十三節	屋外労働畢	一九三
第二章	市内労働	一九四
第一節	體力唯一期	一九四
一	ハウス、ウォーク(屋内雑役)	一九三

★

二	ペーカー、ヘルプ(パン屋)	二一九
三	ランドワイ、ウォーク(洗濯屋)	二二〇
四	スールン、ウォーク(酒屋)	二二〇
五	バス、ハウス(湯屋)	二二四
六	シャイン(金磨磨き)	二二八
七	カー磨き(汽車の機關列車等)	二二八
八	フォト、ウォーク(寫真屋)	二二九
九	學校寄宿舎病院等の働口	二二九
第二節	意思疏通期	二二九
一	ナース(子傳)	二三一
二	球場(謂はば矢拾ひ也)	二三三
三	カット、ブレード(パンを切る也)	二三四

★

四 ウヒジテーブル (専ら野菜を始末す)……………二三六

五 デッシュ、ワッシュ (皿洗ひ)……………二三七

六 オイスター、シヨップ (宛然ムキミ屋)……………二三九

七 オフピッス、ボーイ (事務所働さ)……………二三九

第三節 言語万能期……………二四〇

一 アattend、ベル (玄関番)……………二四五

二 チェンバー、ウオーク (寢室掃除)……………二四七

三 ワッシュ、ウインド (窓拭)……………二四九

四 キッチン、ヘレップ (臺所働さ)……………二五二

五 ビュービルボーイ (スクールボーイに似て非なる者)……………二五三

六 スクール、ボーイ (自己の通學を主したる働口)……………二五五

七 ストリア、クリーン (店舗の掃除)……………二六三

★

八 パンツリイ (食品原料保管食器整理掃除役)……………二六四

九 ケビン、ボーイ (船室雑役)……………二六五

十 茶場の働口……………二六六

十一 シガレット製造 (巻煙草)……………二六七

十二 エレベーター、ボーイ (昇降室の運轉手)……………二六七

十三 ハイトン、ハウス、ウオーク (高等の屋内雑役)……………二六八

第三章 特殊労働……………二七〇

第一節 技能向労働……………二七三

一 セールス、マン (賣子)……………二七四

二 プ、キーバー (帳場)……………二七六

三 クラーク (宿屋などの帳場)……………二七七

四 レシビアント (宿屋等の接待役) 二七八

五 ヴァーレー (隨從の仕事) 二八〇

六 バトラ (謂はば住宅向パンツリイ也) 二八一

七 ウエーター (食堂の給仕) 二八二

八 チヴヒヤードボーイ (軍艦の雑役) 二八四

九 カンツラクター (請負者) 二八五

十 パーテンダー (酒場の總取締) 二八六

十一 スチヨージ (クックの總大將) 二八九

第二節 手職向労働 二九〇

一、 ガーデナー (園丁) 二九一

二 フルーツ、バックキング、ウオーク (菓物箱詰働) 二九六

三 アイヨン、ウオーク (製鐵工場) 二九八

四 ミシン、ウオーク (裁縫内職) 三〇〇

五 フォト直し (寫眞の種板直し) 三〇一

六 ボーター (パーテンダーの下役) 三〇二

七 プレーン、クック (見習) 三〇三

八 サード、クック (三番) 三〇六

九 セキン、クック (二番) 三〇六

十 チーフ、クック (大將) 三〇七

十一 スーレン、クック (酒場の) 三一一

十二 船のクック (海上 或は航海中) 三一二

十三 ヘッド、ウエーター (ウエーターの大將) 三二五

第三節 手職向増補 三二六

一 ランドロイ (洗濯職工) 三二六

二	文撰植字印刷工	三三〇
三	大工	三三二
四	表具屋職	三三三
五	パーバー(理髮職工)	三三三
六	店員	三三四
七	縫箱工	三三四
八	仕立職	三三四
九	時計職	三三五
十	靴工	三三五
十一	菓子屋職	三三七
十二	煎餅職	三三八
十三	日本料理職	三三八

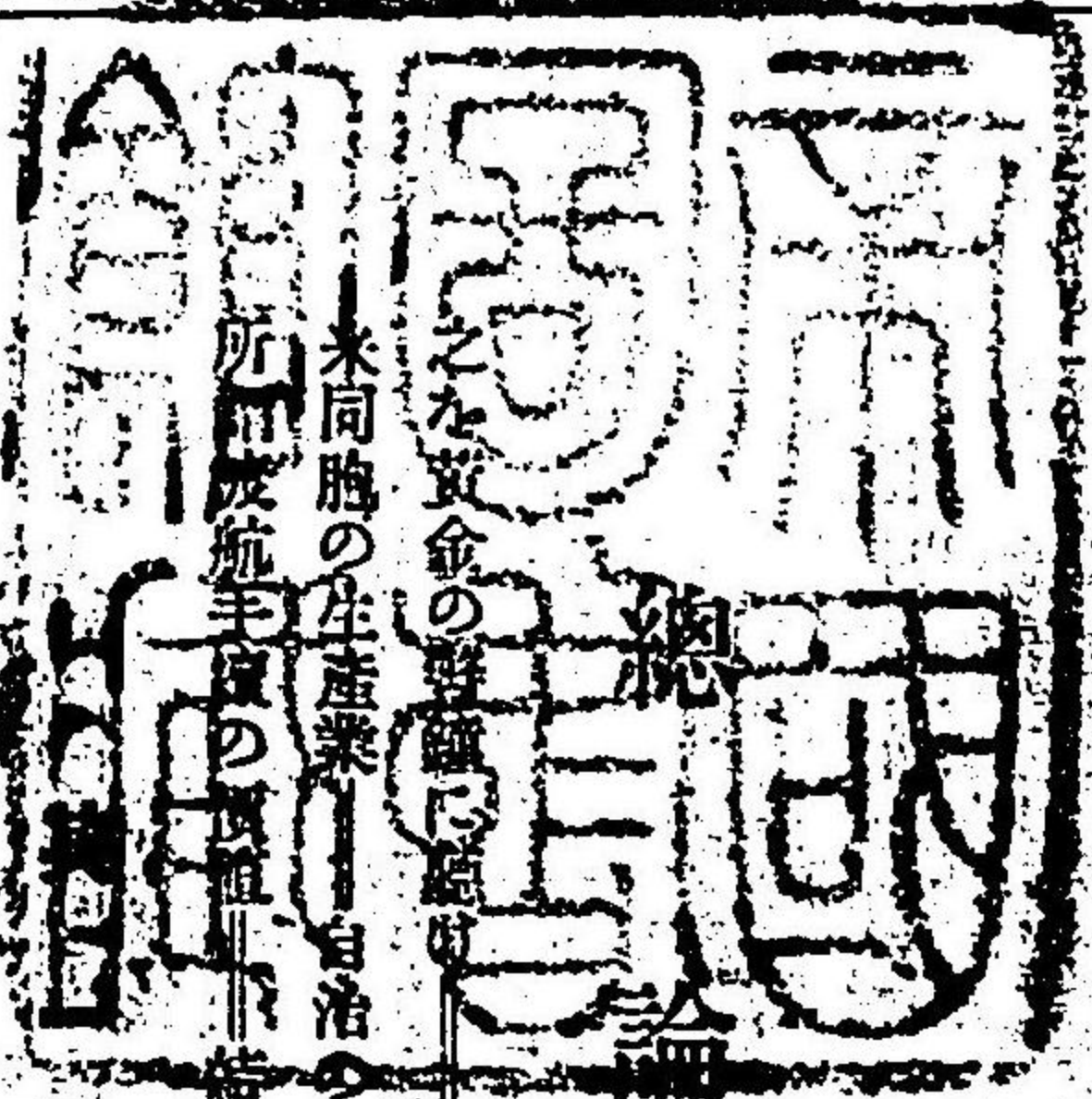
目次

十四	酌婦	三三九
十五	看護婦	三三一
十六	産婆	三三一
十七	藥局生	三三一
第四章	労働篇完結	三三三

本著者 在米四年 親ら勞働に従事し 此篇を得其 經驗上に得たる 智識に就ては訪 問者を俟て何 人にも之を 丁寧に繰返すを 辭せず

最近北米事業案内

河村有頂著



米同胞の生産業——自治の民としての在米同胞——日本人排斥とは何ぞ——我海外思想上に於ける

四百圓とは何である、

黄金の警鐘を其物の値乎。非也、價の謂に非ず、而も一撃して直に能く四百圓の音を發す。暫く吾人に警鐘の言を聴け、

衰弱の夢より醒む可きか、疲勞の眠より起つ可きか。働ても、働ても、一生其

總論

うだつの上
る時が来た
のだ

★ 税の上る見込の無かりし國民に、自ら睡臉を摩して醒むるの時は來れり。今や皆を決して起つのは過つたのである。

仰がすや、天外の光明を！ 之は彼岸の勞銀である。

働いて、食て、着て、それで樂に残し得られる才が、假に一年の日子を以てしても、實に大枚四百圓と成るのだ。之が單純なる勞力に因つて、婦女子如きにも蓄積され得可き金額と聞いて更に覺すや。昆睡の間に彷徨其一日を空ふすれば、此生に尊き其一日を葬り去らねばならない。爾。吾人は互に相ひ扶けて自ら覺るの要がある。

其二

年額正味四百圓！ 予をして再び此語に及ばしめよ、四百圓とは何である、米貨二百弗の換算也。僅に二百弗と言ふ可からず、實に赤光黄金の名を以て、一枚の聲價能く世界至る處の市場に金融活殺の自由ある、「グレエト、イーグル」の

四百圓とは何ぞや

更に覺めずや
何人にも一年四百圓！

十枚であるのだ。

正味とは何だ

正味とは何である、純粹の收入也。一日三度の洋食に飽きて、一膳の飯に邦貨十錢の價を拂ひ、一杯の日本酒に我凡四十五錢を浪費するの、無方途な日本料理に贅を言ひつゝ、猶ほ餘り有る純粹の收入である。春に一着、夏に一着、意氣な背廣に、細い「パンツ」を新調して、外出の「スーツ」眩しき行樂に、「ホイスキー」を仰り、「シガー」を薫らし、猶ほ餘り有る純粹の收入である。雪の「シート」に眠り、花の「カーペット」に行き、毎夜の「タオル」、毎朝の「カラア」、「カズス」など、此等の洗濯料のみを以てするも、一日の平均、我約三十五錢宛を消費しつつ、猶ほ餘り有る純粹の收入である。釣に浮び、銃を肩にし、球を弄び、劇に伴はれ、藥屋にも親み、病床小使錢をも拂ひ、猶且つ餘り有る正味なる也。

年額とは何である

年額とは何である、日曜日を休み、祝祭日を貰ひ、加ふるに、自身勝手の手休日を要求し、又一箇月中規則として一度位ひの寒胃を差引き、猶ほ且つ残る日

子に由て算し上げたる年額なる也。若夫れ力役の前には人權をさへ無視さるゝ國民あるあらば、昆虫の耳にも之を聞いて果して如何の感かある。

獸は眠らむが爲に食ひ、人は働かむが爲に食ふ。若夫れ食はむが爲に働くの國民ありとせば、眠らむが爲に食ふの獸と相距る幾干ぞや。嗟々、速かに己が地歩を自覺して今や起つ可き時宜にあるの國民はなきか。學生も、商估も、職人も、百姓も、官吏も、土方も、之に所謂る勞力の程度と、其種別とを聽いて、更に其心動かすや。

例外として。船舶、宿屋、寄宿舎等の需用する勞力、乃至は臨時働き等、一日約三圓以上、五圓位迄の勞銀は別に珍からずと雖も、重に家事的勞銀と言へば概ね左の二項の間にあるのだ。

最低額	一日九時間	八〇	一箇年	三九二〇〇	純收入
最高額	一日九時間半	二四〇	一箇年	八七六〇〇	

前者は女子小兒等にも適すべけれど、後者に至ては十人並の勞力を要する。共に衣食住の費は傭主の負擔なるが故に、孰も純收入である。

屋外的勞銀にも除外例として。漁場及季節向き等に需用する勞力の、一日概ね十圓以上、十二三圓迄に賃さるるもの少からずと雖も、是亦た主として其標準は次の二項に往來して居るのだ。

最低額	一日九時間半	二七〇	一箇年	九五五〇	生活費差引残	八三九〇	純收入
最高額	一日九時間半	三、五〇	一箇年	一、二七、五〇		一、三三、五〇	

兩者各 其中より一日四十錢の割合にて、一箇年分百四十六圓宛の衣食實費を差引くの必要がある。而も家は必ず傭主の負擔なるが故に、共に其殘額こそは正味の收入となる譯にして、是亦孰も十人並の體力にて事足るのである。

特に我國にて、工場等の働きに經驗ある者は、意外にも左記項目の間に於て其勞銀を得る事が出来る。

最低額	一日九時間	一箇年	生活費差引残	純收入
最高額	四〇〇〇	二、四〇〇〇〇	二、一〇〇〇〇	二、一〇〇〇〇
	七、〇〇	二、五五〇、〇〇	二、二七、〇〇	

共に一年の生活費として、一日分、一圓廿錢宛の年額四百卅八圓を各差引かざる可からず。而も如上は都て意志の堅固なる、勤儉力行の士を標準としての叙説なるが故に、編者は所謂る四百圓を、倦迄も準繩として、最も確實なる處を則ち讀者に研究して貰はねばならない。

其三

四百圓は愚也。世人は我日本に稼人なる者の年收を知るか。飲まず、食はずに裸の道中で以て、一年の蓄積百五十圓の上に出づる者能く幾人かある。而かも露命は繋がる可からず、食はざる可からず、着ざる可からず、勿論家賃と雖も滞る可からざる也。

妻に内職を命じ、餓鬼を小僧に出し、尼を奉公に賣り、老母に勝手口を賄はし

嘘の如き相違とは何である

め、苟も冗員を淘汰し、利用厚生する事夫れ如斯にして其年收の百分の一たるせめて一圓五十錢丈でも以て正月の雑煮と成し得可きか。依例は犯す可からず。毎年此日には布團を土藏に納めて、暫くは春の寒さに忍ぶの家例と知らずや。郵便切手貯金の臺紙とやは反古にしても、大晦日の蕎麥は食はざる可からず。五厘の金庫、貯蓄の丹精、星の玉の土器は壊しても、砂糖袋の贈答は缺ぐ可きにあらず。惟ふに世智辛きは眞に誰の上であるのだ。

單に労働其處を異にすれば、同じ時、同じ人、同じの仕事、同じの勞力に、斯くも異りたる相違を其勞銀の上に發見し得可きものか、誠に嘘の如き話なる也。町々、嘘の如き生活難裡に唸叫するの國民は、實に之を以て誰の罪とか爲す。所謂る意久地なき者自身の罪乎、土地の罪乎、爲政者の罪乎、國か、時世か、社會組織か、吾人都て之を識らず。

戦争は濟むだ、露には勝つた、「ポーツマウス」非難の聲も、「アドミラル」歡迎

總論

の聲に逢ては立ち處に掻き消された、日比谷の國民大會事件未だ解決に達らずして當面の敵たる内閣は既に倒れた。口を開いて笑ふ人の在らうも知らず、蝸牛角上何事を争ふのである。

我日本刀の
やきばの色
を見よ

大詔一度出で、は、十年を磨せし我日本刀の紫刃の色、三國の干渉なる者に吞まされし當年の恨を如何にして何れの處に閃かした。何で逸する者ぞ、流星光底苦もなく長蛇の難を遼東の野に絶ちしにあらすや。何ぞ況むや雞林をや、手も無く「サガレン」の南半をさへ復舊して、過し四十年來の屈辱までをも雪いだでは無いか。

大使館國、列強一等國、日英新同盟國、皇室に獨帝の駿馬來り、英皇の勳章齎されしにあらすや。國民に米の名士訊ひ「ブルーズヴェルト」の非排斥主義來る。要するに、此役有て吾人が獲得せし利益を仔細に點檢し來らば、眞に一にして足らず。曰く、隨つて富めば、隨つて貧しと、古語は恰も戰勝國民の驕慢を戒むる

者の如くに夫れ然るに非すや。

輕々しく割地償金を云々し、徒らに租借期間の短きを慨き、空く戰時税免除の晩きを嘆ち、妄りに俘虜扶持米の多寡を迄も口にするは、果して彼等の所謂日東櫻花國民の品性乎。迂拙なりにも局に其人を差し措き、苟も不信賴の言動に出づるが如きは、愚痴の最も恐なる者、廉耻を辨へざるの業である、野性の暴露も爰に至て誠に醜陋の極みである。

黃禍論も、道德的大勝利も、對清蹉跌も、國民の虛榮心も、壯丁の失業者乃至何でも構ふ事は無い。之等に善後策としての研究以外は、假し何の理由を以てしても、遂に沈黙を守るのが、吾人に美はしき國民の品性ではないか。此の品性有つて初めて秋霜烈日の威嚴も其處に望み得らるゝのだ。外交に破れて漸くに素町人根性を念ふが如き、到底は戰にも破るゝ所以となるのである。兎に角に其一切が餘りに念とす可きでも無からう。

之を二十七八年戦後の經驗に徴せずや。二億の償金、臺灣の領有、能く那邊に迄國民の焦眉を開いたのである。軍備擴張、新領土の經營、滂漲すれば滂漲せし丈の費目は免れないのである。三十億の償金、沿海州の割地、名は美也と雖も是れとても得た處で、差引餘す處は如上述べたるが如くに、漸くに虚名位のものであるのだ。何で不景氣の社會か、頓に好景氣の社會となられたものぞ。不景氣の聲も餘りに耳慣れては、寧ろ苦痛の度も怪くなる譯で、爾く極つて見れば、一時徒に人の氣を揉ませに來る好景氣を怨めしい位のものだ。

怖る可し。敵は却て本能寺に有らずや。露國が捲土重來の夫れよりも恐る可き強敵は、實に吾人の眼前にあるのだ。此敵と戦て俘虜となれる者之を乞丐と云ひ倒れたる者之を行斃れと云ひ、勝てる者之を泥棒と云ふ。而も勝ち得ず、而も斃れず、而も降らず、而も力盡るに垂々として、猶且つ干戈を續けつゝある者之を吾人の意氣と言ふ也。

我に大敵あるを知るか

第二十世紀の一大人身的賣買所に非ずして何ぞや

一攫萬金と言ひ、濡手に粟と言ふ。是皆な甘い儲け口の譬喩たるに過ぎずして決して實際に望み得らる可き事の謂ひに非ず。假し望み得らる可き事實なるにもせよ、こは勞力に衣食して居る人の口にす可き諺にあらずして、所謂る産業營利の上を下す可き儲話であるのだ。果して然るか、今の世に細民を屠る者は誰ぞ、否寧ろ之は恰好なる盜賊の業であるのだ。

苟も此徒の手に唾して起たば、天下何事か成らざらむ。少くとも、日本の天下丈は儘になるのだ。唾液に濕ひし一指の資本は、能く幾萬粒の粟を攫むに造作も無かる可し。而も此每一粒を一圓宛に、否、相手あらむには二圓を厭はず、三圓をも憚らざる心事に、只管估らむとあせりつゝも、此徒果して幾許の勞銀を天下の農民に酬ひつゝあるのだ。知らずや之は日本の粟である。他人の勞力を盗て天下萬民の食を私し、之に一粒一圓の買人なければこそ、幸に衆怨と府とならざる者は誰ぞ。悲慘の最期なき者は誰ぞ。渠等に蠲穀町と云ひ、堂島と云ひ、共に

人間の生血賣買所に非ずして何ぞや。國民の膏汗賣捌所に非ずして何ぞや、人類の生命取引所に非ざれば、所謂人身賣買所に非ずして何ぞや。爾り、第二十世紀の大なる人身賣買所である。

聞道。肥後米を耕作する熊本の百姓は、甘藷を常食と爲し、其親の死に瀕してのみ特に米を炊きて褥上に勧め、疾ひ遂に起ざらむか、米食其効を奏さざりしを慨くと云ふに非ずや。勿論、渠等と雖も己が額に汗して折角に收穫し得たる肥後米を、其常食としての美味に解釋の舌なきに非ず。唯々我國現下の生活難は、渠等憫む可き細民を騙て、哀れ、米食を藥餌と迷信せしむる底の域に達す。怖る可からずや。敵は露國に非ずして直ちに吾人が飢餓の眼前に横はる。取て食はむには其處に所謂盜賊の干渉が起るのだ。

爾り、吾人は實に今の日本に、長く好景氣の來る莫らむ事を、倦迄も希望する。知るか、好景氣なる者は我々國民全般の上に非ずして、一部分の奸商狡吏に非ざ

若夫勝算なくむに速かに陣形を更むべきか

れば、貪欲飽くを知らざる富豪、若くは例の權門貴戚の上のみに限る事を。相場漁色以外に何の能なき大官、因循姑息以上に何の識なき元勳、畢竟不景氣は常に此徒の上に非ざれば也。今や吾人は内に此盜賊と伍して、外に露國以上の強敵と戦ふ。若夫れ勝算なくんば、吾人は速に其地歩を革めざる可からず。其處に同胞、渡米問題の研究豈止に生活難と休戰條約を訂するの道と言ふか、吾人が戦の膏汗に衣食しつゝある盜賊をも併せて屠り去る所以であるのだ。

其四

讀者は讀者の住する國土の面積を知るか。

一平方哩に大約二千の人口蓋爾として、不景氣の聲に泣き、生活難の苦に咽び猶且つ覺むる所以の道を識らざるの國民あるを知るか。

嗟々、我五千萬の同胞!

僅かに二萬五千方哩の地を擁して、自ら日の出の國と嬉がるの國民あるを知る

★ 日の出の國
は別にあり
と知らずや

か。宜也、燈臺の下は暗し矣。是れ今の吾人に光明なき所以か。税の上らざるも尤也。非じ、燈臺は彼岸にあり。吾人に光明なからでか、税も亦た上らざるを得ざる也。從て日出國も自ら別にあるのだ。

見すや東の方、黒潮を超えて、遙かに新大陸の落機脈、「シエラネヴァダ」の黄金嶺より先づ太陽は吾人の迷夢を照すにあらすや。

吾人の所謂る彼岸とは何である。

十五世紀の末葉に「サンサルヴァトル」の發見された昔は暫く措き、北米太平洋沿岸の十八世紀末は眞に如何なる状態であつた。氣候の温和、艸樹の鬱茂、野に花笑ひ、梢に雫香ばしく、菓實に甘露滴りしと云へる、「サンタモニカ」に始て人跡の及びたる當年の加州も亦た暫く措き、時維西曆千八百四十八年一月十九日！當時水草の民「マアシャル」なる者に由て、今日では誰れ知らざる者なき、例の有名なる「コロマ」在に、青苔に塗れたる黄金の土塊、凡そ小兒の拳大の物一箇發見

せられたる以降、僅々五十年の歴史を有する西部北米今日の状態は、果して之を何と言ふのである。

吾人は其處に沿岸都市の開發を見、文物典章の燦爛に打たれ、社會公德の普及に驚き、自主自由の精神に服し、別に人情、風俗、言語、慣習等の夫れ等は兎も角、渠等の生活に物質の餘裕ある、加ふるに地味と水利の天與！「サンジヨア」の平野豈止に米人の富のみでは無い様な氣がするのだ。

吾人又何ぞ細叙するの時ならむや。

其五

曰く、「シヤツコセン」隊、三百通辨、「ピンブ」筆破落漢、周旋落漢、有志屋、編輯屋、宿屋業者等。勿論、多少の墮落分子はあるが、同時に吾人は在留同胞労働者間に、旺盛なる起業心の現實さる者、精確なる統計に因て、昨千九百〇五年を溯る過去四ケ年間の如き、平均二箇月一人弱の多きを加へつゝあるの近狀に

★ 我同胞労働
者間に起業
心の現實を
見よ

接しては、予の所謂「サンジョアン」の平野、豈止に米人の富としての天興乎」と、此一念が更に益々驕るを覺ゆるのだ。

天父の御園に土着の人の子を追ひし者は誰ぞ。加特立教徒、及宣教師等の眷屬同勢五十餘人に因て繁殖せし殆ど一萬の「ムラト」民族を、苟も約五十年の故郷たる「ロス、アンヘレス」の地より立退かしたる者は誰ぞ。全盛比ぶ者無かりし墨西哥政府當年の勢力を、干戈に訴へて迄加州より驅逐したる者は誰ぞ。未だ墨西哥政府の手を離れて二年を経たざるに、横暴にも「キヤホニア」州の獨立を併呑したる者は誰ぞ、横領せし者は誰ぞ。吾人は一を知れども、二を知らず。三を知り、四を知り、何ぞ之を知ると言はむや。否、寧ろ之を知るを欲せざる也。知るを欲せざるに非ざるも、吾人は更に之を口にするに忍びないのである。歴史は常に繰返す也。我同胞には米人の歴史を以て米人の命運を解釋するの自由ある也。同時に同胞は同胞現下の境遇に覺めて、彼清教徒當年の意氣の如くに

吾人は米人の歴史を以て米人に自家の命運を

開拓するの自由あるを知る乎

自家天職の實行亦た誠に勝手たる可し。曰く、實業獎勵社、勸農起業會社、日米勸業社、土地賣買請負契約周旋所等。同胞の或者は既に先鞭を「ワゴン」の御者臺に揮ひつゝあるのだ。吾人の前途亦た見込なからずや。不知、加州の富、今後に誰を迎ふる。吾人胡爲ぞ消極的に米人と力争すと言はむや。

其六

我同胞労働者の、白人労働者と相拮抗して、米土に積極的力行を續けつゝある者餘りに久しからず。而も僅々十年の上を多くも出でざる星霜を以てして、渠等に今日の生活状態は必ずしも秩序なしと云ふ可からず、組織なしと言ふ可からず、對外権利の解釋所としては第一に協議會を有せり、第二に各自に就て之を言へば自家職業方面の團體を有せり、是れ共に内帑の行政をも併せ掌るもの、微力なりと雖も同胞社會の事に限りては、一面に合衆國の政府正廳に聊か自治精神の貢獻なしと言ふ可からず。

我在米同胞の社會組織は合衆國に對し聊か自治精神の貢獻なしと言ふべからず

故あるかな。自主の念篤き米人は直ちに之に實力を認めて、苟も一事件ある毎に必ず交渉し來る也。予は之を依頼と言はずして實に交渉と言ふ。検事局も、裁判所も、移民官、税關監吏、警察、市廳、銀行、會社、個人と云はず、公人と云はず、孰れからも皆な領事館に持込まずして、唯々協議會に持込み來るのである。蓋し領事館に交渉せむか、『依頼』程にも埒を明けて呉れざれば也。勿論、領事館には領事館事務の權限ある可ければ、より以上の望を持たむは無理ならむも知る可からざれど、要するに、桑港日本人協議會の勢力が、在留同胞に對し、將た米人に對し、何れの場合、何れの事件にも、遙かに領事館を凌ぎつゝあるは、一度彼地を過ぎりし者の、忌憚なく言へば、何人も確かに首肯しつゝあるの事實なる也。

曰く教會、曰く寺院、渠等に之を數來れば、新聞、雜誌、學校、病院、銀行、商店、會堂、俱樂部、球技場等。苟も他人の恩恵に待すして、一に自家の力行より始めたる

形式化した
皇室感念
とは何ぞや

者、其辛楚や實に想ふ可きである。而も渠等に非常の成功と其基礎の一端とを討ねむには、より大なる辛楚はあるのだ。見ずや同情愛憐の心の醇化としては慈惠會を有せり、風紀の爲には婦人「ホーム」なるものをも有せり、名は在留同胞と言ふと雖も、則ち輕舉盲動せざる精神の根底には、新たに一萬有餘弗を抛ちし共同墓地の壯重を有せり、同時に典麗なる祖國精神の如何を渠等の上に究めむと欲せば、逝く年にて可也、來る年にても不可なし、十一月三日に於ける渠等が嚴肅なる言動に徴せよ。但し天長節祝會は五千里外の旅情當に 皇室感念の形式化したる、唯一の現象なれば也。

其七

皇室在て初て祖國ありと云へる、吾人の心事を識らざる者は直ちに言ふ也。西部北米に我同胞の舉行する天長節祝會の如き、一に其勢力の標榜に外ならずと此は方に渠等白人勞働者の眼に映せし天長節祝會ならむも、若夫我同胞にして

胡爲そ示威
を街ふの愚
に出てむや

真に其勢力標榜を事とせむとならば、何ぞ必ずしも例の「メカニックバビリオン」に少からざる「ホール」代を抛て、殊更に示威を街ふの愚に出てむや。利用すべき機會は多々ある也。

「ワシントン」葡萄酒事件の如き、「エレヅエット」在、鐵道工夫被襲撃事件の如き、沙市「レストラント」被營業妨害事件の如き、近くは渠等の繼續事業たる對靴工同盟迫害事件の如き、直ちに起て痛棒を渠等の頭上に食はするの道なきに非ず。同時に自家の實力を信せざるにも非ず。而も同胞の米土に在る者、或程度迄は確に柔順なる事概して如斯今や同胞の本土に在る者、彼等の辛楚に酬ゆるの道として、所謂祖國精神の發揮！ 苟も之に研究の餘地なしとするか。

敵は屠つた、平和は訂された、それは兵火の事である。日常の吾人に干戈以外の争を一々數へ來らば何ぞ限あらむや。前門に虎、後門に狼、内憂外患の怖ろしさは寧ろ自己の職業に對し、三度の箸の上下ろしにも忘る可からざる事のみ

であるのだ、就中、我在米同胞が旺むなる排斥聲裡に神色自若として、孤り柔順なり得るの事態を閑却するが如き、知るか、真に露に勝ちし名譽に負かずと言ひ得可からざる事を。

何が故に我同胞は北米に排斥さるゝか。勿論、同胞排斥の聲なる者は唯に北米のみには止まらず、苟も異人種と勞働力の角逐さるゝ處、其處には必ず排斥の聲があるのだ。南阿・南洋諸島・濠州本土・英領加奈太等、畏く此丈に止まるには非ず。唯夫れ北米に限りては我同胞の勢力の尨大なる丈に夫れ丈、大なる聲を耳にするの己むを得ざるに過ぎないのである、蓋し自己の地歩を堅ふせむが爲には、他を擠排するが如き、寧ろ己むを得ざるに出づる動物の原性、深く咎むる譯には行かまい。漸くにして吾人も亦新米の競争者を、假し排斥しない迄も、現に排斥し得べき底の根底に立つ可く、自ら努むるの要があるのだ。従て、百の排斥、千の迫害、罵詈も嘲弄も、輕蔑も侮辱も、少しも齒牙にかく

白人労働者とは何ぞや

るの要なしとするも、凡て物には本末ある也。渠等白人労働者の言動は果して之を辨へた仕方であるのか。何の時、何の處、假令何の場合にも物事に終始本末と云へるを無視した行動は、惜む可し如何なる理由の下にも成立ち難のである。殊に吾人を以て言はしむれば、其白人労働者なる者の意義からして頗る怪しい、之が米土生へ抜き米人ならば兎に角そも白人労働者何者ぞ、別に我同胞と一點擇ぶ所の無い、則ち南歐種族の外來労働者では無いか、厚顔にも能く自己出稼者の分際を忘れて、日本人排斥などと嘘にも口にされた義理である。

一步を譲り、止むを得ずむば五十歩を譲るも可也、猶且つ不足とあらば大負けに百歩を輸するも不苦。唯渠等にして誠心誠意、眞に我同胞を排斥せむとならば吾人は渠等白人労働者なる者共に誨ゆるの一事なかる可からず。幸に安心して可也。目色毛色の故を以て理義の前にも直ちに盲目と爲り得るの吾人にはあらず。敢て言ふ、現下排斥の必要に逼られつゝある東洋人なる者は何で北米の土に存在

慢然排斥を口にするの愚や眞に及ぶべからず

するのだ。是實に吾人を排斥せむと焦せる彼等に取りての先決問題にあらざるか。嗟々、之をだに究め得ずして慢然排斥を口にする彼等の愚や眞に及ぶべからず。眞逆に天孫が米土にも降つた譯にもあるまじければ、必ずや日本人は日本から渡航したのであらねばならない。爾り、渡航したのだ。渡航して歓迎されたるにはあらで、確に吾人の先發隊は別仕立ての大艦巨舶三隻に設け迎へられて、先々渡航したとあるのだ。

先發隊とは何だ、日本人の先發隊也。更に日本人排斥とは何だ、由來支那人の排斥也。近く朝鮮人の排斥とは何だ、遠く支那人の排斥也。廣く東洋人の排斥とは何だ、不相變支那人の排斥である。不知、支那人は吾人の先發隊か。朝鮮人や日本人や、唯に支那人のお付合いに擬せらるゝに過ぎずして、則ち別に東洋人排斥の名ある所以であるのだ、殊に我日本の如き昨今多少御遠慮の恩典に與り居る事として、餘りに力むの必要はなけれど、之を渠等の輕燥なる熱舌に聞かれては、

吾人の心外敢て餘所事とも意はれず。暫く予をして同胞排斥の眞因を所謂支那人排斥の上に少く究むる所あらしめよ。

渠等はスタンフォードを忘れたり

米國に五百の大學ある事を知るの世人は、彼等に第一流の大學十四の數を知るなる可しと雖も、同時に落機以西十四の中に枚擧さるゝの大學ある事を知る者は殆ど稀ならむ。休よ西部北米を以て直ちに新開地と侮る事を。加州は實に二個を有す。「バアクレー」は州立にして、私立には「パロアルトのスタンフォード」があるのだ。嗚呼、「リールランド、スタンフォード」米國の「ユニヴァーシティー」に「スタンフォード」の名を忘るゝの米人は長く今の時に無かる可し。否、實に今後と雖も無き筈也。而も渠等は忘れたり矣。故人の遺徳を忘れ、大學の由來を忘れ、誠に渠が偉業の因由を奇麗に薩張と忘れて了つたのである。

「チャイニーズ、マスト、ゴー」とは何である、此は是れ野外演説に於ける當年の突飛漢「カチー」の一語！此は是れ勢力の競争に疲れて、支那人労働者に疾惡の念

吾人を排斥せむとには先づ其終始本末より始めよ

を抱ける白人労働者が附和の聲、雷同の叫びなると同時に、支那人の習俗非米化する理由の下に滿場一致を以て、排斥の決議を爲せし加州會の聲であつた。而も是れ生産業に於ける支那人の勢力漸くに米人を壓倒するに至るかの、猜忌の聲であつたのだ。哀れ、衆愚に由て支配さるゝ合衆政治の陋態は、爰に議會の提案と爲り、遂に「ゲエリー」法案と成り、其處に法律の實行と成り、支那人上陸の拒絶と成り、手もなく「スタンフォード」を忘れたのである。

今の米人にして眞に東洋人を排斥するの心あらば、先づ渠「スタンフォード」の幕を發きて、之を黒潮に投せざる可からず。其手に創立されたる渠の大學を焚きて、又た大學の爲に立働きつゝある者共をも、米人特有の「リンチ」に處さる可からず。夫れ如斯にして其處に恩人の徳を抛ち、此處に今日の禍を遺せし彼に一矢を酬ひむとならば、未々深く淵源に溯つて、渠等破壊者の手にまたざる可からざる唯一の事業がある。何ぞや、曰、大學の創立基金に對する彼が公益心の動

機を究むる事是也。

認めて之を公益心と云ふ、勿論、質疑の餘地なきが如きも其實は然らず。苟も其所謂動機の本元にして一點悪性質の存するものあらば、既に良心の醇化を享けたる後なるの理由如きを以て、輕々に看過す可きに非ず、須く進むで當年の彼に不醇の富を興へたる大陸横斷鐵道の破壊より始めざる可からず。續いて吾人は柔順に排斥を受く可し。否、米人にして少しく這般の本末より始めなば、由來潔癖を以て任ずる吾人の進退、胡ぞ苦ろに未練らしく今日あるを得むや。卑吝なる白人労働者根性の排斥を埃つ迄も無く、自ら耻ぢて吾人は直ちに米土を辭し去らむのみ、畏く支那人の無氣力を以てしても亦自ら決する所あるなる可し。何ぞ我同胞の潔癖のみと言はむや。

嗟々、狡兎盡きて良狗煮らる。今の米人たる者夫れ如斯にして、猶自己の存在を認め得可しと爲すか。大陸に當年の横斷鐵道なくして、西部北米に今日の開

支那人と雖も自ら決する所あるべし

發ある事なし。沿岸の開發なくして所謂彼等の排斥問題に白哲も黄色も在た者に非ず。況や、沿岸の開拓に東洋人の恩恵を忘れ、横斷鐵道布設の勞力缺乏に清人輸入懇請の昔を遺忘するの心、是果して人間の事と云ふを得可きか。動もすれば文明を口にし、人道を號び、常に平和を標榜する者の洞裡、真相は往々にして斯の如からざるか。強て吾人を排斥せむとあせるは、博士「ジョンソンの所謂」彼等は氣の毒にも自ら己が存在を認めない者』で無いのか。

桑港クロニクル何する者ぞ。同胞たる者耳を排斥如きに深くは假さずして可なる也。自家の信念に向て突撃す可く、唯に問題の研究其極に達すれば足れり。愚昧也闇愚也、乞食也器械也自動人形也自由の公敵也、社會の秩序を攪亂するともやでに吾人を罵りたる大學教授某の口吻は、今や假て更に之を同胞に勸む可き乎。其意自己の激勵振發にて事足る、何ぞ當時の「メトロポリタン」大會を遠く介むと言はむや。

同時に記憶すべきは、米人が芥槽に落す可き食卓の残肴也。之を米人「ラグナ」の絶叫に聴かずや。現下七千萬の米人は容易に支那人の二百萬を不生産的に扶養し得可しと。統計の妙趣實に爰に存す、眞に渠が最近の大出来に非ずや。所謂沿岸の排斥主義者なる者共を擁護し盡せし彼が眞面目も亦上れる哉。然り、米人三十五人に就て一人の支那人労働者を、而も不生産的に扶養して、永久に米土今日の富の發展に聊も差闕へすと云ふに、抑も其土の開發に深き因縁を有する支那人を驅り去らむとなせる彼等の心事の胡爲ぞ夫醜陋なる。支那人の現在總數なるもの既に「ラグナ」の統計の所謂二百萬の約百分の一たる、僅々二萬五千の上に出でざるを聞きでは、吾人は益々彼等大國民の度量の甚だしく狹隘なるに呆れ返る者である。

大國民の襟
度往々にし
て如斯矣

吾人は不景氣に泣く我國民を以て、「ラグナ」の所謂支那人に代へ、直ちに殘肴の犬に擬するの非禮を口にする者に非ずと雖も、蓋し吾人の意、米人食卓の殘肴は優に東洋的生活に於ける二百萬の人口を扶養するに餘りあるを認むるに過ぎずと聞かば、別に我國民の耳障に不満も不足も無き事也。而して之に少しく彼我生活程度の軒輊を見て貰ひ、搗ては、徐ろに米土に於ける富の由來をも會得し、漸次、彼我國土の上に勢力の缺乏と人口の過剰とを、所謂生物經濟の見地より冷かに看取して貰ふの要があるのだ。

其 八

之を要するに、吾人の問題必すしも讀者に對して研究の實行を逼る者に非ず。而も吾人は既に北米の勞銀を説けり、我國現下の國民を説けり、彼岸の光明を説けり、在留同胞を説けり、從て全般に對する自家の見地を明かにせむが爲には、世の所謂渡航手續なるものをも説かざる可からず。渡米後先づ何をすべきか、太平洋沿岸の北米に同胞の所謂儲口なる者は何人も果して容易に之を得らる可きかと、此は實に何人も逡巡する處、懷に若干の

餘裕なくては、上陸勿々乍ちにして路頭に迷ふ事なきかと、此亦た共に渡米研究の道途に彷徨する者に取ての疑問である。少くとも、區々たる渡米案内的小冊子を手にし人々に取ての問題でなければならぬ。

這般の讀者にして、巻を掩ふて著者の言責に惑はざる者能く幾人かある。身は是れ雲外萬里、未だ朋にも乏しき異域の天、旅情一朝病窓に横はらば遂に悲惨の涙に暮るゝ事なきか。假し此事なしとするも、嘗て勞働に經驗なき自己の體力は幸にして其働口と云ふに能く堪へ得可きか。勞働を外にしては別に儲かる稼口は無きものかと其手を拱かざる者能く幾人かある。

且又一方には、勞働力は健康を併せて兩つながら兼全しと雖も、眼に一丁の文字無く、口に鸚鵡程の舌さへ有たずして、言語、風俗、慣習、地理、人情等、其所有る一切の不自由を無難に切抜けて能く働き得可きかと、二の足を退くのである。孰れ尤もなる疑問のみであらねばならない。而も吾人を以て言はしむれば、

生活難に麻痺し盡されたる卑屈心なる也

不景氣の聲に萎縮し盡せし姑息の性根なる也

皆是我國現下の生活難に麻痺されたる卑屈心である。否、世智辛き不景氣の聲に萎縮し盡せし姑息の性根であるのだ。吾人は此語を耳にする毎に、渠等の所謂日出國の前途、眞に心細さの感に禁へない。

大道の五厘店、古本屋の塵の中、稍其幸福なる物には廂髪の賣子に仍て讀者の手に渡る書肆の店頭、乃至研究者の書架、電車の中、世に渡米に關する出版物は實に山程にある。而も米土に上陸後、如何にして自己を活動さす可きかの研究に就ては皆お留守である。否、參考資す可き讀料としては殆ど得可からず。曰、旅費の調達、旅券の出願、船中、上陸、宿屋、外出働口等、折角に並べてはあ

るが、惜む可し徒勞である。曰く何、曰く何、網羅されて妨げなかる可きも、詮じ詰むれば皆な言はむでも可き事也。苟も渡米に志ある者の都て常識に由り、其都度會得し得らる可き事に屬するのだ。中に純粹の出稼阿蒙の如きは、勿論、其道中の一切を例の移民會社

從來の渡米
案内の小冊
子の流布は
渡米者を益
するよりも
害する事太
し

渡米者に渡
航手續の必
要なし

の手にて取締るが故に、之には聊も常識なきを妨げず。吾人は此見地よりして世に所謂渡米小冊子なる物が、甚しく渡米者に害ある事を認むる。渠等の多數は之が爲に慢然渡航して上陸後少からざる時日を空費するのである。將た遂に邪徑に迷ひ込むのである。自ら誘惑さるゝの期間を作りつゝある事を確に信する者である。従て先づ言ふ可き事を言はざる可からず。若夫れ渡米の心動かば、實行に先つて十二分に吾人の所謂研究より始めよと言ふのである。

次に予は渡米問題の研究者に告ぐる者である。充分に責任ある言質を以て本編の讀者に見ゆる者である。漸くにして研究成り來らば、之が實行の手段としては、其心ある者、唯に汽船賃のみを調達せよ、予は實に旅費と云はずして汽船賃と言ふ、蓋し其多寡に調達の難易あれば也。其餘は一切不必要である。上陸金と言ひ、英語の稽古と言ひ、洋服及び小使錢、非常準備金等、皆は無用に屬する。已むを得ずむば旅券の不必要なると同時に汽船賃の調達亦必ずしも必要ならず。唯々健

全なる精神と清康なる體軀とを、大切に、任意に、自家の信する方途に由て、徐ろに其歩を進む可く、共に吾人が大旗の下に來り究めよと云ふのである。予亦其寓を叩かるゝを厭はず。爲に細説の勞の如きは、苟も海外思想の啓發に其身を挺せし者の辭するに辭なきの處、胡ぞ孤り編者のみと言はむや、任に大方の識者先づ皆爾る可きを信じて疑はず。

其九 結論

吾人の問題は畢竟するに渠等に三箇の時期を發見する事が出来る。研究未だ幾干ならざるに早くも渡米の心動く者其一、研究既に半にして憐む可し眼前の光明に臉を瞑ぶる者其二、研究愈々深ふして實行の念益々切なる者其三、吾人は唯だ其終あるを知て其一二を採らざる者である。

米土に米土の富を識らずして、慢然一時の熱に驅られ、仰臥以て百萬の富を作し得可しと迄に信頼せし米土は渠等に果して何の報酬ぞ、生憎に懶慢なる渠等に

歸國の旅費をさへ與へざるにあらすや。聽きし極樂を地獄と見るに達る墮落漢の如きは、吾人の所謂の研究を忽せにしたる者、而も研究漸くにして、雜莫なる杞憂の念に驅られ、蒙昧なる誤解の煩に倦み、兎角に踟躕し、往々に斷念の途に出づる者の如き共に昆虫の事である。幸福は遂に奇零以下の此徒に研究の頭腦を許さないものである。

如上の用意の下に更に言ふ。吾人の研究とは何である、先々勞銀が目的で無ければならない。否、勞働賃金が目的で無い迄が、紳士、紳商、華士族、平民、學生も官吏も何人も、問題は差當り勞銀に衣食するの覺悟が、先々何よりも必要である。勿論、同胞の或者は勞働と聽いて奇怪にも身慄ひをする。而も記せよ、上陸一呼吸すれば沃野千里、米の天地に磅礴たる勞働神聖の空氣亦た偉なる事を。我同胞に固有の力役職業者卑下の感念は、乍ちにして何處かへ一掃さるゝも實に妙である。是れ居は志をさへ支配するの謂乎。

渡米問題研究の第一着歩は則ち勞働と勞銀のそれである

我國現下の生活とは何ぞや

人には人各々の本能がある。巧拙は巧拙丈に、賢愚は賢愚なりに、必ず其人の一生には何等かの事業は意味されてあるのだ。而も居は志をさへ移すと云ふにあらずや。況や、人間衣食に其日を追はれる様では誠に本能も品性も有つた者に非ず、逆も吾人に健全なる成績は無理である。吾人は生活に追はれると言はずして、特に衣食に追はれると云ふ、衣食は實に我國現下の生活を意味する事約ね前述百萬陀羅の如くであるのだ。頭腦ある者も、文字なき者も、渠等に物質以上の生活を意義するのは、要するに衣食問題の解決後である。
衣食足つて吾人に向上の道を教ふるもの、豈に止に禮節のみと言はむや。吾人が勞力衣食者に向つて、特に此著を勸むる者、一皿の食、一片の布、僅に衣食の資なきの故を以て、渠等に本能の埋没を懼るゝ所以であるのだ。他なし吾人に先覺の能なし、輕々しく炬火を棄て、徒に世を謬り得る程に吾人は大膽なる能はず。要は唯是列べて問題たり得るのみ。

渡米問題とは何である今の我國民に本能の埋没を懼るる所以であるのだ

労働事情

下界の天國はと、若夫れ我に尋ぬる人が在つたならば、予は直ちに西部北米を以て之に答へ、此世の極樂淨土はと、又もや我に問ふ人が在つたならば、予は又均しく西部北米を以て之に答ふる。何が故に極樂淨土で、如何にして天國であるかは勿論答へて後の思案である。

人も知る無類の沃土、其地の耕作には、人糞は恐、人造肥料をさへ施さすと云へるが如き、是れ淨土にあらずして何ぞや。殊に桑港附近一帯の風土、四時花笑ふて歳に寒暑の區別無く、陽春三月の季は太平洋に黒潮のあらむ限り、千古萬古、人の心にも習々として駘蕩たり得るが如き、則ち極樂に非ずして何ぞや。世に所

一日の労働
は一週間の
生活費を償
ひす則ち世
界の樂園に
あらずして
何である

謂新開地として免るべからざる、惡風俗の寸毫も其處に認められざるが如き、由來豐饒園に非ずして何ぞや、人種の博覽會場とまで稱へらるる、世界鳥合の渠等にして、其人氣の粗惡を醸さいるが如き、固より黄金國にあらずして何ぞや。一人一日の労働は、以て一人一週日の生活費に餘り有るが如き、其氣樂なる事所謂天國にあらずして何ぞや。

聞く。壯丁一日の労働は、以て一日八人の家族を容易に扶養し得べしと、爾り壯丁の勞力に由て作されつゝある、坤輿現代の生産力を、世界人口の上に等分すれば、我に八人の骨肉係累如きは實に容易に錦衣玉食の中に扶養し得可き也。若夫れ我に貴族無く富豪なく、遊民なく、紳士、紳商、資本家、年俸強盜、月給泥棒等、苟も天下の生産を私するの寄生蟲なくむば、吾人は當に悠々自適して其堵に安し得べく、從て日々の労働に各自の本能をも發揮し得べき自由に在りと識らずや。而も渠等に這般の大負擔有て猶西部北米の生産力夫れ如斯矣。則ち下界の極

樂園にあらずして何である。

二

今や理想は現實と成れり。否、吾人に彼岸の現實たらむとす、否々、既に業に我同胞の小部分は彼岸の極樂境に吾人を迎ふるの基礎をさへ成せしに非ずや。故に一派の人は渠等に其徳を頌して、早計にも在米同胞労働者社會の現状を方に起業時代にありとさへ言ふにあらずや。

「シヨブル」を把り、土を起し、「ペン」を揮ひ、數字を並べ、「ツラック」の傍、馬小舎の中、所謂起業熱とやらに呻吟はして居ても、一喜一憂、南京米の相場騰り降りと共に、大切な壽命の延び縮みする者の、到底其比では無いのである。勞力と勞銀の收支相償は無い、労働者の馬匹扱ひされる、貧民の奴隷視せらるゝ、女に人權の附與され無い、素封家の子弟と遊民の跋扈する、俗吏根性の風靡する、學閥と藩閥と、縁邊と御引立てとで掻き回はされて、何でも構ふ事は無い腹の立

つ國民に、今や理想現實の氣運は來たのである。

怒れ同胞、紡績の女工先づ怒れ、下女怒れ、女學生怒れ、牛屋の女乃至未だ全く性根の腐らざる女性皆噴らすや。夜の目、日の目、掌の皮を剥けてふ手内職に泣く妻君亦固より噴る可し。牛乳、新聞、郵便等の配達、廣告人夫、腰辨の俗吏夜無し車の苦學生是亦た怒るべきである。女小供の空腹相な顔を朝夕の眼に惱む日傭稼人、乃至は、小作や分米に地主から膏汗を絞られて、剩へ頤の尖の蠅と共に追ひ廻はされる様な百姓、下男又憤る可きか。縁日商人、屋臺店、乞食藝人は無論、職工、車夫、馬丁、丁稚、小僧、番頭如き、苟も葭町の桂庵の軒の下、溝板の上に、日向ボツコを曝して居る、有り餘り如きの大に怒つて起つ可き處であるのだ。

日本は其國民の總てを要す。何となれば何處にも渠等と同等の労働者を得る所なければ也。故に日本の現在は帝國發展の爲め其労働者を本國に引留め措くの必

要あるを以て、或程度迄は法律を以てしても、渠等の海外流失を防止するの、已むを得ざるの境遇にあるもの也と。此は是れ例の伊藤が、容秋來遊せし「タフト」陸相一行中の、米國下院議員「マツキムレエ」の訪問に口走りたる處、彼は確に事實を語れり。蓋し吾人の生血に衣食する者は一日も吾人を離れて生きる能はず。又何處の國に吾人と同等の犠牲者ある者ぞ。

嗟々、渠が一語一記憶するの値ひあらずや同胞！方に當路の大方針であるのだ怒れ同胞、怒は神聖なるもの也、犯す可からず、眞面目なるもの也、渠に自家の實力を誨へざる可からず。起てば必ず成る、要するに忿怒は萬能の情である。旅券何物ぞ、旅費何かあらむ、何ぞ況むや、米土に白人労働者の野性の暴露たる、排斥如きが何であるのだ。

三

平均一平方哩に二十一強の人口を有して居る米國は、否寧ろ西部に加州の如き

怒りは成功の導火也

僅に九人弱の人口を以てして、其處に外來の勞働力を歡迎すればこそ、始て開けもし、開かれもし、所謂立ち行く國柄なので、現に今日の人口七千六百萬の過半は、則ち外國移民で以て現代の米國を造へて居る癖に、今更勞働力輸入の禁遏などは餘りに念はざるの太しいものである。

面積三百六十萬平方哩、十一州に跨る六十七の金鑛を如何にする。加之、十州に亘て銀山の發見せられたるもの、實に五十有餘箇所を數ふるにあらずや。鐵は十八州に、石炭は三十三州に、無限の森林は鬱々として四十四州の深山に開く、料牛は三十九州の牧場に飼はれ、麥は三十四州に、玉蜀黍は三十七州に、綿は十州に、鮭は亞刺斯加に、米は「テキサス」に、而して盡くる事を知らざる米國の富は一面に世界の富であるのだ。外國移民の禁遏、防止、抑壓、制限、排斥夫れ皆可ならむも、獨り世界財源の埋没を奈何する。

爾り米國のみに打任かする譯には行か無い。假令一日と雖も此富を、米人の卑

米土の富を
自家の天與
に辨へよ

客なる野性の満足するが如くに、唯渠等の富として、世界共通の利益より除き去る事は、所謂天與に對する吾人の曠職である。然るに我在留同胞は其處に能く自家の天職を辨へて居るか、大器は晩成の力行に乏しき事なきか、「システム」の立つた辛抱の出来難いのも確に我同胞に缺點の一つでは無いか、就中「數千年の久しき、我民族の頭腦に泌み込むだ、労働卑下の感念は又其處に渠等の道途を阻害しつゝある事なきか、之に限つては特に深く究むるの必要があるのだ。何ぞや、是れ本篇の眞髓なれば也。

四

聽け。米人が労働に對する神聖の感念は、渠等に何の成功であるかを。現代の富豪「カーチギイ」を世界に作りしにあらすや。「スワブ」を鋼鐵「ツラスト」の社長に作りしにあらすや。博士「ロイス」を「ハアワード」大學の教授に作りたる。大統領「マツキムレー」を、「ガールフィールド」を、「アブラハム、リンコルン」を、是皆渠等

渠等に尊き
自信を聴け

に唯一の護符たる労働神聖の感念が、其處に其人を作り上げたに外ならないのである。

而して彼等が「ケンタッキイ」の丸太小舎に産れ、又「ウキリアム」大學の小使として、又は大工として、又鑛山の坑夫として、或は洗濯屋の小僧、乃至は、其幼時鐵槌を振つて居た職工であつたなど言へる、渠等の辛楚は今も猶は後進子弟をして、米人を如何なる徑路に辿らしめつゝあるのだ。之を彼の有名なる北米石油大王の一族に見すや、之を鐵道大盡の眷に見すや、博士も、學士も、其日暮しの労働者と共に額に汗して、御者臺に馬の手綱を握り、鞭を取り、「ブツチャア、ナイフ」を、「バケツ」を、「バスケツト」を、將た「アキス」、「ソー」、梯子と其一日を眞黒色に爲て稼いで居るのである。

惟ふに、學生としての渠等が、「バachelor、オブ、アーツ」、「マスター、オブ、アーツ」を得る所以のもの、何も我日本などに流行するが如くに、其肩書に金箔をひ

けらかして、一種遊民の資格を、世に所謂る年俸泥棒の生涯に賭せむと焦心する者の比では無いのである。

畢竟は、肉屋と爲つて働かむが爲に、百姓と爲て稼がむが爲に、皆夫々の方面に其體軀を鍛へ、其思慮を練り、其智識を磨き、其品性を修むる事に用ひつゝあるかと想はれるのだ。所謂る學校生活の副産物たる、肩書如きに留意する様な眼では、到底眞箇の舞臺に立つて、卒業後の活劇場裡に、機微を看取するの能力が怪しいとは、誠に渠等に尊き自信と言ふ可きである。

五

猶亦、精細に我同胞を視る前に、少しく説て措かなければならないのは、則ち合衆國に於ける外來移住民の年代別である。

西曆千八百年の内外に、十四年間と云へる長き星霜を以て、僅に二十五萬の移住民を容れた米國が、其以降、今日に至る迄の、則ち九十箇年の平均を取れば、

二十四年間に二十五萬

一ヶ月間に二十萬

一ヶ月間に九萬此は伊太利である

三十九年を以てして漸くに十四萬此は我日本である

實に年々二十萬宛を輸入し來つたと言ふのである。而も其多數が所謂南歐の劣等國民であつて、殊に伊太利の如き、千九百〇二年であつたかと覺ゆる、僅々五箇月の間に二十八萬と云ふ勞働者を米土へ輸出した。就中、或る一ヶ月の如き、驚く可し、九萬を超へた月もあると言ふのだ。

吁々、二十年も、三十年も掛かつて、漸く十萬位な在留民を、則ち米國に關係して居るが爲に、毎に戦々恐々として、心の安らかならない様な、何處かの外務當局者が、之を聞いたならば、何と言つたものである。敢て吾人は狭量豆の如き渠等に無理な注文は強ひないが、少しは其性根を据へて、其國民の出稼營利に於ける、外資の輸入に救はれた、伊太利當年の外交に肖つては何うした者だ。如何に軍隊が優勢でも、「ポーツマウス」のお手際には列強が舌を捲いたと云ふでは無いが、唯に隣小を脅かし、徒に社會主義者を苦しめ、空しく天下の政敵を交番焼討の兇徒と共に斫らむと力み、果ては自ら土崩瓦解するが如き醜陋の極みを、

毎も々々繰返すのが、如何に其心性の下劣なる、如何に其情操の冷酷なる我政務當局の事なればとて、強ちに其能でもあるまいと信ずる。

一切萬事が此寸法で以て、海外渡航者の、特に渡米者の身元調査なるものが我日本では馬鹿に事六ヶしく出来て居るに反し、肝腎の米國が造つた、外國移住民統計職業別は何様な物であるか。氣の毒ではあるが、之を列記せむが爲めには一枚丈我當局者の面皮を頂かなければならない。

旅券の當路、渠等動もすれば外に帝國の威信を口にし、内に臣民の保護を稱ふ而も慮る處は國家の體面にあらずして先方の抗議にあり、國民の福利にあらずして犠牲者の抑留に存す、此處に吾人の生血は渠等が衣食の資にあらずや。其處に外交の蹉跌は直ちに自己の椅子にあらずや。要するに何の場合にも必ず自己が本位であるのだ。國運の消長、社稷の興亡、自家眼前の利害休戚に關はらざる限り、他人の飢餓は一生涯と雖も痛痒相感せざるこそ所謂渠等に取柄であるのだ。

極端なる自己中心主義の食吏とは何ぞや

從て、事なかれ主義出で、外國の抗議畏ろしく、吾人に生活難の血路封鎖さる而もより畏しきは渠等の冥利である。

一年間三十萬！
三分の一は無職業者である則ち米土に有職業者となるの無職業者は社會國土の罪である

無慮三十萬、此は米國に外國移住民の統計年鑑あつて以來、今に至る迄の間に最も大多數を示したる千九百年度のそれである。而も其内譯如何と云ふに、殆ど全數の三分の一を占むる者は何である、驚く可し九萬の無職業者なるにあらずや何處かの國の外務當局が之を耳にしたならば、定めし小さき肝を消す事である。加之、十萬が雜業、五萬が勞銀希望者、残り六萬が漸くに我移民保護法以外の所謂、旅券下附に見込のある、商業遊歴修學等を目的とする渡米者かと見れば、何ぞ圖らむ、孰れの國の渡米者にも、出稼者の類別に甚しい相違は無きものと見へて、其重なる者が靴屋である。仕立屋である、縫宿工大工番頭である、坑夫漁夫鍛冶百姓婢僕等、少しも吾人と撰ぶ所の無い厄介者のみであるのだ。吾人は厄介者を以て自ら任する者にあらずと雖も、我移民保護法の所謂厄介や

何か経費の都合とやら地震があつても軍艦一隻贈るで無し厄介が聞いて呆れる

★ 將た米政府の厄介に爲りつゝあるか、否かは、別に争ふの必要がない。我在米労働者に事實は之を證明して居るのだ。假し一步を譲り、事實厄介者なるにもせよ均しく厄介者とやらを始末するに、毎に拙劣なるお手際に處理さる可き命運にあるの吾人は、却て厄介な當路を頂いた者である。若夫之を吾人の言に疑はゞ、更に細叙すべき予の勞に之をまて。

六

それは米土に今日の基礎を作しつゝある、我同胞が凡そ何時頃から渡つたかと言ふのであるが、手を以て之を觀れば最も古いので漸くに三十年内外、而も一人か二人を以て始めたので、苟も十人以上と纏まつた渡航者は、其當初には見られ無かつたのに徴しても、此方面に於ける吾人の海外思想は、一點當路の恩に着ざる事既に明瞭である。従て本國政府の庇護の下に一時に渡航せし南歐劣等國移住民のそれとは自ら撰を異して居る。既に撰を異にし類を異にす、何で當路の厄介

呼はりに服従するの義務があるのだ。

★ 目下我同胞の合衆國に移住する者、無慮十四萬と註されるけれども、例の布哇を除けば其大半は悉く加州にあるので、太平洋沿岸に「オレゴン」、「ワシントン」の二州は言ふも更、「チヴァタ」、「アリゾナ」、「ニューメキシコ」、「ユータ」、「アイダホ」等、其他の諸州及び「イースト」へ散在する者は至極少數である。殊に今の十四萬と言へる大數に達したのも、其大部分は則ち例の布哇と加州に限ると同時に實に近年の事に屬するのだ。確か去る千九百〇一年の事に覺ゆる。春より夏にかけて、我外務當局者の殊勝なる、布哇は先づ措くにしても、僅々二箇月弱の日子中に二萬の労働者を移民會社の手にて、「タコマ」、「シヤトル」、「ヴェヒクトリア」、「ヴァンクヅア」、「ポートランド」桑港等の沿岸各港灣から送り込まれて偶々當路の恩に與るかと思へば、此も却て禍の種子！、其百姓一揆の大勢の上陸は、端なく白人労働者の忌諱に觸れて、以降は日本人排斥の聲さへ馬鹿々々

當路の保護とは何ぞや

しく、支那人と一つ枕に擬せられて、今や西部北米に政治屋の旌色と利用さるゝに至りたるが如き、何處に一點當路の恩に着せらるゝの弱味があるのだ。

現に遣つて居るでは無いか、何一つ米政府などの厄介にもならず、領事館や本國政府や旅券保證人とも言ひつ可き者其の厄介に爲て、渠等の所謂の疾病、困難の場合とやらを救ひ出された者が、何處に一人とあるのだ、無いから癪にさわらざるを得ないのである。勿論、人間は生身の體軀、鹽漬にもなるまじく、運命の奴隸、災厄は免れ難し、疾病困難に罹る者固より多々ある。而も餘裕ある在留同胞の實力は寸毫と雖も他人の恩に浴するを潔しとしないのだ。何で當路如きの厄介に甘する者ぞ。我在米同胞社會に於ける同情心の豊富は、我日本に南京米を數へて炊く俗吏根生の會得し得べき限にあらず。咄、黙して之を吾人の言に聴くべきである。

厄介どころなものか、耻しながら祖國こそは却て在米同胞の恩に與かりつゝあ

却つて出稼者の恩に與からずや

我在米同胞に母國高等官の奢臭き根性は需むべからず

るではないか。二十七八年戦役は無論、基督教の大舉傳道費募集は言ふに及ばず畏けれども、皇室の御慶は其都度に於て、赤十字、義勇艦隊、海軍擴張、太宰府、善光寺、日蓮銅像、伊勢太廟、本願寺等。我在米同胞の勞銀は毎に此等の費目に、其お初穂を先取特權として控除されるの例であるのだ。而も同胞は其殘餘を以て或は故山の父母に致し、或は他日の事業資本として蓄積し、鞠躬如として荷も倦まざる其眼中には、氣の毒ながら木杯や褒狀は無いのである。

身に一藝なき渠等は抑も如何にして這般の羨むべき餘裕を作るのである。勿論夫れには永住の感念の上に稼ぐ者あり、一時の事情の下に働く者あり、要するに稼ぐのも働くのも其餘裕は均しく境遇の賜である。人間貧すれば鈍すると言ふに非ずや。我日本に奢臭き根性は、人足も、俗吏も、商人も、職工も、都て是れ不景氣の賜である。曰く收賄事件、官文書偽造行使、鑛毒地問題、馬蹄銀疑獄、瀆職、破廉耻、賣節、獸性、劣情等、所謂る生活難以上の人物に這箇の犯罪者あ

労働者にあ
らざる者も
往いて品性
の同化を享
くべし

る、亦皆境遇の賜である。吾人が西部北米を以て今や理想郷の現實と爲すもの
豈止に労働者の上のみならむや。荷も品性の下劣なる者は往いて少しく同化を享
く可し。事務官、政務官、代議士、新聞記者、商賈、辯護士亦可也。
我同胞の或者は學生として米土に十仙隊と化せり、商估として渡米後博徒と爲
れり、官吏として渡米後惡徳周旋屋の群に入れり、銀行員として「ピンブ」、隨行
員として三百、會社員として有志屋、醫士として破落漢、店員として娼婦等其類
例に乏からずと雖も、而も墮落は大海の一滴である。湖の如き我在米同胞の大勢
は今や無智文盲の域より着々として其歩を忽せにせず。或は商事取引に、或は生
産業の經營に、將た大學の講堂に、着眼點は實に區々であるが一糸亂れざる發展
の痕は、恰も長安の大道の如くに、自ら岐路を制裁して果ては天に達すべき向上
其途に瑕疵を遺さないのである。

其最も理想に貧しき者の上に之を見るも、曰、米土には小さくも其分に應じて行

市内向き
田舎向き
技能向き

く道に餘裕があるから、世智辛い日本に歸つて身を立てるのは絶對にいやである
とか、再び祖國に苦楚を嘗めむよりは、寧ろ此樂園に砂金でも掘つて其一生を人生
趣味の上に放浪しようとか、單に二三百弗乃至四五百弗の學資を稼がむが爲に渡
米したとか、自分も米國を見物すると同時に、妻子に土産の少々も残して我留
守宅の門前に自分の歸りを出迎ふる、嬉し相な顔の數々が見度いとか、今は土を
穿つて毛唐に馬鹿にされて居ても、歸れば直ちに村會議員である、天晴れ自治の
好標本を隣村にまでも輝かして遣らうとか、此亦た雑多な事にはなるが、歸着す
る所は孰れ勞銀の蓄積にあらざれば、則ち自己の修養である。勿論、己の爲に計
るのは一面に所謂世の爲に計るのであつて見れば、如何に理想に乏しき出稼阿
蒙と雖も這箇の消息には自ら阿蒙では無いのである。
從て、各自の抱負の如何により、則ち成功を急ぐ人々のとる可き経路が又却々
に同一で無い。否寧ろ大に區別があるのだ。曰、市内に。曰、田舎に。曰く、技

術的勞働に、只一口に田舎に働くと言つても、其勞務に、各自の體力と從來の境遇との如何に因つて、其所に勞務の種類と、方面とを擇むで、それに従事しつゝあるのは、是亦市内も技術的勞務も共に同一であるのだ。

唯だ其勞務たる、一面より觀れば又之に兩様の區別が發見されるのだ。其一を所謂『ピース、ウオーク』と云ひ、我日本に則ち請取仕事の類であつて、豫め勞務の分量に其勞銀を取極めるのであるから、努むると、壓めざるとは直ちに自己の得失に關するのだ。而も此勞務の缺點を擧ぐれば、誰しも、殊に日本人は終りを急ぐの結果として、往々に其不成績を吾人が他日の信用に影響せしめ易い一點である。宜也、在米同胞は慎重なる注意を其所に拂ひつゝあるのだ。

次に其二としては、『シーズン、ウオーク』、『モンズ、アツプ』、『ウヒーキ、アツプ』、『デイウオーク』、『ナワア、ウオーク』等の五種に分たれたるものである。之に限つては則ち經過す可き時日の上に勞務の賃銀を定むるので、唯其成績に注意すれば足

ピースウオーク

シーズン、ウオーク！
モンズ、アツプ！

ウヒーキ、アツプ！
デイ、ウオーク！
ナワア、ウオーク！

★ 進歩の敵！

るのである。敢て勞務の進歩如何は問ふ所でないのだ。而も其所を相互の信用で行くのであるから、勞働者にとりては『ピースウオーク』以上の氣骨が折れる事は勿論である。殊に最も困るのは毛唐が我に傭主としての態度である、一旦拂つた信用は容易に我に動か無い代りには、其勞務の當初に聊かにも瑕瑾を發見されると、徹頭徹尾寸毫の信用も我に假さないのである。故に一面には我にとり非常なる利益ではあるが、其裏面には大なる損失が意味されてあると言ふのだ。而して我在米同胞は又之にも成效しつゝあるが如き、所謂、何の藝能なき出稼者の分際に、則ち今日の餘裕ある所以であるのだ。猶之をしも以て移民保護法の厄介と爲さば、當路は吾人が進歩の敵として、其實力に誨へられるの他日あることを豫期せざるべからず。

七

吾人は之を渠等の多數に聞けり。曰、見た丈にて澤山也。併し折角に渡米して

★ 勞働事情

★ 北米事業案内

當路の横暴とは何である

も、一箇月も二箇月も遊ぶ様では甚だ氣遣はしと。蓋し其意則ち米土の事情に暗きにあらず、唯に日本の事情を以て米土を推す也。従て起つ勇氣なき也。何ぞ夫れ其年齢の若さを以て其心の老いたる。吾人は此徒を憫むと言はむよりは、寧ろ前途有爲ならしむべき國家壯丁の氣魄を、辛き生活難裡に斯く迄も酷く陥れたる當路の横暴が眞に面憎くて禁らざる也。

就業の容易なる上陸後分秒と雖も空費する事なし

唯に勞力に衣食するの覺悟だに有らば、職業は上陸の其日より得らる可し。一枚の履歷書に五六箇月の日子を徒消し、二三十錢の日給に十數回の無駄足を食ひ而も食ひはぐれて容易に糊口に有りつかざるが如き、我日本の比にあらざる也。勞銀は米土に於て方に理想に達せしにあらざるや。今や西部北米を措いて他に勞働者の立場ある可からず。一人一日の報酬は能く一人一週日の生活費に差問へざるが如き、當に勞力衣食者に、自家本能發揮の道を教ゆる所以にあらざる何であるのだ。

寄生虫中心政策とは何ぞ

曰、發展。曰、建設。或者は帝國政策の爲に其勞働者を本國に抑留し措くの必要ありと云ひ、他に日本臣民と均しき勞働者を得るの處なしと言ひ、果ては法律の力を下しても遂に吾人を犠牲に供すると言ふ。而も吾人を以て見れば吾人は勞働者として、其意義に新しく其歩を進むると同時に、或者の所謂帝國發展の爲よりするも須らく海外に出でざる可からず、或者の所謂政策と戦はざる可からず。口を帝國發展の美名に籍りて、動もすれば寄生虫中心政策を振回す者は何者である。由來渠等は横暴也。勞働者に人權を認めざる其眼には、人口の過剰より來る我國現下の生活難を以て、吾人の勞力を器械作用よりも調法なるものとして利用し得可き所以の道を觀る也。併し看るのは渠等の眼の自由にして、見らるる者には憲法保障の下に立つ人身權の自由なる也。爾く渠等如きの意の儘には生憎に爲ら無いのである。

★ 労働事情

既に戈を把つて立つと言ふ。先づ之を自家の境遇に見むか、今の吾人に革むべ

★
き地歩は真に一にして足らず。苟も身外の異議に慄きて、自己の所信を抑ゆるが如きは、唯に米土に其生産業を自殺せしむるのみか、是れ確かに勞力衣食者として自己存在の意義を忘却したものである。今や之を内外の事情に鑑みて、起つべき機運は近く吾人の頭上に逼る事なきか、予は今より之に資料を記して暫く自己の研究にまつと言ふのだ。

第一章 屋外労働

「セラー」及び「タウン」の働きと云へば、假令現に市外に執るべき働口でも、渠等在米同胞間には所謂の家事的労働を意味するが如くに、予の所謂屋外労働も其範圍が頗る複雑にして、従て其執るべき労働が必ずしも屋外許りとは限らないのである。「キャナライ、ウォーク」の如き、將た菓物「バッキング、ウォーク」の如

き、是皆事實は屋内の働きであるけれども、其性質上常に田園の事と共に説く必要あるが如き、則ち其一例であるのだ。

米人の大百姓に就て、直ちに常雇となるなどの除外例はあるが、之に所謂屋外労働の多くは、彼の家事的労働の如くに、直接米人の手に備役されるで無しに、則ち日本人「ポツス」なる者の配下に立働くものにして、孰れも「センス」の無い勞務許りであるから、體軀の疲れる事は家事的労働などとは固より較べものにはならないのだ。而も一得一失である。屋外労働に限つては勞銀費消の道が甚だ不便にして、一皿の「バイ」、「デアハム」の一袋、之を購はむにも近くて二三哩を行かざるべからず、遠ければ十哩以上、甚しきは絶へて勞銀費消の途が無いと言ふ働場所さへあるのだ。其處で勘定日毎に定額の収入が否應なしに貯蓄されて、殆ど勞銀全部の蓄積を樂みに之に働く者が頗る多い。

在米十四萬の健兒。市中には僅に二萬五千とあるのに、八萬は田園である、二

屋外労働は
浪費の憂ひ
少し

在米同胞十
四の中十萬
五千は屋外
労働者也

學生の體力
を標準とし
ての疲勞な
る也

米國百姓語

萬は鐵道である、雜業に一萬、五千は漁場であるのだ。其「セライ」にある者と雖も夏分に向へば、或は「フレスノ」に、或は「サクラメント」に、其「ヅヒケーショ」を犠牲にして、來る學期の書籍購讀費を屋外労働に稼がむが爲に、一時早變りの大學生の労働者さへあるのだ。故に肉體に疲勞を感ずると言つても、此は學生如きを標準としての叙説で、我日本に百姓仕事鐵道工夫等、苟も、力役に衣食した體力より言へば、彼の米國労働界に夏場仕事の如きは、食に對して箸を把るよりも猶ほ容易の業である。

靴を穿いて、手袋を嵌めて、洋服を着て、帽子を被つて、「アイ、ドン、ケヤア」「ユー、ノー、サーベエ」、「チツア、マイン」、「サナバ、ガン」、「カクサカ」、「マシキイ」、「ヤンキイ」の一點張り、大威張りに威張り散らして、勞銀の貰へる仕事は何一つ日本にあるのだ。手足に土の着くでは無し、傭主の干渉を容れるではなし、往々に「ハン、カー」あり、跨るに馬あり、運ぶに「ワゴン」あり、食ふに

肉あり、牛乳の値非常に安く、卵の價更に廉也。野菜菓物は至る所に價を拂ふの必要なし、其處に身體の疲勞を口にする者あらば、此は冥利を識らざる増長漢の事である。

さればこそ我同胞労働者は、例の排斥聲裡に牢として抜くべからざる底の基礎をさへ稍形造つて居るので、布哇は言ふに及ばず、沿岸大陸に加州の農園は概して我在米労働者の勢力範圍であるのだ。普く人の記憶に渉るものは先づ之を省くにしても、「アルピソ」、「サリナス」、「クラクスボーグ」、「キヤツスロヅヒル」、「キルロイ」、「ニュー、キヤツスロ」、「ペンリン」、「ウキンタース」、「アキヤンボ」、「ライト」、「クラツケット」、「ローダイ」、「サンウオークイン」、「ノード」等に於て、同胞労働者の屋外労働に従事して居る者の多數は、米人地主より土地を買受け、徐々に獨立起業の初歩にあるが如き先づ本國勞力衣食者の考ふべき事であるのだ。

二

同胞労働者
起業の初歩

抑も此地所と云ふ奴は、何の國、何の時代でも、所謂渠等が世襲財産中の其重なる物にして、則ち其處に祖先の偉徳を追慕するの念慮か、あらぬか、假し又自分之を儲けたのにしてからが、所謂、子孫の爲に美田を購ふとやら言て、之を他人の手に譲渡す事は甚だ難むする所であるのだ。然るに未だ年數に於て、實力に於て、これ程の地步に立つても無い我在米同胞が、如何にして今日の如くに米人の地主から、容易に土地を買受ける程の便宜を得たのである。

勿論。一面には我同胞労働者が、白人労働者に比しての拮据精勵は、端なく今日の信用を作つた所以もあらう。而して之を作半年賦にして、渠等米人の地主共が却て目色毛色の變つた異人種たる我同胞労働者の方に譲り渡さうと言ふのは、我在米同胞の勤儉にして篤實なる、柔順にして力行する、決して地代の拂込みも滞らず、能く開墾に堪むる國民であるから、兎に角に開墾さしての上の分別を括つて、もあらう。若之を開墾さしての後に買戻す事の出来ない迄も、米人

米人は低廉なる勞銀を以て米土開拓の所以を知れり

木柵の價則ち地所の原價

は則ち非常に低廉なる賃銀で以て、西部北米の野を開拓した事になる譯にして、彼等は其處に國土の富を考へて居るのである。

萬頃一碧、茫として涯りなき沃野、渠等米人なる者共が、此の今の地所を獲得した抑の昔に、溯つて見れば、實に豐饒耕すに人無かりし土壤、過る三四十年前の渠等は、唯夫れ「フェンス」を構ふるだけの價を以て之を占領して居るので、否天與のそれに浴したものである。故を以て又吾人と雖も其天與の下受けに容易に與からる譯であるのだ。豈他あらむや、之を吾人の所謂境遇の上より來る賜とは云ふのである。

三

沿岸に於ける我在米同胞の、家事的勞働に従事する者に限り、動もすれば、賭博打と爲り、破落漢に陥り、遊食無爲の徒と化するに反し、此屋外勞働が如何に起業心を、我同胞労働者に作るかに就ては、世既に定論のある事であるから吾人

屋外労働の
光明

「エーグル」
は我凡四反
十八歩

は重ねて之に贅するの必要は無いが、今、加州「サンジョアン」の平野に於て、二百三十八「エーカー」、則ち我約九百五十二反歩の借地に耕作した「シユガー、ピーツ」の收支決算を、加州農業協會の調査報告に據つて、少しく讀者の参考に資せようと思ふ。所謂屋外労働に一道の光明を示さうと意ふのである。

其處に其出納純益如何と云ふに、先づ支拂には、

一、米賃、一萬八百八十弗七十五仙の總額を、其の

内譯としては、

三百弗が借入れ資本の利息、

千六百六十六弗が借地料、(毎エーカー七弗)

千百九十弗が鋤返し二回分及肥耕賃銀、(毎エーカー凡五弗)

勿論肥料を要せず、但し肥耕を爲すのみにて可也。

百十九弗が種蒔器械使用料及労働者の賃銀、(毎エーカー五十仙)

二百八十三弗が種子二千八百三十斤の價、(毎一斤十仙)

千百弗が間拔き人夫千百日分、(一日一人一弗)

九十弗が草取人夫一人、馬二頭、三十日分合計賃銀、(一日每三弗)

二百八十五弗が收穫鋤返人夫三人四頭馬車、馬と共に一輛の賃銀、

但し九十五日分、(毎一日三弗)

二十二弗七十五仙が莖伐り放し庖丁及鋤代、

千三百三十五弗が莖切放し及荷馬車積込人夫賃、

但し千三百三十五日、(毎一日一人一弗)

四千四百九十弗が「ピーツ」畑より停車場迄三哩間運賃及び製糖所迄の汽車賃

(毎一噸約一弗)

如上を以て耕作者の入費は終るのであつて、あとは糖蔗の代金を製糖所より貰

へば可いのだ。其處で其收納として、

屋外労働

一噸は我二百七十二貫三百八十四匁

九百五十二反歩に收穫せし糖蔗一年の純益七三六弗四七仙
米土に農業營利の大半は労働賃銀として消ゆ
純益は總收入の三分の一強に當る

北米事業案内

一萬七千八百七十七弗二十二仙が收穫糖蔗四千四百五十一噸餘の賣上代金、

但毎噸約四弗である。

二百弗が切放せし莖の賣拂代金、

茲に至て同胞の丹精は、計金一萬八千〇十七弗二十二仙丈を、一應は懐に收むる事が出来るのである。而も之より當初の費目を差引かざる可からず。其處で純益が七千三百三十六弗四十七仙だ。

米土に農業營利の大半は、則ち如上列記せるが如くに労働賃銀として拂出すのであるけれども、猶ほ如斯に純利が總收入の三分の一強に上るのを見ても、却に彼等に農業資本が幾何も要し無い事が分明するのである。

加ふるに、此資本なるものさへ今は同胞労働者が日常の勉に繋ぎ得て居る一縷の、信用資本なる事を念ふ毎に、吾人は實に我日本に小作人たり、人足たり、車屋たり、土方たる人々の身の上が不憫でならないのである。

見すや。我日本に其一村の郷黨作男如きを願の先にて、支配しつゝある資産家なる者共に、果してどれ程の甲斐性があるのだ。國稅、縣稅、所得町村稅、戶數割、營業割、網代割、肥料代、義捐金、寄附金、喜捨金、殿堂建立費、小學校設計費、議員候補者運動費、鐵道株、炭坑株、山師株、蓄妾株、米相場などと來た揚句の果が何である。民事被告人、家資分散、執達吏、什物競賣、路頭漂泊と來るので、實に山は見へ切つて居るのである。而も見へざる人は永久に此渦中に七轉び八起を遣らざるべからず。

少しく眼界を大きくして、彼我農業營利の差違を此邊に看取した者は、兎に角に日本などに安閑然として、居られ無い筈で無ければならない。往つて見たが可いのだ。米土にも議員騒ぎや選舉騒ぎの馬鹿騒ぎにて、直ちに蕩盡される様な、手薄い資産があるや否やをである。

四

屋外労働

唯に是等を見に行くと人々の爲めにはあらねど、吾人は本章の秩序に由り、一般讀者と共に此屋外労働に類別を究むるの要があるのだ。其處に予は之を十一種に概別する事が出来る。

- 鐵道、
- 鹽田、
- 伐木、
- 鑛詰、
- 田園、
- 菓園、
- 調材、
- 漁業、
- 炭山、
- 鑛山、
- 農園、

就中、炭山、鑛山、調材等の働口に從事して居る者は、頗る少數にして、唯之にも同胞労働力の供給が涉つて居ると言ふに過ぎ無いのである。而も「ワイオミング」の如き、亞刺斯加の如き、全然之に曙光の認められ無いと云ふにあらず。

從て予は之を逸するに忍びないのだ。而も農園、菓園等に於ける同胞の跋扈と來ては、鐵道方面の勢力と共に、實に畏るべき推移である、是亦例の白人労働者をして嫉妬の念を醸さしむるの價値は充分にあるのだ。是か、非か、從つて有利な方面には又之れ丈の弊害も免れないのである。既に前にも説つた様に、此屋外労働に限り、傭主白人との中間に「ポツ」と言へる同胞の腐敗分子を介しなければ働かれないので、殘念ながら此徒に致さるゝの労働者は、一應其厄難に泣かねばならないのである。日本人「ポツ」。則ち人足頭とも云ふべき此輩に兩様の區別がある。そは地主將た資本家などに雇れて、毎に若干の仕事を契約監督する者の者と、又其都度地主、資本家等と契約して、一定の季節に唯に人夫の供給を爲す者との二種であるが、此手合の多數は巧言令色を以て、自己衷心の腐敗を毛唐の眼に掩ふて居る者のみであるのだ。一寸「ブローク、イングリッシュ」が出来るとしても、無教育

の百姓上りでなければ、船乗りか、墮落書生の、孰れ皆が道念に貧しい輩のみで
ある處から、少し纏まつた金圓を目にせむか、直ちに動物性の本性が貴重な面目
玉を犠牲にして、それを持逃げする事を憚らないのである。

若夫れ此種の勞働に、苟も多數勞働者の賃銀を、支拂はずして持逃げする様な
惡徳「ポツス」なかりせば、我在米勞働者間に今日の起業心は、未だ々々ズツ早
かつたのである。吾人は此際彼の屋外勞働なるものに、同胞社會の根城として之
に百年の計を定めむが爲めには、是非共渠等に知己郷黨の共同力役を必要とす
る。勿論、之が唯に職業營利の上のみに止まらざる事は、一面より見て、今の在
米同胞社會に一點の徳風なき亂調子が、頻りに識者の聲と爲て、矯風を叫ばるゝ
が如き則ち焦眉の問題解決であるのだ。

吾人は唯に「ポツス」のみとは言は無い。在米百姓の多くは英語の一つも覺へ
ると甚だ生意氣にして、實に度し難い奴許りであるから、自然其處に復讐的持逃

知己郷黨の
共同力役經
營

にも遭ふ様な場合に陥るのである。況むや「リーダー」の一冊も讀みし者になると
眞に小癢の種子にして、其眼中には「ポツス」も「ポイ」も無いのである。確に其罪
の一斑は持逃げされる勞働者の側でも、負は無ければならない事となるのだ。
愚民は好むで欺瞞を受けるとやら、持逃されるのは詰り持逃げさる可く作るの
だ。故に吾人は此點に知己郷黨の共同力行を望む者にして、五人を少しとせず、
十人を多しとせず、互に意氣相ゆるす者の團結渡航を望むのである、渠等をして
互に親睦其事に銜らしめなば、各自に信あり、義ある所に、自他の利益が必然に
保護されるのである。勵み甲斐があるのだ。我利我利亡者とならないのだ。己を
本位として他人の不利益に打算しないのだ。而して沿岸に同胞社會は眞に、自治
の制其域に達した民と爲る事が出来ると信する。

五

猶も彼等に惡弊の一つとして、特に數へて措かなければならないのは、屋外勞

我同胞労働者
と白人追
刺

労働者が悪い癖として毎に現金を懐にして居るの一事であるのだ。我同胞の沿岸北米に唯之あるが爲に、其命を落す者、實に年々一再にして止まらない。而も渠等は懲りすまに此癖を改めないのだ。此悪癖は孤り日本人に限るのだ。凡そ人煙疎らなるの處へ、毛唐の「ホールドアップ」は能く此癖を知つて居て成功するのである。敢て言ふ、之を吾人の慣習に絶たない間は決して米土に働く可からず。聴け、命あつての物種にあらずや。

我同胞労働者
と金融機
関

或は言ふ、未だ同胞社會に完全なる金融機關が設備されなない爲に、將た、設備されて居ても其手續に暗い爲に、折角に稼いだ勞銀の爲に、殺されもし、又たあられない方角に墮落もし、浪費もするのであると。夫れ或は然らむ、而も同胞社會に金融機關の有無は直ちに其理由とならない。萬國聯合郵便爲替は至る處の寒村僻地にもあるのだ。殊に帝國領事館にて取扱ふ本國の郵便爲替さへあるのだ。乃至は正金銀行支店、日米銀行、櫻府銀行、桑港日本銀行等其便宜甚少からず。

猶之をしも不完全と言ふか、そは渠等の境遇、上自ら之に不完全を感じ、不便宜を念ふの點もあらう、併し詮じ詰むれば此等の缺點以上の缺點は別にあるのだ。何ぞや、渠等に一念なき事是也。

假し何等の便宜あるにしても、其人に貯蓄の心なく、送金の念なくむば、到底今日の悪習消除は望まれないのである。矢張是も愚民は好むで殺され、好むで奪はるゝの理に落つるのである。現に此の三四年來桑港の中央郵便局では、總て日本文字を以て、其爲替手續の一切を明かにしてあるの便宜さへあるのだ。何れ殺される丈殺されずては、渠等に自覺の期は覺束なからむも、敢て一言の婆心は屋外労働者の生命に戒むるに過ぎないのである。何ぞ勞銀の損失を言はむや。四十年五十の弗仙は米土に於て僅に労働者數週日の値を意味するのだ。蓋し此徒數週を以て其一生を估るの愚や又多く説ふに忍びず。

六

人口の僅かに三割五分を占むる米土の農民は、今後十箇年を出でずして、合衆國民の都てが過去二百年間に作せし國土の富を作る事敢て難からずと。此は是昨年度に於ける米國農相「ウキルソン」の年報であるのだ。如何にも現狀の儘に推移し得れば渠等の富や想ふべく、我在留同胞労働者の幸福や實に豫め計るべからざるものこそある也。ざるを之に勢力の輸入を禁遏し、以て自國の生産力を殺さむとあせる米人の愚や固より嗤ふべしと雖も、寸毫も之に米土の天恵地福や、自家の活路乃至、國家社稷の財源を考ふる能はざる者の痴や又實に憫むべき限りであるのだ。

而も吾人は重ねて之に我外務當局者の無能を言はず、貧して鈍する我國民の無耻を咎めず、唯だ夫れ其幾分を醒覺して既に米土に其歩を入れたる、我同胞の無分別に至りては獨り之を責めざるべからず。任に西部北米の開發を以て、今日でさへ現に六萬二千エーケルの耕主でありながら、金主將た地主に對して窃に「ス

在米同胞労働者の無分別とは如何に？

六萬二千エーカーの地主

トロベリイ」の所謂る抜け賣りなるものを、働く者は何處の國民である。渠等に此種の罪惡を討ねなば、其同胞間に於けるの弊害は實に一にして足らざるべきも苟も事の外人に關するものに對しては、唯さへ排斥の聲頻りなるの當節柄、須らく嚴重に戒飭すべきである。

吾人が特に之を屋外労働者に誨ゆるもの、名は労働者と云ふと雖も、其前途たる頗る遼遠にして、此章に所謂る「屋外労働事情」の如き一面よりすれば是確に我屋外同胞労働者の産業事情の論述であるのだ。何ぞ此際排斥如きを彼の市内労働口の上に惜むと云はむや。

七

之を要するに屋外の労働たる市内の労働よりは概して疲労多し。而も學生の體力を標準としての疲労である。美衣に倦き、美食に飽き、苟も勿體なき生活に慣れて、口に疲労を吐くが如きは所謂る冥利を辨へざる増長の心であるのだ。加ふ

るに此屋外労働に限り「ルーズ、マナー」の憂なきが如き、則ち沿岸に同胞の實力ある所以であるのだ。

一縷の信用は微かに労働者たるの分際を以て、直ちに土地の所有權が握らるゝ國土が世界廣しと雖も、果して何處にあるのだ。吾人は彼等の母國に其労働者を見ずや、否寧ろ労働者に人權を無視する資本の勢力を見ずや、而も此資本なるものさへ唯に一回の議員候補者として蕩盡さるゝ、所以の其處に思ひ及ばず、如何に其労働者たる者の境遇の敢果なきか見らるゝのである。

頭を上げて彼岸の光明に米土労働力の拂底を知れ、同時に我在米同胞が如何に活動しつゝあるかを見るの眼を以て、彼等に由て來る弊風の害惡を、吾人は暫く米土の富の分配を享くべき自家資格の上に鑑みざるべからず。殊に屋外労働者として同胞の前途に看取る所なかるべからず。従て此章の讀者に忘るべからざるは、則ち我在米同胞が労働者として方に成功しつゝある其徑路であるのだ。予又

他を負ふの違ある者にあらず。

第一節 鐵道

鐵道工夫と云へば、如何にも非常なる體力を要する労働の様に聞かれて、現に我日本などのそれが、概して骨格逞しく、鬼をも挫ぎ兼まじき者のみであるが舶來の鐵道工夫は必ずしも然らず。學生あり職人あり、酷たしきは日本に於て、筆や算盤の外は持った事の無い人々のそれであるのだ。然らば其體力を以てして果して如何なる仕事が出来るので。

勿論、鐵道の労働に日本と米國との差別ある事なき也。而も其處に「タイム、イズ、マナー」の米國が會得されるのである。唯夫れ「シャヴェル」を手にして「ハン、カー」に附纏ひ、伶俐に其一日の九時間半を消すのが寧ろ苦痛な位のものである。従て餘りに能く働く者に對しては背より土塊を抛るの制裁さへ行はれて居

て、猶其仕事の上に著々と進捗の跡を見るを得るが如き固より何人も怪しむ所である。而も秩序ある怠惰は規則なき勤勞よりも毎に其歩を前むるの諺を、今我在米同胞は此事實の上に踐まされつゝあるのだ。

宜也。其處に喫煙を禁じてある、如何に渴しても各自に水をとらせない。畢竟

「シヤヅエル」を其働きの手より放させないのだ。假し一秒時と雖も時間中は秩序の外に動かれぬ様に出来て居る。故に總勢人夫何十人の中より、水「ポイ」と言ふを置き、食事の始末をする者を省き、「チユイガム」乃至「マドロス」煙草を許し要するに分秒を合せて大きく時間の節約をしてあるのだ。而も此處に白人「フオーマン」の如何ともすべからざる「スペンド、ポイ」があるのだ。他なし、渠等人足は立ち代り、入代り、十人中一人は必ず大便か小便かに、二町も三町も遠くの藪蔭に隠れるので、五十人の「ギヤング」ならば一日五人は便所通の「ポイ」としてあるが如き、頗る耳新しい人夫傭役法ではないか。

スペントポ
イとは何ぞ
水ポイ
クツクポイ
煙草のポイ
便所通のポ
イ等是也

以上は以て鐵道働きのなるものが、如何なるものなるかを、知るに足れりとするも、予が之を、特に我在米同胞が大なる勞力の供給として、讀者に紹介するには餘りに無意味である。されば此より逐次項目を明かにして、其勞力の程度より、仕事の種類、賃銀、場所、受負者、「ボツス」、及び人夫の衣食住と生活状態等、之を簡潔に委曲の道に出で様と意ふのである。

米土に我同胞の鐵道働きは、無論工夫と言ふべからずして人夫と言ふべきである。何となれば、工夫としての仕事は白人勞働者乃至、日本人と雖も至極少數の頗る古參勞働者にあらねば之を執らさぬ事實である。故に名は鐵道工夫でも、働きは枕木の運搬位ひが關の山にして、普通は一日九時間半の長き間を、前にも説へるが如くに、土塊と砂利とを相手とし「シヤヅエル」を持つにあらずして「シヤヅエル」にもたれ、「ハン、カー」を押すに非ずして、實に其隋力に吊られ歩くの

何を
するの
だ

である。

二

鐵道の働には如何なる利益がある

此程度の勞力を以てして其賃銀を言へば、無論、他の働口に比して最も低廉な否、割合ひに安い仕事であるけれども、其勞働力需用の多々益々辨する點に於ては、米國の勞働中畏らく之が右に出づるものは無いので、自然其處に勞働賃銀の貯蓄も、規則立つた節約の上に行はれるの利益があるのだ。

一ヶ年千圓の貯蓄雜作なしと説ふ者あれど是無責任なる生物識の言

し、則ち現金に非ずして會社の「チエッキ」を以て勘定されるのである。而も其「チエッキ」たる、如何なる片田舎にても現金と同様に通用するので、聊も不便は感じ無い。惜むべし、其片田舎が一吋四五哩の道程は總じて鐵道働きの常にして、幸か、不幸か、勞銀浪費の憂ひの無いのは、則ち屋外勞働中鐵道を以て實に第一位の働口と稱されて居るの事實だ。

鐵道工夫一萬七千人

さればこそ在米日本人の七分の一は、所謂之に鐵道工夫であつて、其所屬の會社名、線路名、請負業者名等の類別如きは、都て限りある紙數の盡し得べきにあらねど、今之に其梗概を枚舉すれば、多少能く人に知られたる數のみにても實に一萬七千に垂とするのである。就中、東洋貿易會社の「シー、ビー、アール、ライン」、近くは電鐵の「オーセアン、シーニック」など、殆ど日本人でなくては成ら無い事の様に意つて居るのである。否、多大の信用を以て渴仰されつゝあるが如き之に勞力供給者として我同胞の前途亦誠に多事の限りである。

三

場所は何處である

「ワシントン」、「アイダホ」、「モンタナ」、「ノース、ダコタ」、「ミシソタ」等の諸州に奔る「グレート、ノーザン、ライン」、此には小西某の手によりて我同胞の就働者約四千人とあるのだ。

次に來るべきは遠く下つて、就働者凡二千二百人。是を所謂る桑港に名代たる

屋外勞働

「エス、ビー、ライン」の倉昭組である。

之と相角逐して互に下らざる脇本某こそは、則ち前項倉昭の乾分なりしが、數年前何事かに衝突して、右の倉昭の下を辭し、今は單獨に「サンタフィー、ライン」に其旗を擧げて居る。就働人夫略二千人とあり。

「オレゴン」の一州を自己の細張内として鬱然「ポートランド」に本據を構ふる伴某こそは、所謂る布哇領事館書記生の古手とありて、人足の畏敬太しく、配下一千九百の鐵道工夫皆夫れ手足の如しと聞いた。

千八百の鐵道人夫を「ユークタ」、「コロラド」、「チブラスカ」、「カンサス」等の諸州に送る橋本某。千六百の犬飼某。千三百の大槻某。一千一百の光勢某。約一千人を有する山本某など。皆夫々に得意の會社があるのだ。曰く、「サウザン、パシフィック」、「ライオン」、「ノーザン、パシフィック」、「ウエスタン、パシフィック」、「ユニオン、パシフィック」、「タクマ、イースタン」等、到底吾人が記憶の能く

し得べき限りにもあらず。又多事の秋ならずや。

四

而も之に不足を言へば、此等人夫請負業者並に鐵道「ボツス」なる者其の責任であるが、そは別纂鐵道人夫請負業者なる題下に説叙するの必要あるが故に茲には唯渠等が如何にして無責任なるかの數語を並べて措く。

鐵道「ボツス」は共同自炊の原料購入に、食料、雜貨、取引先と結托して、無法なる價を其勞働賃銀より天引するのである。

請負業者は周旋屋、宿屋等と喋し合せて、周旋料、手数料、事務室費、病院費など、あらゆる名目の勞銀を先取するのである。

勿論、如斯にして弱者の頭に徴發せし弗仙は、第一に自己の恆産を殖し、第二に會社への信用となるのであるけれども、之を一般勞働者の側より見れば所謂泥棒に駄賃の損失であるのだ。我同胞は自己の覺悟一つによりて必ずしも此徒の

逆刊を参照すべし

泥棒に駄賃

手を経るを要せず。會社は今や同胞を歓迎しつゝあるのだ。何ぞ此徒を待つて其
働口を貪るの要あるものぞ、速かに自覺すべきである。

五

今少しく鐵道働なる者の日常に就て之を言へば、又餘りに頼母しからざる、
則ち芳しからざる節もあるが、それは固々非常の覺悟ある者にあらざれば非常な成
効は出来ないと覺悟してかゝるの要があるのだ。

従來の境遇、將た其人身分の如何に依つては到底辛抱の出来ない場合も多々あ
るのだ。他なし、之に従事して居る者の多數は、誠にお話にならない種類の人物
許りであるから、日々の勞働の無意味なるに加へて、身は是れ天外の旅客、旦暮
の情、朝夕の心、話相手になる友達の無いなどは頗る的の苦痛を感じる。殊に少
しく米化したる其心性の甚だ下劣なる事、共同自炊等を遣るには、餘りに無差別
の夫れによりて、眞に厭ふべき念ひに煩むが其落であるのだ。故に、之に其身を

起臥！

一弗三十五
仙の勞銀

或者は一弗
七十五仙と
云へど嘘で
ある又飲食
も自己の負
擔にして鐵
道に先方賄
なるものあ
る事なし

投ずるには、差當つて本も讀まない、團子汁も吸ふ、粗食に慣れた、古參の百姓
共から命令されても腹の立たない、意久地の無い、衝突し無い、意地の汚ない、
虱から食はれても、何とも意はない、塵埃の中に容易に眠る事の出来得る等の人
人でなければならぬのだ。

渠等は一弗三十五仙の勞銀に對して、一日大概十八九仙の共同自炊を爲しつゝ、
あるのであるから、飯は腹一杯食へるにしても、其副食物としては彼の高野豆腐、
氷昆弱、干瓢、切昆布、干大根等の煮染で満足して居るのだ。處によると、三
度三度、日も日も、團子汁と言つて、小麦の粉を丸めて、味噌汁に煮込みたる物
に飢を凌いで居るので、そして夫れが又甚しく汚く何厘何毛と、米貨にありも
しない勘定をするので、實に愛想が盡きるのである。勿論、孰れも勞働者の事
あるから、何も殿様の様に自重するの必要は無いが、兎角に其人の前身の如何に
依つては、忌で、忌で、辛抱の出来なくなる事を充分に、豫め覺悟して、之に就

屋外勞働

働するの必要がある。何となれば、一旦拂つた周旋料、乃至手数料等の約十餘弗は再び自己に戻らざればである。

同じながらも「セクション」と言へるに働けば、少人数にして、則ち氣の合つた同志、面白可笑しく、其日其日の働きを執る事も出来るのであるから、餘りに下等な事を厭な人々は、前項に所謂「ギヤング」、及び「エキストラ、ギヤング」等の働口を避けて、之に働いた方が餘程の好都合であるのだ。「ギヤング」が列車を家として今日は此處に働かかと思へば、飛電急を報じ來つて、翌日は三百哩も四百哩も、遠隔の彼方に稼ぎ廻るに比し、「セクション」の如き一定の場所に居を構へて、五人或は十人が、恰も一家族の如くに、睦じく、其附近の修繕工事にのみ従事し、日曜は「ハン、カー」を推して近き「タウン」に命の洗濯と出掛け、一杯の葡萄酒、一皿の「ケーキ」、之を「セクション」に土産して、所謂「ハッピー、ホーム」を諒ふの樂しきに、到底及ぶべくもあらずである。

セクション
とギヤング
の區別及生
活

葡萄酒の價

因に記す。「ギヤング」則ち我二升四合弱の「ワイン」は米貨二十五仙を以て購はれるので、労働者五人の酔を假ふに充分である、勿論。此種の「ワイン」敢て上等とは言ふべからざるも、下手な日本酒などよりは飲口に於て、健康に於て、遙かに勝るものあるを予は確かに信ずる。

第二節 鹽田

鹽濱働きと言へば、非常に過劇な労働にして、大概は在米同胞労働者に嫌はれるので、其多くは事情に暗き新渡米者が所謂惡徳旅館の周旋に陥つて、之に追ひ込まれ来るもの、様に説を爲す者もあるが、事實は必ずしも然らず、所謂惡周旋屋の手を避けて、尋常なる手續の下に就業すれば、満更見込の無い働口でもないのだ。而も其働が他の屋外労働に比して、骨の折れるのは正に事實であつて、今彼屋外労働なるものを則ち體力消費の多寡に因て等差を施し來れば、實に次項の

一日約三四
の勞銀を得
らる

屋外労働

順序である。

其最も勞力を要する者には、

炭山、鑛山、鹽田、「チャップ、ウード」、鐵道等であるが、

女小供の體力にても差向へ無きものには、

菓園、「キヤナリー、ウオーク」である。

其中庸のものとしては、

「ソーミール」、農園、菜園、漁業の四種であるのだ。

如上是米土に不案内の人々が、輕々しく周旋屋の口車に乗せられて、聊かも自

己の體力を計らずに、より以上の苦役に陥る事なき様にとて、之に並べて見たの

ではあるが、又以て米土の勞働なる者に、勞力の程度を定むるの標準として、決

して謬りなき事を信するのである。

予は鹽濱の働きに就ては、此以上の話柄を有し無い、否、有しないのでなくて

體力と勞働
種別

未だ夫れ程に同胞の勞力を供給し無い事實であるのだ。

第三節 チヤップ、ウード

「ツラスカ」、「ウオーナッククロヴ」、「アイルトン」、「スタクトン」等、其他諸方面に

かけて、近年に至り「アスバラカス」新園の増加は、端なく同季節の仕事たる此「チ

ヤップ、ウード」に影響し、其請負業者の如き、あらゆる手段を盡して伐木人夫を

募集すと雖も、曩には冬籠り唯一の仕事として、所謂焚火仕事に其懐を暖めた

る當年の冬枯れ人夫諸君、今や急に氣強くなりて、打て變りたる貞侍ひ、非常な

る打撃を伐木勞働請負業者に加へ居るとは、少しく小氣味善き話柄にして、又如

何に米土の生産業に勞力の拂底せるかを見るに充分である。

此仕事も亦た骨の折れて、それで勞働賃銀の低廉なるの代償としては、年が年中

何時にても、至る處に働口が得られるのであるけれども、之に赴く者は甚だ少

屋外勞働

チアツツ
ードとアス
パラガス新
園の増加

く、何れ夏場の仕事も済み、下宿に居ては徒らに食ひ込むの恐ある處よりして、
致方なしに、遊むで居るよりはの諦めの下に、此仕事に出掛くると云ふのが、則
ち今日迄の状態であつたのだ。然るに今や然らず。之に赴く者絶無とありては、
吾人は我在米同胞労働者が、其屋外労働に、所謂る自家勢力範圍擴張の一大徵
證として坐るに微笑せざるを得ないのだ。

尤も、我日本などで樵夫が山へ行く事を想へば、何れ移民會社の厄介者のたる
出稼阿蒙の癖に、さる贅澤は言へ無い筈ではあるけれども、奈せむ、人間と云ふ
奴は妙な物で、一旦労働の高い處に来れば、安い處で食ふや食はずに居た昨日の
淋しい味を忘れて、慘憺たりし昔日の境涯を忘れ勝ちなるもので、遊むで居ても安
い賃銀には働かないなど、横着珍無類な音が出る様になるから、頗る可笑しい
のである。尤も、高價なる恰好な働口があるのに何も態々、渠等の言の如くに安
く働くには當らないのである。

起臥飲食

根掘と伐倒

此又天幕、假小舎などの中に十人將た二十人の一隊が、所謂る共同生活の自
炊であるが、其處には例の出稼阿蒙のみにはあらで、則ち多少は趣味ある學生な
ども見へ、共に話せる相手が往々にしてある。従つて其親睦業にあたるの態が、
鐵道、鹽田などは自然に趣を異にして居るかと思ゆる。聞く所によれば、此働
口に限り百姓と其伍を耻づる人々の隠家となつて居るとの説をなすものあれど、
そは如何にや。併し他の働口に比し、百姓の少いのも事實で、學生が大部分を占
めて居るのも事實で、食事などの稍々非團子汁的なる事など皆事實である。
少しく其仕事に就て説へば、之に兩様の働きがある。其一を根掘と云ひ、他の
一を切倒しと言ふのである。此は唯單に薪材其他の用材を得るのが目的で働かさ
れるのであるが、前者になると、其燃料が目的である上に、又一方に土地の開墾
が目的であるのだ。樹木の大小を擇ばずに、都て其根までも掘出さねばならぬ
のである。

一弗三十仙の勞銀

勿論。勞銀は其孰れもが、木質の硬軟、薪材の多少、用材の大小、地質の如何等に因つて、各々其働口方面に等差はあるが、差當り一定した通相場とも言ふべきものには、則ち「コート」と稱へて、高さ四尺、長さ八尺、幅四尺に積重ねる丈に伐り出し得て、それが一弗三十仙と言ふ譯である。

猶亦孤り此仕事のみとは限らないが、普通此種の働口に限り、則ち「ピース」働きとするの例にして、日傭契約は一切許さ無い仕事、此以外にも多々ある。それは仕事の性質に關係があるのだ。何人も米國に勞働する以上は、所謂自家利權の爲に此間の消息を豫め考へ措くの必要がある。

其場所も前にも説ひし如くに、殆ど至る處にあるが、例の「ヘーワード」附近及び彼の「カームルバーレー」を圍みて、「モントレー」の「ビー、アイ」會社「ベルモント」會社の「チャップウッド」と言へば、又却々に盛むるものである。現に「モントレー」に於て野田某の手に伐出さるゝ物のみにて、實に年々七八千「コート」

場所！

を下らすとあるに徴しても、如何に此働口に勞力の需用が豊富なるか、識られるのだ。而も我在米同胞は他の働口により、以上の有利を占めて此働口を鼻で侍らふなどは、少しく冥利に盡きた現象である。若之が我國の日傭稼人なりせば當に土下坐で此仕事を貰はむと拜むのである。是亦少しく當路の考ふべき事であらねばならない。

第四節 ソー、メル

直立一萬尺以上の落機脈を擁する彼西部北米の森林は、既に耶蘇紀元後を以て算するも早や二十世紀とあるに、開闢以來何事ぞや、未だ一回も斧鉞を下さるものゝみであるのだ。滿望皆是れ檜、松、杉等の良材である。繁茂するの喬木大樹鬱蒼として晝猶開しとあるのだ。殊に「オレゴン」、「ワシントン」、「アイダホ」、「モンタナ」、「ワイオミング」等の如き、其周圍約十數丈の長物無用に雲を衝いて

立つて居るのだ。地軸は知らず天柱は方に米土に之を見るべきか。

米國に於ける木材の價は伐り出費用に止る

一日二弗

而も之に其價はと言へば、殆ど無代價である。米國に建築用材の價は則ち採伐費であるのだ。所謂る鐵道の運賃であるのだ。今や「アイダホ」を中心として「ソーメル」に至る所の諸州に設計されつゝあるの結果、我同胞にも亦既に年賦拂込など言ふ方法が講せられて、現に數千「エークル」の山林を譲受け、之に調材業を起して居る者が「オレゴン」州に於て、規模の大小は兎に角く、四人までである。左は言へ之に勞働者としての我同胞は、例の伐木業の働口と均しく、甚しく少數である。尤も此林業にでも行く行くは志のある者ならば、勿論、之に勞働するのを得策であるが、差當り他の屋外勞働の様に手近き成功が其處に望まれないのである。従つて之には一日二弗を支給しても、絶へて應募者の續かない所以であるのだ。又も繰返す様ではあるが、以て米土に其生産が如何に勞力拂底の爲に阻害されつゝあるか、知れる。

之に働いて居る同胞の話に聞けば、此働口たる彼の伐木業の様に、別に骨の折れる様の事なしと雖も、最も苦痛に感ぜられるのは、謂はゞ山住ひの寂寥である。とやら、爾り。得知らぬ風物に倦きし異域の眞情である。勿論斯業の性質たる勞働者の小き眼には餘りに太過ぎるのだ。

是亦例の假小舎住ひの共同自炊であるけれども、小舎掛け丈は充分に工場の方から木材を供給もされ、濫用もする事が自由である爲に、所謂る四疊半に八疊の床の間、押入れ附きと言つた様に、造營は甚だ自由であるとの事だ。但し米國丈に疊障子は生憎に、唯だ「フアニチユアー」のみの善美である。食物は又相變らず満足な物は得られ無い。何となれば、自體共同生活と云ふ奴が、自分獨り勝手な食事を執る事が出来ないから、詮方なしに皆と共に不味い物に其飢を忍ぶの外は無いのである。併鐵道程で無い事は保證する。

第五節 漁業

海國の民として、魚肉を嗜む人種として、漁業は我同胞の特技であるの割合ひには、米國に我同胞労働者が漁夫としての勢力は至極微々たるものである。そは彼地に先入の主人があるからである。

恰も我日本の如くに海國で、魚肉を常に用ゆる國民で、則ち「フヒシユマン」としての特技を有する「イタリアン」が在るからである。併し又一方には、我同胞の米土に在留する者の多くは、漁業の方よりも寧ろ農園に馴れたる百姓の出稼が、一に此方面の無勢力を作つた譯である。換言すれば、陸に働く可く渡米した者の多い爲めであるのだ。而も全然皆無では無い「コロンビア」河の鮭、「モントレー」灣及び英領「フレザ」河の夫れ等は、皆是れ北米の同胞漁夫によりて發展されつつある唯一の證左である。

日本と伊太利

千九百二十
八人と五千
人との差

殊に英領「フレザ」河の如き、年々の根柢擾ぎ血塗れ沙汰等、必ず白人労働者との間に演せられつゝも、或は白人會社側の同情と爲り、或は所在軍隊の保護となり、或は本屬警察官の非常召集となり、其處に我同胞の勢力の却々に頑として動かない所を見ては、寧ろ餘りに微々でも無い様である。

英領加奈太の日本人漁夫として、在晚香坡帝國領事館の報告によれば、昨年十二月末に「フレザ」河漁場に在りし日本人の數は男二百二十四人、女僅かに五十七名とあれど、そは所謂漁期に非ざるが故の少數である。溯て其六月末の調査たる「サモン、シーズン」の現在を見ずや、男一千八百〇八、女一百十九、計千九百二十八、日本人所屬漁船八百六十四隻とあるのだ。而も此調査たる所謂根柢を構へて其地を動かざる漁夫の事にして、「シーズン」中と雖も甲の會社より乙の會社へと流れ回る者の數を合すれば、少くも五千の同胞は依然として其處に斯業の原動力として一に會社の命脈を握つて居るのだ。故ある哉。此季節ともなれば、

屋外労働

其附近一般の景氣は怖ろしくも、遠く桑港邊にまで響くので、則ち加州農園の資本家間に一大恐慌を起さしむる位である。

又之を「モントレー」灣の鮑に見るも、我同胞労働者の一人、支那に輸出するの目論見を以て、曩に乾鮑の製造を試み、一時旺むに同胞労働者の勞力を漁夫として此方面に吸収し、急ちにして農園資本家の視線を集めたるの結果、端なく其處に同業競争者を出し、兩々蹉跌の悲運に沈淪し居る事實であるが、今や滅絶の狀態は其處に翼を收むるもので、遂らず再び飛躍の時ある事を堅く信ずる。再び斯業が蘇生するの時あつて、我同胞の特技を俟つ時機運に達する事を予は近き未來に信ずる。「サンジョアン」の沃野と雖も追々には鱒の肥料も必要也。我海國民の發展、着眼は勢ひ此處をお留守にする筈が無いのだ。

同時に此の「モントレー」灣に成功の歴史を語れば、農園労働者として渡米せし一和歌山縣人某である。渠「イタリアン」、「スバニッシュ」等が特技を見て、笑つて

モントレーの我同胞漁夫の成功

起ちし我同胞の一隊は、則ち和歌山縣人木村なる者を初めとして、良好なる成績を此「モントレー」なる白人「キャナリイ」から認められた。従て同地の漁業權は全く同胞の手に落ちた。然るに之を目にせし白人漁夫何で指を咬へて成行に任かするものぞ。極力以て同胞の漁業權を抑制せむものと運動して果さず、遂には「サクラメント」なる白人漁業組合の後援を假つてまで壯むに排斥運動を實行して成らず、嚴重なる交渉も白人會社に對して其効を奏せざりし彼等は、直ちに我同胞漁夫への迫害と出掛けた。而も「フレザー」河に於けるが如き擾騷を見ずして、我同胞漁夫は其勢力七分以上を今日に占めて居るの事實である。

猶此以外、至極少數の漁夫の需用は、現に桑港の漁鮭如きにもあるが、今我同胞労働者が漁夫として毎年少數ながらも極めて規則的に、勞力の供給を爲しつゝある如上の箇所其季節を明かにして説けば概して次の如くである。

英領加奈太「コロンビア」州「ヴァンクーヴァー」の南東十四哩に「フレザー」河

の海に入る處、其處に鮭魚が潮と共に、潮の如くに上るので、毎年七月上旬から、八月を越へて九月中旬迄其處に人氣は宛然戰場であるとの事だ。

西部北米に「ワシントン」と「オレゴン」の州境「コロンビア」河と言ふのに亦た漁鮭があるが、此處に限り「シーズン」が春秋の二期と成つて居る。春は二月の中旬から三月の全一箇月を越へて四月の中旬迄を限りとし、秋の方は稍々短期である。則ち八月の中旬から九月の中旬迄滿一箇月の夫であるのだ。

極北亞刺斯加。此は無論一年一期で「キャナリー」所在地の氣候により、其の「シーズン」の如き固より一様には行か無いが、概して五月上旬より八月下旬迄の凡四箇月間であるのだ。此處に同胞漁夫の勢力は殆ど皆無であるが、向後一日も忘るべからざるは此亞刺斯加の富であるのだ。詳細は本章第七節第八節及び近刊各自本項に譲るとして、猶最後に一言の必要は又も「フレザ」河の鮭であらねばならない。

各節及近刊に就て参照すべし

無責任なる出版物に就て

或者の言に聽けば「フレザ」河の漁鮭は一人一日の漁數四五百尾宛は確實である、毎年其直段の平均も一尾八仙から二十五仙が止りの相場であるかの様に説ふ者ありと雖も、眞に途方途轍の痕方も無い嘘の皮である。思つても見るがよいのだ。其最も安い値の八仙にしても十尾の八十仙である。百尾の八弗、五百尾の四十弗宛を、七月上旬から九月中旬迄の「シーズン」八十日間に、毎日獲り上げ得るとして實に幾何の勞銀となるのだ。

「シーズン」八十日の中、假りに五十日間を以て其「ハード、タイム」とするも、實に其盛期のみにても十日間の四百弗である。則ち五十日間の二千弗を得られる勘定ではないか、如何に沿岸大陸は勞銀の高い處なりとは言へ、餘りに讀者を馬鹿にした話である。單に机上に調査の杜撰ならば一應宥しても遣るが、苟も出鱈目の原稿を賣るの目的に、所謂無責任を並べたのが其意であるとならば、世人は須らく此徒を出版界より嚴重に制裁すべきである。

若夫米土の事情に暗き人の耳を以て、斯かる手合の言を眞船に受けむか。孰れも人間は欲の塊りであるから、直ちに其最高値の處を見積つて、二十五仙宛の百尾で二十五弗、則ち五百尾は一日の百二十五弗と算するのだ。之を「シーズン」八十日に對せば巨額一萬弗となる譯だ。噫々八十日で一萬弗！何程新大陸に遺利が捨つてあるにせよ、今少しく考へて口を開かざれば、折角に振回はしつゝある米國學位の估券が、唯さへ餘りに高くもあらぬに、或は下落せずやと、世人が切に心配するのも無理は無い。

故に編者は正味正直の處を説いて、此手合の面皮を剝いて遣ると同時に、從來の誤解を讀者に釋いて貰ふと意ふのである。それは斯うなるのだ。所謂漁具漁舟の一切を白人鑛詰會社、又は白人の魚商會などから賃借して、其借た舟と網とで得た鮭を一尾二仙五厘乃至三仙に買込むで貰つて、年々「シーズン」の八十八日間全額二百五十弗内外の勞銀に浴しつゝあるのが、今の我同胞「フレザー」河

シーズンの
二百五十弗
内外

漁夫の現況であるのだ。

併し乍ら僅々三箇月弱の日子で、其處に二百五十弗の勞銀と言へば随分と大したもののであるのだ。如何に危険にして過劇の勞働であるとは言へ、到底農園勞働の比では無いのである。農園は安全であらう。而も一年三百六十五日かゝつて其蓄積は、餘程性根の引占まつた者にて漸く二百五十弗を得られるので、普通は先づ二百弗内外に過ぎ無いのだ。されば之を僅々三ヶ月弱の日子に得むが爲には白人同業者の迫害を受けるが如き、棍棒騒ぎ・ピストル三味・漁具流失・難波強く、偕は水流急にして自分等の乗つて居る舟さへ流される位の、危険を冒すのは固より當然の負擔でなければならぬ、又之を冒す覺悟が無くて何が出来るものである、要するに虎兇は虎穴である。

若之を或者の言の如くに八十日一萬弗の勞銀と聞いては、猶更の事である。宜敷く國家を空家にして、家内總出で行くべしである。本職の漁夫は言ふまでも無

く、常備兵も、警察官も、國務大臣も、兩院議員も、男も女も子供も年寄りも、あらゆる國民の都てが此「フレザー」河の漁鮭に行く可きである。鹽の專賣、煙草の專賣、通行税の延期繼續、鐵道の國有、國庫債券、外債募集等、何を苦むで斯かる面倒臭い經營に、吝を絞るの必要が何處にあるのだ。我日本政府は急ちにして四千億弗の八千億萬圓政府となられるのだ。假し之を半分と見て、二千萬の國民が行くとしても、我政府は僅々三ヶ月弱の日子を以て、寸毫の資本なしに二千萬萬弗の外資を輸入し得る譯である。否應なしに四千億萬圓の富國政府となり得られる「オメデタ」話であるのだ。

第六節 炭 山

「コール、マイン」之は其初に於て斷つてある様に、同胞勞働者の坑夫として之に勞力を供給しつゝある者は非常に少數である。従て、別に項目を分けて説く必要も無い位なものであるが、均しく少數と言つても、之を鑛山の方に較べては、餘程多いかと思はれるのだ。現に「ワイオミング」州なる「クフスリング」の炭坑に我同胞の働いて居るのが殆ど五百はある。

炭坑の働きに就ては、是亦別に説明する迄も無く、日本にも諸方に多數の炭山が在つて、大概に其勞働の模様、内情等、弘く坊間に知られ居る事故、敢て事珍しげに紹介にも及ぶまいが、米土の之は滿更見捨てた働口でも無いのだ。但し能事事情を研究して、同時に困難の一切を覺悟して、當り前にして赴く事が必要である。苟も僞られては大變であるのだ。

さ云へ米土に出稼して、炭坑に其身を投ずるなどは餘りに見込なさ過ぎる譯である。何となれば、炭坑それ其物が見込が無い譯では無い。我同胞勞働者は米土に炭山坑夫となる丈に、それ丈多數では無いのだ。より以上の働口にさへ常に拂底であるのだ。炭坑に送らるゝ程に有り餘つては居ないのである。而して其處に

赴く、則ち見込無き過ぎる者に非ずして何である。併し乍ら周旋屋の利益よりすれば頗る見込があるのだ。何ぞや、農園人夫周旋以上の悪銭が其懐に入ればである。

或者は同炭坑へ日本人労働者の供給を受負ひし、光勢久次郎、井木耕作如き桑港名代の敗徳漢の爲に、頗付き大々的のお太鼓を打つて、ヤレ一噸の採掘料が六十仙の割だの、八十仙にもなるのと、悪い處拔きの、善い處許りを吹聴がましく自著の出版物に並べ立て、居るが、餘程怪しい次第である。勿論、それは六十仙にも八十仙にもなり、一日三四噸乃至五六噸は掘れるので、所謂渠等の言の如くに一日三弗六十仙位には正に、確かに、眞になるのである。否、ならなければならぬのだ。

而も意せよ、一日三弗六十仙に稼げてさへ、其坑夫と爲るべき當初に仕入れたる否賣付けられたる道具代乃至、悪徳周旋屋に徴さるる費目の償却に、容易に

其税は上らないのである。それが三弗五十仙とやらに稼げなかつた日には、彼農園仕事の如くに一弗五十仙位の勞銀であつた時には、其炭坑に五年も十年も煤らなければ、三四年間農園に働いた丈の貯蓄は出來ないのだ。故を以て渠等泥棒漢は甘言以て新渡米者を、之に陥れるに其内情の一切を、審かにしない譯であるのだ。

去る千九百〇一年の暮であつたと覺ゆる。渠等が「ワイオミング」に送つた坑夫の中に、特別に氣丈な壯丁が五六人も在つて、それが一旦は其口車に乗せられて此地獄へと運び込まれたのであるが、却々に此手合の事連、普通人足の如くに逆往生すればこそ、致方なしに働くと思ひの外、突然「サンフランシスコ」なる周旋屋の許へ歸つて來たのである。所謂血相を變へて、命からしくな目に逢ふて、炭坑を逃げ延びし顛末から、都て當初の約束の一切の相違を、則ち周旋屋の元扱たる久次郎耕作の者共に、疊かけて詰つたのである。其處に彼等は危くも殺され

悪徳旅館と
新渡米者

む許の嚴談に遇ふて、散々に醜態を晒した事實があるのだ。

渠等周旋屋なる者共が、逃歸りたる労働者に對して、一片の制裁を加ふる能はざるが如き、之は常に渠等が自己の惡徳行爲を、其處に證據立つるものであつて、又如何に渠等が此種の不徳を、常に労働者の弱い者のみに振舞ひつゝあるか、識られるのである。固々渠等の心事たる、「三十人を死地に陥れるに其過半を逸するも由來資本を要さざる商賣に、唯の一人前丈にても得た丈が儲けである」と言ふのだ。「パツス」は會社の損耗也。働口の善惡は之に赴く者各自に撰擇の自由あり。必ずしも周旋屋の與る幕にあらず。責任は他人にあり、權利は常に自己に存す。要するに周旋屋は周旋料授受の終結と共に、周旋に關する一切の事故に其責任も亦終結すると言ふのが、實に渠等の主義であるのだ。

それは彼等の説ふが如くに、正に三弗六七十仙の日給には相當するのである。而も夫は非常に練れての上の日給であるのだ。眞に其當初は一弗の日給も六ヶ敷

一弗も六ヶ敷い！

惡徳旅館と
税關監吏

いのである。加ふるに其一弗さへ種々雑多なる道具代等の爲に、毎勘定控除されて、労働者の懐には唯に煙草の代さへ得られないてふ事實は、渠等の動物性に押包まれてあつたのだ。三弗六十仙の月額として一百〇八弗の「テンパーセント」則ち十弗八十仙の「コンミッション」が欲しさの一念に押包まれて居たとあるのだ。北米に同胞労働者の周旋屋なる者、多くは新渡米者を「ウオーフ」に出迎て、動もすれば直ちに此類であるから、須く心すべき事である。

因に記す。周旋屋としての旅館業者たる彼等は、税關監吏に賄ふて自由に船中に入出入するの便宜よりして、彼等が三等船客に對する暴狀は實に言語の限りである。就中、布哇より來る労働者と見ては却々に逸する事なく、人間を恰も荷物の如くに、渠等同業者同志互に相奪ふので、日本よりの乗客も亦會話の拙なきを幸ひに此手に拉し去らるのである。蓋し渠等の目的は宿泊料にあらずして、所謂周旋料の惡錢にあるか。爾り、あらゆる口實の下に手数料を徴發し盡して則ち炭

山送りとなすのである。

第七節 鑛山

鑛山の勞働。此も亦た前述の如くに未だ我同胞の勞力範圍で無い。勿論、之には種々面倒なる條件があるので、我同胞は恩、白人勞働者と雖も其資格を具備せずては、其處に就働させないのである。

而も之を予の記憶に呼べば、我十四萬の同胞中四五人はある様である。「コロラド」の奥の銀山が一人「チヴァタ」の「ゴール、マイン」には山形縣人立木某を始めてとして外に二人迄ある。「アラバマ」の鐵鑛に一人、而して極北亞拉斯加の金鑛探險には、例の有名なる和田重次郎と云へる名物男さへ居る。

吾人は前に同胞漁夫の勢力範圍として、此の亞拉斯加の特に注意すべきを説けり。而も今又た金の亞拉斯加として、再び讀者の注意を呼ばざるべからず。「ドブ

金の亞刺斯加

ソン」駐劄英領事「ランダル」の報告に因れば、亞刺斯加の金塊は近來に至り著しく漁獲の利よりも超過するに至れり」と。爾り、一昨千九百〇四年の採掘額は單に九百萬弗を算じたのであるが、昨千九百〇五年は僅かに前半季を以てして、急に一千四百萬弗の巨額に飛躍したのである。

同領事又曰く。來る千九百〇七年に於て、「ワシントン」州沙市に開かるべき「ユニオン」博覽會こそは、必ずや亞刺斯加の形勢に對し、當に一大新紀元を創始するものあらむか」と。吾人も亦確かに之を認むる。「タナ、」溪城の産額も亦大に増加したりとやら、宜也、昨年冬季より去る二月迄の金塊採掘高約一千三百萬弗とあるに徴するも、本年の亞刺斯加金鑛は頗る有望と云はねばならない。合衆國試金局長の説に聽けば、本年夏季の間に亞刺斯加に於て、採掘さるべき金塊は僅に二千五百萬弗の上に出づるを疑ふの餘地無しと。斯かる金無垢の亞刺斯加を僅々七百萬弗に賣飛ばした當年の露國は今之を何と聞くであらう。若夫れ米國が

二千五百萬弗以上

屋外勞働

南歐邊の小弱國ならむには、勿論、相手が相手の事であるから、所謂露士亞流に手込めにしてでも取戻す事であるのだ。

猶此種の勞働に就き此項に併せて説叙すべきは例の砂金の採集である。砂金採集是も亦た亞刺斯加が本場でもあらうが、之に所謂の砂金は加州「サクラメント」の河下一帯である。而して嚴格に云へば之は勿論勞働では無いのだ。少くとも自分で經營して自分で採集し、敢て他人に備役されざる點に於て、當に此は純然たる事業であるのだ。固より之を以て直ちに前途有望などとは云へ無いが、他に抱負ある人の爲に、其處に衣食の資をとる位の事は誠に豊富なる者である。差當り詩人一流の職業として、頗る恰好であると言ふのは、其日々々々にとる可き仕事か又如何にも詩的である。

詩人の職業

其附近一帯の流域に沿ふて、十坪乃至二十坪の荒蕪地又は堤防を撰擇し、之に對し向ふ何箇年の租借手續より先づ始むるのである。無論日々の採集高を標準と

一日平均二弗則我四圓にはなる

して、月々に勘定して行くのであるから、聊も危険は無い様なもの、極めて地代の安い、畑の土手でも構はないから、可成耕作に不適當なる地點を卜して之を借受ける事が肝要である。借貸否地代は極めて廉なるものである。而も採集額の如何によりては非常に高い地代となるのだ。

其處に「テント」或は小舎掛の理想を實行して、自炊して、孤りで土手を「ホジク」つて、それを水で洗つて、根氣強く其一日分を集めても、僅に二十仙の日もあれば單に五仙位の日もあり、乃至皆無の日もあるのだ。皆無の日は食はずに働かと言へば、其處には五弗十弗二十弗の日があるので、甘く採集された日が之を補ふて、一日平均二弗位の美食が出来るのである。勿論、食て了ふては心細い人には之を折半して一弗宛の備荒貯蓄も出来るので、殘餘一弗を生活の資にあて、も頗る贅澤なものである。

勿論、單獨の經營なるが故に一介の資本を要する譯でも無いが、我同胞勞働者

屋外勞働

の多数が之を面倒臭がつて、他の方面に赴くが如きは、確かに是れ一管の筆に人生の歸趣を耕すてふ、偉大なる農夫の爲に此餘地を空けてある譯だ、苟も我同胞の大なる思想ある者にして、讀者の範圍の狭小なる邦文に満足せず、下手な新體詩乃至「ヘナチヨコ」創作の跋扈する我東京の文壇に甘せざるの概ある者、當に往いて世界的に人生の趣味を究むる好適地である。

從て物質にのみ生きる、純然たる我在米勞働者の如きは、幸にして勢ひ其處に根氣が續か無いと云ふよりして、何人かの渡米を之に俟ちつゝあると云ふのだ。尤も支那人勞働者の如きは寸毫も此邊の抱負なしと雖も、能く其處に堪へ得るもの、一に金錢二に生命と云へる其感念が、直ちに渠等特有の其根性と化し、其氣魄となり、其手によりて市に鬻がるゝもの年々三萬弗の上にあるとは是加州々廳の統計、現下採集者は約五十人とあるのだ。

第八節 鐘 詰

沿岸大陸に我同胞勞働者の「キアナリ、ツオーク」は、随分と見込のある働口にして、最早今日の處丈でも餘程に大した者であるのだ。前節漁業の項に述べたるが如く、「モントレ」に「コロンビア」河に「フレザー」河に「サンフランシスコベ」に、遠くは極北亞刺斯加に、殊に此の亞刺斯加的如き、毎年三四月頃ともなれば、大小の船舶裝して、桑港至る處の棧橋に帆檣林立し、競ふて北征の纜を解く勇しき、又眞に感慨の極みであるのだ。

南部亞刺斯加的の半島形を爲して、其外洋に面せし處、乃至は白令海に「プリスタル、ベイ」を擁せし處、其沿海に大小凡そ九十有餘箇所の鐘詰工場は、亞刺斯加「バックアス、アッスエジョン」外二三の獨立起業會社の手に設計されて居るのだ。同時に其處へ鐘詰人夫として渡航する者は、概して我同胞勞働者である。滞在三

加 鐘の亞刺斯
九十有餘箇
所のキヤナ
リイ

屋外労働

★
箇月、幾萬「ケース」の鮭魚罐詰を滿載したる寶舟は、徐々九月頃から掛けて十一月頃迄に必ず桑港沙市等へ歸航するのである。

「シブブ」、「スコナ」、「バッキ」など、孰れも頗る船足の重きもの、右を見ても、左を見ても、相前後して白き帆の點々たる、それは桑港灣外に「タックポート」を待つ時の時である。指願の間、煙霧の裡、續々として「タックポート」現はれ、背に太平洋の鯨波白く、時に丈餘の噴水を眺め、果は洪笑一同に落ち、「タックポート」が何の世に潮を噴く事があると争ひ、黄金埠頭に帝國萬歳を唱ふる鬨の聲、何れか祖國感念の一斑に非るなく、身異域にあるの思ひは何處へやら、雄心轉た禁じ得られ無いとあるのだ。

此は固々近年迄支那人労働者の勢力範圍であつた。而も「ゲエリー」法案の實行に因て、一年一年に其上陸を禁遏されつゝある支那人労働者の拂底は、端なく吾同胞の上にお鉢が回はつて來たのである。謂はゞ今日我労働者が之に外人の起業者

支那人ボツ
スの好相續
者

★
から歡迎される所以のもの、則ち此事業に支那人労働者の好相續者として目指されて居る譯である。

故を以て我同胞は、之に勞力の供給許りでなくて、到底は、今の支那人「ボツ」なる者の立場たる、罐詰事業の一部受負たる、鮭魚罐詰製造事業をも、之に利權を握り得るの道途にある事を自覺するの必要があるのだ。契約面に履行すれば勞力は最も容易にして、仕事の上に他日起業者となり得るの見込が在つて、勞働賃銀が高値で、斯かる恰好の働口は又と容易に無いのである。

惜む可し。今日では目前の見へざる我利々々亡者共の爲に此亞刺斯加行人夫の供給は痛く不評判と成て居るのだ、爾り著者の如き確かに此働口を以て今日の不評判に落した責任者である。北米桑港の邦字新聞に「日米」と云はず、新世界と云はず、都て亞刺斯加鮭魚の記事と云へば、當初は悉く子の責に任する者のみにして、吾人は猶此上にも、何處迄も責任ある筆を執つて、斯かる單行の出版

近刊を参照すべし

手数を肩しても、悪徳周旋屋乃至泥坊「ボツス」等の動物共を、亞刺斯加行鐵詰工、夫關係の上に、先づ屠らねば止まないのだ。而も之には其項を改めて説く必要があるから、一切の叙事を別纂に譲り、今爰には少しく我同胞が鐵詰人夫としての状態一般を叙するに止めて措く事にする。

此「キヤナリー、ウオーク」に限つては、他の屋外労働と異り、事々物々労働者の消費目は就働中皆先方の負擔である。特に此の亞刺斯加行の如きは極端なる其適例にして、船則ち渡航費から、上陸後の屋舎、賄ひ、労働用の道具一切、果ては準衣服の如きに至る迄、其總てを供給される爲め、其處に勞銀は殆ど丸る残りの姿である。

我同胞労働者の亞刺斯加行は、實に去る千九百年を以て始まつたので、其第一年には「シーズン」九十弗と云ふ法外な格安であつた。而も金の亞刺斯加を知つて鮭の亞刺斯加を知らざる我同胞は、豫て労働者ならざる者迄が、過半は冒險心

第一年には九十弗

第二年に百三十弗第三年百三十五弗第四年百五十弗第五年百八十弗第六年二百弗第七年則ち本年は未詳なる也

やら僥倖心やらに驅られて、競ふて其募集に應じたのである。それは此行を利用して彼地に其身を止むべき野心を包藏しての應募なりし事として、何人も其九十弗如きは當初眼中に措かなかつたと言ふので、爾く、格安の賃銀に則ち泥的「ボツス」が成功した譯である。剩へ之は一人百十弗宛の受負契約なりし事が就働地たる亞刺斯加に於て發覺し、當年の濱田某と云へば、一人前二十弗宛の泥的「ボツス」の名聲、今に桑港に噴々であるのだ。

故に第二年月には他の受負契約者に由り、一躍して百三十弗と成つた。第三年月には更に百三十五弗と成つた。百五十弗と成り、百八十弗となり、第七年月たる本年は未だ其消息に接せざれども、第六年月なりし昨千九百〇五年は實に二百弗迄昇騰したる経過より推せば、必ずや本年は其以上に達したるなる可く、寧ろ白人労働者と均しく三百七十五弗迄に暴騰せしむるのだ。否、我同胞労働者は固く相結んで、彼等悪徳周旋屋なる者共に由つて從來に傷はれたる勞銀の損失を復

屋外労働

★
舊せしめざるべからず。彼等敗徳漢が手数料を丐根性の下に人夫受負競争の結果として、今も猶ほ受けつゝある勞銀の損失を一日も早く常軌に復せしめざるべからず。準繩に戻さるべからず。是れ予が先づ渠等動物共を屠らむと欲する所以であるのだ。

如何にして屠るべきかに就ては、人々により多々成案あるなるべしと雖も、先づ此「キャナリー、ウオーク」に勞働者と起業者との關係を究めて、其處に中記者を對るの方法に出でざるべからず。予は爲に之を説ふ、我同胞の勞力は如何にして會社へ供給されつゝあるのだ。今日では未だ我同胞に信用が淺い爲に、支那人「ボッス」なる者が罐詰の製造受負を爲して、日本人「ボッス」なる者が、支那人「ボッス」の配下に人夫の受負をして居るのだ。勿論、會社は直接に漁夫を白人勞働者より撰擇し、鮭を以て支那人「ボッス」が罐詰製造の原料に供給しつゝある事とて、我同胞の之に勞働力の供給と言ては單に「ゼネラル、ウオーク」である。屈

辱も亦た實に甚しい譯だ。

而も手数料を丐の渠等は言ふのである。「亞刺斯加に勞働賃銀は無論我同胞のが最も低廉ではあるが、かの農園に一年を費して三百弗を貯へ得るに比して、滿更割の悪い勞銀にあらず」と。咄！之を吾人に聴け「シーズン」と云へば大概六月下旬から九月中旬迄の滿三箇月を意味するのである。三箇月間を以ての二百弗は一年を以てしての三百弗よりも固より其割悪しからず。而も此三ヶ月たる、其前後に往復航程日子の約二ヶ月以上を帆前船中に費さるべからず。唯に是れ三ヶ月と二ヶ月の計五箇月のみに止まらば猶可也。加ふるに猶前後に出發準備歸桑後の勘定彼是れ又二箇月を費さるべからず。而して此七箇月たる、一年中如何なる時期なるかを思へ、凡そ三月下旬より十月中旬迄、晩きは十一月に涉るにあらずや。此季節に於て農園に勞働者の拂底は、其人の體量を黄金の目方にして賃銀を支給するも、猶ほ應募者なき季節であるのだ。予は此理由の下に言ふ、

三ヶ月は五ヶ月を意味す五ヶ月は七ヶ月を意味す七ヶ月は遂に一年を意味すと知るべし

勞働者の體量と金貨の目方

★ 亞刺斯加に三箇月とは畢竟一箇年の意味でなければならぬ。

渠等周旋屋は又曰く、「其往復の二箇月は船中に寝て居るに非ずや。則ちお客様也。唯に船賃を支拂はざるのみか、却て日給幾弗を受けられる船客が何處の國にあるのだ。畏く亞刺斯加行許りである。殊に労働地滞在の三箇月間の如き、純粹正味就働の日子は漸くに二箇月間にして、畢竟二箇月に對するの三百弗、又夫れ眞に甘からずや」と。之を是れ周旋屋の口車と言ふのである。

此口車は予と雖も又之を知らざるに非ず。彼白人労働者の如き之に三百七十五弗を得るの代りには、往復の船中に水夫と爲て浪と戦はざるべからず、風と共に働かざるべからず、帆前船の帆は日本船の如く掛放しにて行かざる也。猶亦支那人「ポッス」の如き、既に労働では無いが、僅に二箇月間を以て幾萬弗の巨利を博し得るの代りには、則ち幾萬「ケース」製造請負の擔保として、賭博的に莫大の金圓を白人會社へ契約提供しある事として、日々の漁額の如何によりては、青くなり、

★ 白くなり、側に見る目にも眞に氣の毒の感があるのだ。決して我同胞が渠等が漁額の少きに拍手して自己努力の省減を喜ぶ者の比では無い。

又之には白人労働者と雖も、漁夫として定額の三百餘弗の外に一尾幾許の利割が會社より下附されるのであるから、日々の漁不漁は孰れ心配の種子であるのに反し、孤り我同胞労働者のみが一切の無關係で、公役的の労働に其呑氣を遣る底の働口なるにも關はらず、二箇月に二百弗は或は彼等の口車の如くに結構過ぎた勞銀であるのだ。

而も此等は皆我同胞労働者の利權を無視した言分である。同時に支那人「ポッス」乃至白人漁夫鐘詰會社等のそれ等を中心として、我労働者の勞銀を觀たる曲解である。何處の馬鹿者が、自己を計るに他人を本位として自家の利權に及ぶ事やある。渠等悪徳周旋屋が其口車を弄するが如き、苟も己れを度外して我労働者の爲に働口を周旋すると言ふを得べきか、酷だしき利己中心主義の惡權化たる、無

責任なる手数料の爲にあらすや。他にあらす、唯其爲である。

昨今に至り我同胞中、此亞刺斯加に鑛詰製造受負業者一二人を輩出せしも、是皆惡「ボッス」の變體にあらざれば、例の無耻周旋屋の化身にして、孰れも「ペテ」的にあらざる無し。先づ當分の處人夫として、「モンロー」の同胞の如くに成效其緒に就くべく努力せねばならない。

第九節 テキサス

「テキサス」此は勿論州名である。而も此州に於ける我同胞近年の勢力は實に著しき推移にして、殆ど西部北米の同胞を凌ぐの概があるのだ。従て編者は此州の労働事情を此章の所謂夫れ等と雜叙して、苟も渠等に其新勢力を埋没するが如き無責任は避けざるべからず。少くとも是「テキサス」の同胞に對するの禮なると同時に、普く讀者に負ふべき義務である、此章に「テキサス」の一節を特に區別し

米土に一萬
一千四百六
十一エーカー
の地主と
は何である

我同胞と歸
化權

近刊参照

たる、又「テキサス」現下の夫れが重に屋外の者のみに限られてあるに由るのだ。

一萬一千四百六十一エーカー、此は「テキサス」現在の我同胞耕地である。而も之に我同胞が加州の耕地たる、六萬二千エーカーを比較して説を爲す者の如きは共に米土を談ずるに足らず。今我同胞の加州に關係ある、少くとも二十年以上なるに反し、此「テキサス」に同胞の視線の集りたるは實に去千九百〇二年の夏なりし也。未だ滿四箇年にもならないのである。それも單に米作を以て著はれたるに過ぎざりしが、今や我同胞の萬能なる、近くは野菜の栽培に迄も成功し、次であらゆる農園の需用に應ずるに達りたるが如き、是確に西部北米の向ふを張るに足る者である。殊に同州に於て我同胞が昨年十月歸化權を掌握し得たるが如き、眞に加州の同胞をして後へに墮若たらしめた者である。

其詳細の如きは、別に同胞の産業として、之を近刊別纂中に説叙すべきも、今我同胞が勞力供給の範圍として、爰に少しく「テキサス」の梗概を摘記すれば、

先其第一が米作であるのだ。

「ライス」は一般に渠等外人の食卓に上る事、極めて稀有なるが爲に、従て外人に米作は無論幼稚なものである。併し乍ら隣の「ルイジアナ」に、例の「ミスシツビー」の沃流を控へたる、平野千里の「テキサス」は、米作に最も必須なる灌漑の利頗る自由にして、米粒の一箇、長さは實に四分程にも成熟する此地米作の事とて以て優に世界各國の食卓に、一手の供給を爲すに達り得べしとの自信より、米人は茲に世界第一の米食國民たる、我同胞農夫の歡迎より始め、今や壯むに試作が奨励されて居る事實である。

千八百九十九年には十萬弗

宜也。合衆國昨年度の輸出米は、實に三百四十萬弗までの飛躍を果げたのである。尤も之には合衆國の米産地として、布哇、「ポトリコ」、「キユバ」、「ルイジアン」等よりする輸出額が、其大部分を占めて居るのであるが、又以て「テキサ

米粒の長四分

千九百年には五十萬弗

ス」米作が如何に長足の盛況にあるか、分明するのは、則ち單に「キユバ」の多額を以てして、其輸出米額が九十九萬三千弗とあるの一事である。由來合衆國の輸出米額たる、去る千九百年に於ては僅々五十萬弗であつたのだ。其前年たる千八百九十九年度に於ては、猶ほ遙かに下つて、單に十萬弗を輸出したに過ぎなかつたのである。僅々七星霜を以てして十萬弗より三百四十萬弗の輸出米を作りし米人の技倆、此分に推移せば或は渠等の抱負の如くに、所謂世界の食卓に一手の供給者たるの日も餘りに遠き將來では無からう。

昨年度には三百四十萬弗

昨年の産額一千三百九十九萬二千弗

予は之を、合衆國農相「ウ・ルン」の千九百〇五年度年鑑なる物に聴けり。則ち昨千九百〇五年中、米國內に於て費消されたる自國産米の價額は、實に一千〇五十九萬二千弗なりし」と。之を其輸出米額に算入すれば、其處に一千三百九十九萬二千弗、是ぞ合衆國に於ける昨年の米の産額であるのだ。吁々、我「テキサス」の前途豈又多事ならずや。假し多事ならずらむと欲するも、合衆國は加州の

排斥を餘所にして又我労働者の爲に計る、固それ自國米作の爲ならむも、今我同胞の無資力なる、方に起業の基礎として、直ちに之に乗すべき好箇の「チャンス」にあらずして何である。

さればこそ我同胞の「テキサス」にある者、州内「ウェブスター」の成效を初めとして、今や「リップオーク」に於て、大枚六萬弗を抛ち、約一萬二百エークルの購買登記をさへ了したりと言ふに非ずや。而も是れ聊かたりと雖も投機請負等、資本經營の悪性質を帯ぶる事なく、専ら我米作國民の聲價を、所謂米土産業界の信用に維持せむが爲に、之には特に一人四十エークルの耕作を限るの方法を講せられ、以て三百組の家族移住者を我母國へ迎へつゝあると言ふのだ。

二

「ウェブスター」の藤野某を初めとして、「オルデン」の片山某、「エルキャンプ」の新井某、「レッシュード」の溝田某、「ガーウッド」の橋本某等、是皆同胞の成效

記願すべき
藤野木馬

我同胞米作
者の精米會
社關係

家として「テキサス」に其名ある、固より一朝一夕の事にあらず。殊に彼の「マクマール」に岡崎某の成效や、「ルイジアナ」州「ニューオーレシス」地方に大西某の新設計の如き、身一労働者の分際を以て、優に我母國の資本家を顔色なからしむる者である。昨今「テキサス」米作の蜚語聊か渠等の上に及ばざるにあらずるも、奈せむ、我「テキサス」の同胞は事實を以て之を争ひつゝあるのだ。

今や米作者の収入も亦合衆國の富と共に年一年増加の域にあるのだ。現に一昨年迄は我米作者なるもの、白人精米會社より多少の資本を仰ぎ、收穫後其精米を依頼すると同時に其販賣方をも之に附托し、併せて其前借資本を償却しつゝあるに過ぎざりしが、其處に精米會社の無責任は、其米の價に少しの頓着なく之を賣拂ふのみか、一袋に付き四十仙と云へる理由なき賣捌手數料を徴するの例なりし事として、一般米作者の窮迫言はむ方なく、斯くては、斯業の發達進歩上所謂「テキサス」米作の前途に危き形勢をさへ示せしより、漸くにして昨年來之を打破し

得たるの一事、當に我米作者の懐であるのだ。

如何にして之を打破し得たるかに就ては、米作者一同がテキサス米作の消長問題
を理由とし、則ち請願手續を以て其州議會を動かしたのである。其改善の方法
として精米會社の新設されたるを機とし更に之に倣ふて粗米の儘何れへも賣付け
るの方途を講じたのである。其結果渠等白人精米會社をして競争入札の途に出で
しむる様にならしめたのである。由來精米會社の勢力たる、頗る横暴を極め、米
の市價は渠等聯合の意見によりて決定せられ、市場の真相は渠等が利益の爲に如
何様にも變更せられ、果ては精米賃銀引上の方法は渠等の害欲によりて講せられ、
到底米作者自身をして直接市場に之が販路を求むるの道なからしめたるなど、精
米會社の鐵鞭は市場に於ける米作者の獨立行動を禁遏し、我同胞は無論、之には
白人米作者と雖も、殆ど精米會社の遺利に生存し居たるの事實であつた。故ある
かな一昨年までは一袋一弗七十五仙乃至二弗五十仙なりし我同胞の作米。既に昨

市價の真相

年の「テキサス」相場三弗以上五弗迄に今も取引されてあるのだ。

三

地質黒土にして地味膏沃、「テキサス」の地固と米作に適し居るのみか、其處に
は名産として、綿あり、唐黍あり、又野菜の栽培に格別の成績あるが如き、又も
や之に「加州の向ふを張る」との一語を繰返すの已むを得ざるものある也。

又是好箇の
野菜栽培地

西「テキサス」は南「テキサス」と共に、寒暑の區別甚しく、従て農産の利亦餘り
に有望を説くを得ざれども、孤り東「テキサス」の風土に至つては栽培其道に叶は
ざる其地方住民の犁鋤、猶能く多大の收穫あるに徴するも、以て有利の如何を意
ふに餘りあるべく、殊に同地の近狀によれば數十日の早魃にも敢て乾燥の患なき
同農園の特色は、更に數旬の降雨にも聊か濕潤の恐なしとあるが如き、又以て耕
耘の業其手入が如何に容易なるべきか知られるのだ。

加ふるに我同胞の歡迎其極に達し、桑港附近に於ける排斥の聲の如きは夢にも

屋外労働

★
聽かれないのである。是亦我同胞をして安穩に其業に成功せしめつゝある所以であるのだ。勿論、勞銀の如きは加州に及ば無い。而も人間其一生を勞働者として終らざる以上、宜しく「テキサス」を擇ぶべきである。此處にも加州農園の如くに無資本にて事業經營の道が開かれてあるのだ。地所、家屋、薪水、馬匹、種子類、耕作農具一切のそれを給與されて、所謂作半にて、遂に地主となられる道がある。今同農園最近の情報に由り、其作物種類と、一エーカーの收穫産額とを枚擧すれば概ね下の如くである。

- 「キャベージ」、「ビーンズ」、二百〇〇弗乃至三百〇〇弗
- 「ブリス」、「ブラックベリー」、三百〇〇弗乃至五百〇〇弗
- 「アスパラガス」、「ストロベリー」、一百五十弗乃至二百五十弗
- 「一番作」ブテトー、二百〇〇弗乃至二百五十弗
- 「二番作」ブテトー、二百〇〇弗乃至二百五十弗
- 「スウィート、ブテトー」、一百五十弗乃至四百〇〇弗

近刊を参照すべし。

- 「アニアン」、一百五十弗乃至二百〇〇弗
 - 「トマト」、二百〇〇弗乃至四百〇〇弗
 - 「キヤルフラワー」、三百〇〇弗乃至四百〇〇弗
- 如上、猶ほ其の詳細に就ては之を同胞の勞働者が産業の經營として、前にも説へるが如くに別纂に紹介する。

第十節 農園

太平洋沿岸の北米同胞社會に、其基礎を爲して居る者は實に此農園の就働者である。勿論、鐵道に於けるの同胞も其數に於て亦少くは無いが、所謂同胞社會の基礎として見る時に於て「レール、ウオーク」の方は遙かに下るのだ。何となれば渠等に發展の餘地がないからである。

菜園の如き、菓園の如き、廣き意味に於ては皆是農園である。此農園に同胞の

屋外勞働

起業的精神の發揮、今にして既に見るべきもの少からず、何ぞ「テキサス」の成功を夢むるの迫あるものぞ、六萬二千エーカーの耕地、既に業に現實中の現實であるのだ。又之を母國よりの供給に待つ食料雜貨の輸入に見ずや、桑港を初めとして沿岸都市至る處に我同胞の雜貨商、皆是れ農園労働者に仍て其八九分迄は維持されて居るの事實である。

吾人は之を識者の言に聞けり。國民の海外出稼は則ち外資の輸入になる。唯に資本を要せざる勞銀輸入のみを言は無い、其出稼移民の需用する食物、飲料、雜貨、日用必須品等、是等の輸出に由て本國が受くる外資は勿論、又同胞の習俗嗜好の同化力にして、一度び外人を支配するの域に進まば、其輸出品に對する通商貿易額など眞に大したもののである」と。此は是れ今にして稍西部北米の我同胞に下すべき好箇の注意であるのだ。否寧ろ我外務の當路に誨ゆべき鐵案であるのだ。吾人は確に今の渠等が根據經營に少くとも之を見る事が出来る。

太平洋メールの貨物は皆是我在米同胞労働者の食料日用必需品なる也

小作法と我同胞労働者

我同胞の沿岸北米に在るの日、猶ほ未だ幾干もあらざるが故に、其勢力の上よりして、吾人の習俗が外人を同化する程度に達する日は固より近き將來には需むべからざるも、則ち在米の我同胞に依つて其勞銀が我母國に輸送され、又母國をして種々なる食料雜貨を米國へ向け輸出させて居る事丈は、最早動かすべからざる事實である。若其一端を見むと欲せば之を正金銀行に就て聽け、更に驚かむと欲せば、毎週桑港に向ふ太平洋「メール」の貨物に之を見よ、大概は我労働者の生計必需品の輸送であるのだ。此運漕船に對しては別に浦鹽的艦隊の遊弋も無く、從て捕獲される等の事なしに無事に渠等を働かす事が出来るのである。

然らば渠等が沿岸の北米に、我同胞社會の根底として、如何に活動しつゝあるかと言ふに、渠等労働者の發展は既に起業時代にありとさへ傳へられるので、其所謂小作法なるもの、如き、爰に恰好なる適例であるのだ。先づ之を「シユガ一、ピーツ」の小作法に見るに、其小作法は「エーカー」十二弗乃至十四弗にして

それより穫られる「ビーツ」が、毎噸四弗五十仙の物七八噸から三十噸までを限り、
としてある。但し畑の借地料に就ては、總地代の半額を前拂とし、其残額を「ビ
ーツ」の收穫後に計算するのが例である。

猶亦、其耕作しつゝある地所の讓受を目的として、小作を續けつゝある者に就
て説へば、無論此は孰れの種類の小作に限らず、其耕作中の土地を何箇年かの後
に於て、終に讓受けようと言ふのであるから、地代と利息とを則ち年々の收穫で
以て、所謂る濟し崩しにして行くのである。故に其地所が自分の物として、所有
權が其掌に落つる迄には、年々の收益たる殆ど其全部が年賦となるのである。從
て現下の在米同胞は非常なる覺悟の上に、今や活動を續けつゝある者と言はねば
ならない。茲に農作物の種類に就て、我労働者に其方面を區別すれば、大約左の
八種が差當り渠等の勞力範圍である。「ハップ」、「シユガー」、「ビーツ」、「アスバラカ
ス」、「ブテトー」、「スウヒートブテトー」、「グラス」、「バーレー」、「ヘー」、「ウオーク」等、

地代の年賦

先づ其の重なるものであるのだ。

一 ハップ

我日本の朝顔の蔓の如くに延びた、其處に蓄様の新芽を摘採る仕事にして、之
を我國の茶摘などに較ぶれば餘程容易なものである。則ち女小供と雖も此働口に
は耐へられるのだ。恐らく農園勞働中の最も簡單にして勞力も要し無い働 口で
あると、此は渡米案内者の言である。

勿論、收穫の仕事は其處に止まるのだ。而も「ハップ」園に其仕事の種別を擧ぐ
れば、却々に爾くお手輕のもので無い、抑も耕作培養は言ふ迄も無く、恰も櫻
の季節に際して其糸吊り仕事の如き、雜草拔きの如き、敢て過劇と云ふにあらね
ど、足に熱したる土を踏み、頭に天日を頂いて、其勞務に従事するの不容易なる
事無論市内勞働如きの比にあらず。又其季節の如き八月 中旬より九月 中旬迄
とあるは唯夫れ收穫期に過ぎずして、「ハップ」園に我勞働力の供給は、約二ヶ月

位の仕事は春より夏の初にかけて二度も三度もあるのである。

従て其労働賃銀の如き、均しく「ハップ」園の労働と言ても、其仕事の性質に因り、其季節の如何により、固より高低はあるが、殊に著しいのは則ち收穫期に於ける「ピース、ウオーク」であるのだ。「ハップ」摘採高毎一斤約十二仙であるが如何に未熟の者と雖も、一日二三圓を稼ぐには雑作無く、至極手腕の達者なる所謂農園通なる者共は容易に一日八九圓を儲けると言ふのである。但し收穫の仕事たる、荷も其期を違さば腐敗、延過、市況等の關係よりして、非常なる損害あるが故に爾く多数の勞銀を抛つ事を厭はないのである。さればこそ「ハップ」園に其餘の仕事は皆「デー、ウオーク」にして、普通一弗二十五仙位のものである。尤も他に櫻などの如き働口に勞力の吸收甚だしき場合、則ち労働者拂底の時は「ハップ」園の日給額にも例外の賃銀を支拂はれる事多々ありと知るべし。場所は「デヨージメント」、「バカビル」、「コートランド」、「ホイトランド」附近「ド

一日に何程を稼げるのだ

クター」等最も旺なる「ハップ」園地である。殊に「パーキンス」に於ける「メンケ」の「ハップ」園と言へば、例の有名なる「ハップス」王、「エー、メンケ」の一族の事として、其規模の大に先づ何人も其膽を奪はるのである、廣島縣の人川端某之に我労働者を紹介し、其勞銀の支拂に故障を附せられたりと云へるが如き、先づ自己の不明を以て所謂我同胞間に「メンケハップ」園の利を誤りし者である。謂はゞ餘りに大なる渠の經營に其膽を奪はれたるの一例であるのだ。

收穫物たる「ハップ」の用途は、菓子及び「ピア」の原料として其需用甚だ豊富なるが故に、我労働者に於ける此働口の供給亦永く絶ゆるの時なし、其處に我労働者の伶俐なる者漸くに頭を上げて「ボツス」と成り、稍々起業其緒に就きつゝある所以であるのだ。之に働く者の多数は主として眼に二丁字なき労働者であるが、少く眼界の潤けたる我同胞の之に労働するにあらざれば、固より抄々しき成功は見られ無いのである。而も就働中に於ける衣食住の動物に近きを云々し、無耻の

★ 労働者の群に伍して共に天日に焼けるの愚を嗤ふが如き、恐らく渠等に於ける現下の通弊である。

二 シュガー、ビーツ

北米加州に「サンタクララ」の「シュガー、ビーツ」と言へば、一碧唯茫々であるのだ。際涯なき空に連りたる糖蕪園は遠く春の海の如くであるのだ。此所謂我同胞間に大根の仕事なるもの、稼場であるのだ。實に稼場である。是皆我労働者の手に依て之が砂糖の原料となるのである。

吾人は合衆國の富を今此の糖蕪事業の盛大に驚くと同時に、又我労働者が勞力供給の偉大なるに呆れざるを得ない者である。單に是「サンタバーバラ」のみならば兎に角であるが、今や至る所の糖蕪園は皆我労働者の勢力範圍にして、「クラックエット」、「ウォーナックロップ」、「モントレー」、「リバサイド」、「ワッソンビル」、「サリナス」、「アトウォーター」、「オクスナード」等は無論。新園には「ニタ」の如き、

我労働者は俗に之を大根畑と云ふ

日本人がツスの競争契約は益々其勞銀を引下ぐるの結果白人労働者をして遂に排斥を叫びしむるに至る

「アイダホ」の如き、又た「モデスト」の新園に皆部某の如き木本某の如き、此等は皆三四月頃から凡そ十一月までを、渠等が粒々の辛楚、或は勞銀として、或は小作收益として、年々幾十萬の外資は實に其母國日本を濕ふしつゝあるのだ。之をしも偉大と言はずして何である。

而も之に甚だ寒心すべき點を擧ぐれば、此働口に對して毎人夫の受負をする日本人「ボツス」なる者其の盲目であるのだ。惡徳周旋屋乃至旅館業者のお先に使はれて、我労働者の膏汗に衣食しつゝある渠等が、或は労働者の募集に、或は働口の競争契約に相互相闘ぐの陋態は實に言語の限りであるのだ。衆愚中固より一人として之に満全の長計を念ふ者無く、同胞労働者乃至己が事業の利益を永遠に保護する者としては皆無であるのだ。

唯夫れ眼前の欲に驅られて、人夫へ拂渡すべき少許の纏りたる勞銀を見れば、直ちに自己多年の信用を犠牲にし兼ねないのである。之を持逃げするは尙可也。

★ 屋外労働

平均であるのだ。

加州に九個の會社ありて、日々の捏高が二萬一千噸である。

「ミチガン」州に、二十二の會社

一萬五千七百噸

「コロラド」州に、八箇の會社

六千九百噸

「ユータ」、六箇會社

三千一百五十噸

「ワシントン」、一箇

五百五十噸

「オレゴン」、一箇

七百五十噸

「ウヒスコンシン」、一箇

八百噸

「オハイオ」州、一箇

六百五十噸

「ミチソタ」、一箇

四百五十噸

「ネブラスカ」、三箇

一千五百噸

紐育州、二箇

一千六百噸

米國は一日にて五萬八千一百噸の大根をつぶす。それは砂糖に製されるのだ。

「ガアドナア」、一箇

一千五百噸

「オンタリオ」、一箇

六百噸

「アイダホ」、一箇

八百噸

計五萬八千一百噸の「ビーツ」が北米大陸では、日々に砂糖として製造されつゝあるのである。故に依然として舊態を改めざる甘蔗糖の如きは今や殆ど顔色なき程に其勢力を削がれ、其傾域を侵されつゝあるの事實だ。又以て今後に於ける我同胞の勢力範圍萬歳を稱へざるを得ざる譯である。

英領加奈太に四箇の「ビーツ」會社あれど毎日「ユータ」州と同額の間にあるのである。之は數外である。勿論合衆國の富に關係なしと雖も、又我同胞の勢力には關係ありと知るべきか。因に記す、一噸は我二百七十二貫三百八十四匁なりと豫め記憶するの必要あり。

三 アスバラカス

屋外労働

我同胞労働者近年の新起業

★ 數年前に於ける此働口は、餘りに我同胞の注意を惹かなかつたが、今や新園の勃興年二年に太しく、現に「ウオーナックコープ」、「アイルトン」方面にかけては其面積幾千「エークル」なるやを直ちに計るに困難である位だ。「スタクトン」附近にも二三千「エークル」は我同胞の起業せるものあるのみか、例の「ツラスカ」に佐藤某の經營は言ふまでも無く、在來の箇所に言へば「アラメダ」附近に此仕事の豊富なる、我伐木業受負者をして近年恐慌を起さしむるが如き誠に偶然では無いのである。

一日二四七十錢

又此働口に於ける賃銀の如き年々に増加しつつあるのだ。其初め一日約二圓位なりしもの、年々労働者排底の爲め一日約二圓七十錢、此は昨年の相場であるのだ。季節も又殆ど年中通じて此園に限り何事かの仕事がある。而も尤も賃銀の高きは其「ホーイング」を爲すの時であるのだ。仕事の區別、及び其方法、勞力の程度等、餘りに「ビーツ」園と大差なく、之に

最も安全なる經營

★ 就働者の種類も亦た通じて純粹の労働者が其大半を占めて居るの事實である。衣食住は無論、其他就働中の生活状態亦「ビーツ」園に均し。

四 プテト

一億三千八百萬弗。此は昨千九百〇五年度に於ける合衆國の馬鈴薯産額であるのだ。而して我加州は實に其首位を占めて居ると云ふのは、單獨に四千七百萬弗を産するのだ。故ある也、之を我同胞のみの經營に見よ。

「サクラメント」の「ヨーロー」界隈と言へば、其地方一圓重なる耕作物は則ち此馬鈴薯である。之に成功しつつある我同胞は年々四五十萬弗の收穫を白人の市場に供給しつつあるのだ。之には根底堅き労働者もありて、又た文字ある就働者甚だ少からず。傍ら豚など飼養して、其「キャンブ」の様宛然我國の大百姓家の如く、如何にしても一介の出稼労働者の經營とは見られない位である。收穫物たる「プテト」の用途は説ふまでも無く、外人の食卓に一日も、否寧ろ

三度の「ミール」に缺くべからざる必需品として、怖らく牛肉より第二位である。それは固と糲蟲の發生を防止すと言へる迷信より、斯くは弘く食はれる様になつたのだとあるが、兎に角に用ひ慣れては、之なくて牛肉に牛肉の味が無い様な氣がすると言ふ事である。

一日二圓五
十錢

「スタクドン」附近一圓亦固より其名産地であるが、今は「コルサ」にも我同胞によりて盛に栽培され、其勞銀の如き益々好望である。一日約二圓五十錢以上である。其季節により他の收益ある農園仕事と撞着したる場合などの如き、三圓を支給しても之に應募者の無い場合があるのだ。

就働中の衣食住に就ては既に前にも説へるが如くに、屋外勞働中最も自由多き生活が出来る。如斯は聊か他の働口に比して、稍々骨の折れる事の代償であるのだ。此働口に限り「ポツス」も餘りに不徳の跡を現はさないのは、其經營が則ち一時的のもので無いからである。

一日三圓を
得らる

五 スウヒート、ブテト

「モーデスト」を距る約三十哩、其處に「アトウォーター」と言ふがある。所謂茫漠たる「サンノーキン、ヅァレイ」の小「タウン」であるのだ。而も我同胞勞働者の此處に在住する者約一百、多數は「スウヒート、ブテト」の耕作者である。

勞銀は就も三圓以上にして、壯むに同胞耕作者の永住を堅めつゝある。日本人「ポツス」に横野某あり、多年白人資本家よりの信用を博し、從て此地に我勞働者の歓迎は又實に身加州にあるを忘れるの感があると言ふ事である。附近一帯の地質固より「スウヒート、ブテト」の耕作に適し、其「キャンプ」には多少の學識ある農業實地研究者もあるなど、我同胞の發展地として却々に好望なる土地である。其耕作收穫等の方法に就ては、勿論、「ポテト」園と異なる事なく、用途は白人の食卓に上る事稀なるの外、別に取りたて、説く事も無い、衣食住に於けるの生活状態亦同一であるのだ。

六 グラス

一日二四五
十銭の勞銀

爰に所謂「グラス」此は芝草の意味である。是固より「デイウオーク」であるが、賃銀一日二圓五十銭内外である割合には、甚だ其仕事が容易である。之には一定の場所を示す能はずと雖も、大抵、鐵道の新たに布設されたる處、又は大なる第宅等其他工事のある處には必ず此仕事は伴ふのである。則ち盛り上げたる土の崩れ落ちざる様將た體裁風致の爲め等に、此芝草が植付られる事、我日本のもと同様であるのだ。而も其芝草に至りては、我日本のもと同様に類を異にして居る。則ち我國の芝草の様に上等なる物では無い、唯夫れが似て居るのだ。其何處かに得たる芝草様の根を、約二寸程宛に切りて、畝を立て、凡一尺毎に一本宛を埋植へするのである。

從て此仕事には、原料を採集する者、畝を立てる者、芝草を剪刀にて切り揃へる者、埋植する者等各自分業を以てするので、中には非常に呑氣な遊びで居るよ
うな役目がある。それは切り揃へる者であるのだ。其一日を坐り込む儘、人の仕事をその見ながら、それが一日二圓五十銭の働口とは眞に馬鹿々々しい位であるのだ。「キャンプ」の模様別に他の農園労働と大差なし。

七 バレー

此は無論種子卸し其他耕耘の方法、收穫と共に所謂器械耕作の事として、専ら白人労働者の勞力範圍であるのだ。而も其手傳的の仕事たる、「サツク」集め、束直し等、收穫の季に際して我労働者を需用する事もあると言ふ位に過ぎないのである。
少きも六頭乃至八頭、多きは十二頭以上の馬匹を二列にして、一臺の收穫馬車を畑の一方より軋らすれば、黄金波打つ千里の麥は唯一日にして平原となるのだ。之に人力を用ひむか、如何に多大の人数を要するも、必ず一方を刈る中に他の一方は腐るのである。我同胞労働者は收穫馬車の器械により投落されたる、麥の穂

屋外労働

入りの袋と、麥稈の束とを、「ワゴン」にて後より拾ひ集むる役目であるのだ。それも甚だ稀れである。

労働賃銀は他の働口に比し、少しく高値なりと雖も、稍々骨の折れる仕事である。其他、別に説く可き必要の事柄なし。場所は加州の野皆それである。

八 へー、ウオーク

馬糧となる可き此の收穫物は、又加州至る處の平野に作られるのではあるが、就中、我同胞の努力範圍は則ち例の「モデスト」が中心であるのだ。

仕事と言ふは、收穫すべき「へー」の始末をするのである。唯見る茫たる平野、焼くが如き天日の下、「フオーク」を以て腕力にあまる「へー」束の上げ下ろし、それは唯に車の上であるが却々に耐へられ無いとある。

労働賃銀は固より一日四圓以上にして、「キャンブ」の生活亦頗る慘憺たるものであるとの事だ。

一日二圓五
六七十錢

一日四圓以
上

之を要するに、先づ農園の労働と言つても大抵は如上の之れに盡きたのだ。但し八種に區別はせしもの、多くは、「ハツブ」、「ピーツ」、「ポテト」、「アスパラカス」等が、所謂努力を我同胞にまつ底の仕事にして、我同胞社會を濕すに足るだけの働口と言ては、大約右の三四種を出で無いのである。

第十一節 菜園

前節にも説きしが如くに、廣き意味に於ては是亦農園の一部分に過ぎ無いのである。而も特に菜園として之に區別するのは、唯だそれ讀者の記憶に明瞭なる印象を與へむが爲めのみであるのだ。

従て前節農園の部に説き残せし、所謂小作法の種類を之に云へば、則ち收穫の折半法と言ふのがある。此は我日本に行はれる謂は、作半の意義である。土地及び農具、其他耕作栽培用途の都の一切を地主なる者より支給され、小作人の方

屋外労働

では其耕作、收穫並びに之に要する人夫乃至其勞働賃銀等の都てを負擔して、其處に所得を四分六分とか、將た折半と云へるが如くに契約するのが本節に所謂菜園の經營である。

但し如何なる場合にも、地主より小作人の收益多きが如きは、稍々日本の作半などに見られ無い例である。是我母國勞働者の心すべき事であらねばならないのである。

一 ビー

其用途餘りに廣からざる丈に、我勞力の範圍亦甚だ狭し。而も「アラメダ」附近其一圃は主産地として、收穫の季節には少しく農園の景氣を賑はすのは方に事實である。

「ビー」にも勿論耕作栽培等の手入れはあるが、重に我勞働者を要するは其摘採仕事である。それは青い中に、成熟せざるに先ちて收穫するの必要があるからである。

青い中に食はれる

是亦た一日四圓

我日本に豌豆は青い中に料理されるは稀有であるが、渠等外人の食卓には絶へて成熟したる豌豆を用ひないのだ。
勞銀は「ピース、ツオーク」なる事勿論である。一日三百斤乃至四百斤は容易に摘採する事が出来る。毎百斤六十五仙宛と見たならば大丈夫である。如何に年々の賃銀に差違あるにしても、優に一日四圓以上の勞銀を得られる譯である。

二 ビンズ

「コートランド」附近一圃、「サンジョーゼ」、「アルビン」、「コルサ」等に於ける八九月頃の菜園は、唯是「ビーンズ」勞働者の爲に、幾多の「ボツス」其收穫の後る事なからむ事を氣遣ひ、手近の「セチー」或は「タウン」に東奔西走の狂狀、一日三圃は四圓を支給しても應募者の一人をも得ざるが如き、先づ我日本に想像の出來ない現象である。勿論、昨今は我勞働者拂底の爲に、「メキシカン」、「イタリアン」、「スバニッシュ」等を備役するの日本人「ボツス」ありと雖も、之は單に「ブ

一日三四圓

我同胞勞働者拂底の爲にメキシカン、イタリアン等を補役するの傾向あり

屋外勞働

ルニング」、「ホーニング」、「シンニング」等の働口のみにして、唯だ此收穫期の匆忙には間に合は無いと云ふ事である。

用途は専ら「スーブ」用にして、青いのが珍重される點よりして、之も豌豆の如くに未だ熟さるるに先つて收穫されるのだ。又其青味を保存せむが爲に罐詰に製されるのである。而も一方には成熟をして食卓に上されるものもあるのだ。其他都て「ビー」の働口に相違ある事なし。

三 アニオン

「アニオン」は専ら、「サンジョーゼ」、「アルピソ」、「サクラメント」附近一帯の菜園に栽培されるの外、又大抵は至る處に作られるのであるが、却々に小企業の經營には有望なる作物であると言ふのだ。而も之れは自分が獨立に事業として話柄なる事無論である。

此も又た遠隔の地の需用に應せむが爲に、將た規模の擴張を圖らむが爲に、

我大學生の働口として有名也

勞銀約二圓四五十錢

壯むに罐詰として造られる。勞働賃銀は夏期休業を利用して、之に投ずる學生如きの満足を估ふ位が最もの高値であるのだ。従て又體力の必要ある事なし。

因に記す。加州の州立大學にある我同胞學生は、此等の働口によりて、教科用書籍は言ふに及ばず、其参考書如き迄をも購ひつゝあるのだ。夏の膏ら汗を冬に讀むなど、一寸珍らしい苦學法である。由來州立大學の我苦學生は「スタンフォード」の夫れに比して此等の特色は有つて居るが、渠等が餘りに米化するの缺點は又一面には確かに墮落を作りつゝあるが如き、是又た「スタンフォード」に見られ無い損失である。

四 ウェルッシュ、アニオン

此も亦た玉葱と共に栽培されるの例である。別に體力を要しない點よりして其收穫期には市内勞働者の之に赴く者が頗る多い様である。謂はゞ夏期の田園に一年の健康を養はむが爲であるのだ。

用途は無論「アニオン」と異なる事なしと雖も、主として「スープ」に用ひられるのである。従て青葱の青葱たる所以を失はざらしめむが爲に、則ち鑑詰として廣く一般の需用に俟つの有様だ。但し鑑詰に製されたる者に限りては「ビーフステツキ」などの「ツマ」にはなら無い、單に「スープ」用であるのだ。故に之は遠洋航海乃至野菜不適地へ供給するのが其重なるものである。

場所本場の「アルピン」を以て最も盛なる栽培地としてある。就働中の衣食住、季節、勞銀、栽培方法等又皆「アニオン」と等差ある事なき也。

五 キヤルフラワー

花と言はむよりは、新芽であるのだ。否、蕾である。凡そ小兒の頭大に塊りたる菜の花の蕾であるのだ。湯掻きにして食卓に上すのであるから、勿論、其の收穫に際しては全形を害はざる様に摘むのである。従て其勞働者の需用は割合に多い、而も期間の短いのは缺點である。

一日の勞銀
約三圓

場所は何處にもある、勞銀、季節等皆説明するまでもなく他の菜園と大同小異であるのだ。

六 バーススイ

我國に和蘭芹なる物之である。あまりに多くは見ないが此は寧ろ其軸を食ふのである。否寧ろ其香氣を食卓に上すのである。勞銀、季節、場所等之皆均し。

七 サラダ

橄欖油をかけて食卓に上さるゝ物則ち之である。

八 レツチユース

醋を以て食はれる物之である。前項と共に我勞力の供給 太少也

九 キヤベージ

「ブテト」に次で渠等の食卓の原料は則ち之であるのだ。従て我同胞の之が栽培に従事する者「インペリアルヴァレイ」に於て多々あるのだ。

以下七八項
と共に我勞
力の供給太
少矣

十 トマト

俗に赤茄子と言ふと雖も、形は宛ら柿である。其熟せし時に於て又酷だ柿に似て居る。而も其異なるのは甘味の點である。甘味の點に於ては寧ろ「ボンキン」であるのだ。又柿よりも眞紅に成熟する、此點に於ては唐辛子の様に赤い。

或は「ソース」に造られ、又は焼肉の「ツマ」となるのだ。之なくては肉に肉の味が無いと云ふのである。故に之も又罐詰用として多大に作られる。其處に我同胞勞力の供給、則ち「スタクトン」に於て、「アラメダ」に於て、「ヘーワード」に於て、或は草取り仕事、或は摘取仕事など毎年六七八月に於ける其附近一帶農園の景氣を説へば、恰も「トマト」の色の如くに眞に怖ろしい勢である。

從て其勞銀又甚だ廉ならず、他は他の菜園情況に均し。

十一 ルバーブ

主として我同胞の勞力は、二三月頃アラメダ、アルバラード附近に於て需用さ

少くも一日に三回以上

以下十九項に至る迄勞銀同上大差なし

れるのだ。此は其莖が食卓に上されるので、則ち藥用に資せらるべき其根と切放す仕事である。此外一切勞銀等の如き無論他菜園同様である。

十二 キュカムパー

徑八分位の時に醋に浸され、一寸五分位の時に至つて鹽漬にされる。但し我國の鹽漬と異り、頗る珍味である。共に焼肉の「ツマ」であるのだ。則ち我日本の物の如くに成熟したる物は一切渠等の食卓には用ひ無い様である。故に其處に我勞力の範圍甚だ狭小である。

勞銀、期節、場所等「トマト」に同一である。

十三 キャロット

之亦青葱の如くに單に「スープ」用の野菜である。

十四 スキヤレットラヂシユ

湯掻きにして食卓に上される。美味は兎に角、以て食卓を飾るに足るのだ。

屋外労働

★
十五 ウィンターラッシュ
則ち單に「スープ」用に止まる。

十六 ターニップ

重に「ロース」物の「サイド」に供されるのだ。如上「キャロット」以下孰れも小さくして若さを賞美され、我日本に用ひられる様な野菜料理は渠等の食卓には見られない。唯夫れ肉の「ツマ」である。故に之には我同胞勞力の範圍固より爰に働口として紹介すべきでも無いが、又我労働者の企業として、現に成功しつつある其成績の爲に予は之をお留守にするに忍びないのである。

十七 コーン

此働口に從事して居る者は甚だ稀である。而も全然無いては無い、南加「フロレー」に於て我同胞山田某の新起業があるのだ。

十八 マスクメロン

之は恰も芭蕉の實の用途に於けるが如くに、則ち生の儘を牛乳に浸して食はれるのである。

十九 ワーターメロン

食後の卓上に「チー、スプーン」を以て美人の口に入るのだ。而も其畑にある物は我労働者の鐵拳を以て破壊され、葡萄「タイム」の炎天に其渴を醫するの料となると言ふ事である。而も其美味によりて屢々其健康を害はるゝ者毎夏に絶へず。「フレスノ」、「ローダイ」等に赴く者の豫め記憶すべき事である。

二十 グレープ

世界の需用に對して其名高き「フレスノ」の干葡萄と云へば、實に南加州に於ける我労働者の丹青なるものにして、例の「シーズン」を以て「フレスノ」市を賑はす、一番葡萄、二番葡萄、三番葡萄のそれ等は、唯單に收穫期の仕事であるのだ。其收穫に至る迄の仕事が又一通りではない、春より夏、夏より秋の殆ど一年は

前十一項より本項に至る際我勞力範圍以外

★ 漁場以上の景氣

★ 聽て我同胞勞力の一半は此處に吸收され了るのだ。而も收穫期と言へば約八月中旬頃から、九月、十月、十一月迄にも跨るので、其附近一圓の景氣と言つたら宛然漁場を凌ぐの觀があるのだ。尤も「サクラメン」一帯に「ナトマ」「サンタクロー」等を中心として、多少は葡萄園の見られるものありと雖も、到底「フレスノ」一圓と同日の談で無いのである。

場所は一

「バイナ」此も主産地であるが、今日では「メーヒューズ」、「ローダイ」、「ペーガ」スフヒルド、「アカンボ」等至る所に栽培されるので、其何れが主産地なるか、近き將來に於ては「フレスノ」葡萄の名太だ紛らはしき盛域に達する事、既に今を以て争ふべからざる状態にあるのだ。而も目下の處、收穫に際し一圓三百人以上を備役する箇所を擧ぐれば、「フレスノ」を指して他に多くは無ないのである。

賃銀は例の所謂「ピースウォーク」にして、決して「デイウォーク」を許さない。それは急ぐからである。其處に摘板と言ふのが在て之が賃銀の標準となるのだ。

二仙五厘
三仙四仙

則ち畝の間に豫め用意されてある我壘一枚大の物にして、之に摘採りし葡萄の房を並べ布くのである。勿論、場合の如何により其相場は相違すと雖も、概して其板一面に摘並べたる勞銀が米貨の二仙五厘を以て勘定されるのが年々の例である。但し摘板一枚の賃銀として三仙は四仙でも支給するの例外もあるのだ。夫は賃銀の高下の爲に一圓幾萬弗の葡萄を腐敗せしむるが如きは、懼く何人も能くし得ない處であるからだ。

故に如何に未熟なる腕前でも一日八九十枚を摘む事は、別に不易なるの事に非ず、則ち我四圓内外は保險附であるのだ。既に經驗もあり、少しく巧者なる手合にもなれば、其摘並方からして頗る工夫があると云ふので、一日少くとも二百枚乃至二百五十枚迄を摘並ぶるのである。會々非凡なる手腕に至つては實に一日三百枚以上となるのだ。今之を最低額たる米貨二仙五厘の板によりて算するも之は正に七弗五十仙である。一日十時間の七弗五十仙！七弗五十仙は邦貨の十五圓

幾許の勞銀を得られるのである

★ 屋外労働

一日四圓内
外と十五圓
以上

以上であるのだ。而も一日の十時間なるものは依然として我十時間である。勿論
時間に換算ある事なければ也。記憶せずや、一日十時間を以てして十五圓以上の
労働賃銀なる物が、今も昔も、東も西も、何處に「ソナナ」事が流行るのだ。兎も
角く現場に就かざれば信じ難き事實であるのだ。

惜むべし。それが一番葡萄を以てして僅に約三週間位であるのだ。二番の如
き三番の如き引續き其「シーズン」の中にありとは云へ、之は各々二週間位なるの
みか、一番、二番、三番など其間か途切れるのである。加ふるに二番三番の如き
最早葡萄が充分に其蔓に付いて居ない爲めに、所謂手腕家を以てするも一日二百
枚は愚百五十枚も摘得られ無いので、渠等の多數は單に一番葡萄のみを以て「フ
レスノ」を辭し去る者が頻々として相繼ぐの事實である。

則ち二番、三番の如きは見捨てるのだ。夫は此「フレスノ」を初めとして多くの
葡萄園地なるもの、此働きの性質を見込みに物價諸式の總てが急激に暴騰するの
である。無論労働者にとりては馬鹿々々しき程の高給銀故、少しは散財も生命の
洗濯なるべき筈なるに、渠等の多數は能く其短時日間の労働なる事を自覺して、
其收支を考へ、匆々に其處を辭する譯である。尤も中には這般の自覺出來ずして、
三週間の労働百弗を、二番葡萄が初まらない前に「薩張り」と叩き上る手合もある
との事である。

既に前にも説へるが如く、如上は唯に收穫期のみに於ける事柄なりと雖も、之
に其以外の労働を言へば、葡萄の蔓に實がなる迄の栽培耕作は言ふに及ばず、先
づ市に出して生の儘を食卓に供する物、干葡萄と爲す物、「ワイン」に醸造される
物など、其の目的の如何により、此葡萄に就ては太だ仕事の種類が豊富であるの
だ。曰く摘取り、曰く箱詰、或は乾し方、核抜仕事など我勞力に因て成功しつ
つある。西部北米の葡萄園は、今後と雖も多々益々我同胞に自家の發展を期待しつ
つあるの事實である。

收穫以外の
仕事

屋外労働